

青森県立美術館

年報

平成25年度

目次

青森県立美術館の沿革

展覧会

006 企画展

032 常設展

学芸

042 美術資料収集

043 美術資料貸出状況

045 作品保存修復

教育普及

048 普及プログラム

051 スクールプログラム

053 サポートスタッフ

054 メンバーシッププログラム

パフォーマンスアート

058 演劇

065 ダンス

067 音楽

071 映画

サービス等

076 貸館

078 図書室

079 キッズルーム・フリーアトリエ

080 博物館実習

資料

084 広報

085 広聴

086 入館者数

087 運営予算・決算

088 組織

089 関係規程等

093 施設設備概要

青森県立美術館の沿革

1990年3月	美術館の設置について検討を開始することを表明
1991年1月	美術館、音楽・演劇ホール等の複合文化ゾーンである「総合芸術パーク」の検討開始
1996年2月	総合芸術パークの建設場所を三内丸山遺跡に隣接した移転予定の総合運動公園跡地に決定 総合芸術パークの核となる美術館を先行し整備することが決定
1999年度	美術館設計競技を実施、最優秀者に青木淳氏
2000年度	建築基本設計
2001年度	建築実施設計
2002年度	美術館建築工事着工
2003年度	別棟で建築予定であったアトリエとレジデンスを休止、同じく別棟で建築予定であったレストラン、ミュージアムショップを美術館本体に組み込むなどの見直しを行う
2005年9月20日	美術館竣工
2006年3月17日	「運営諮問会議」設置
2006年4月1日	青森県立美術館開館準備室設置
2006年10月17日	「青森県立美術館条例」制定
2006年6月13日	開館プレス発表開催
2006年7月13日	開館（館長 三村 申吾）
2007年7月24日	博物館法に基づく博物館相当施設登録（青森県教育委員会告示第11号）
2007年9月13日	「県民のための美術館づくり懇話会」設置
2008年7月19日	あおり犬屋外連絡通路開通
2008年7月20日	青森県立美術館2周年記念シンポジウム開催
2009年1月1日	新館長 鷹山ひばり 就任
2010年5月7日	入館者150万人達成
2010年7月8日	あおり犬えさ皿完成
2011年7月11日	入館者200万人達成
2011年7月13日	開館5周年
2012年11月14日	入館者250万人達成
2013年11月14日	入館者300万人達成

展覧会

企画展

種差展

横尾忠則展

日本の民家展

常設展

第1期-第4期

青森 EARTH

凡例

- 1 出品作品の項は、出品番号、作家・作品名、制作年、材質技法、寸法（高さ×縦×横、cm）、所蔵先の順に記した。
- 2 掲載記事は新聞記事のみを記載している。

三陸復興国立公園指定記念 「種差 —よみがえれ 浜の記憶」

開催概要

会期：2013年7月6日（土）－9月1日（日）

開催日数：57日間

主催：種差実行委員会（青森県立美術館、八戸市、NHK青森放送局、デーリー東北新聞社、公益社団法人八戸観光コンベンション協会、種差観光協会、公益社団法人青森県観光連盟）

特別協賛：青森トヨペット株式会社、株式会社トヨタレンタリース青森

協賛：富士フィルムイメージングシステムズ株式会社、三菱製紙株式会社八戸工場

特別協力：ブリティッシュ・カウンスル

協力：環境省東北地方環境事務所、青い森鉄道株式会社、八戸市美術館

学術協力：八戸工業大学、八戸クリニック街かどミュージアム
助成：グレイトブリテン・ササカワ財団、公益財団法人花王芸術・科学財団、公益財団法人アサヒグループ芸術文化財団

後援：青森県教育委員会、八戸市教育委員会、階上町、階上町教育委員会、東日本旅客鉄道株式会社盛岡支社、JRバス東北株式会社、南部バス株式会社、十和田観光電鉄株式会社、三陸鉄道株式会社、岩手県交通株式会社

観覧料：一般 1,000（800）円、高大生 600（500）円、

小中生 「夏休み子ども美術館デイ」により無料

※（ ）内は前売及び20名以上の団体料金

入者数

16,807人

関連企画

（1）アーティストトーク

本展参加作家のリチャード・ロング氏が、これまでの活動や作品について語った。

日時：7月6日（土）13:30－14:30（開場 13:00）

会場：青森県立美術館シアター

参加者数：130人

（2）レクチャー「吉田初三郎の表現 鳥瞰図を楽しもう」

国内最大級の吉田初三郎コレクションを誇る、八戸クリニック街かどミュージアムの研究員小倉学氏が、スライドによるレクチャーと展示室でのトークを行いながら、鳥瞰図の魅力について語った。

展示室では、屏風に描かれた鳥瞰図を前に、吉田初三郎がよ

り立体的に見えるよう、どのような工夫をして描いたかについて語り、参加者は鳥瞰図の鑑賞方法などに興味深く耳を傾けていた。

講師：小倉学氏（八戸クリニック街かどミュージアム研究員）

日時：第1回 7月27日（土）13:30－15:30

第2回 7月28日（日）13:30－15:30

会場：青森県立美術館ワークショップB、企画展示室

参加者数：25人

（3）ワークショップ「吉田初三郎の表現 鳥瞰図を描こう」

参加者が、夏休みに遠方の親せきや友達などを招くことを想定して、デフォルメした鳥瞰図による招待状を作成した。

参加者は、それぞれ招待状を出す人を思い浮かべながら、紹介したい場所なども書き込むなど真剣に鳥瞰図を作成した。

講師：小倉学氏（八戸クリニック街かどミュージアム研究員）

日時：6月29日（土）13:30－15:30

会場：青森県立美術館ワークショップA

参加者数：15人

（4）「道」作品コンクール

本展覧会で展示された東山魁夷の代表作「道」にちなみ、「道」をテーマとした絵画、版画、写真の作品コンクールを実施したところ、各部門とも県内外から多数応募があった。応募作品は審査後、全作品をコミュニティギャラリーに展示し、その会場において、表彰式を行い参加した受賞者一人ひとりに表彰状を授与した。

〈応募状況〉

募集期間：4月8日（月）－6月30日（日）

応募数：593点

絵画 567点（小学生 303点、中学生 230点、高校生 34点）

版画 8点（中学生 8点）

写真 18点（中学生 1点、高校生 9点、一般 8点）

〈審査〉

日時：7月3日（水）－4日（木）

審査員：

絵画・版画 伊藤二子氏（画家）、久保田恭子氏（画家・東山魁夷記念館職員）、戸村茂樹氏（版画家）

写真 芦名公雄氏（青森県写真連盟会長）、笹岡啓子氏（写真家）

〈展示〉

期間：7月19日（金）－21日（日）

会場：青森県立美術館コミュニティギャラリー

入場者数：388人

〈表彰〉

日時：7月20日（土）13:00－

会場：青森県立美術館コミュニティギャラリー

参加者数：104人

（5）県美土曜ゼミ「種差展への思い」

担当学芸員が、本展開催のきっかけのほか、そこに暮らす人々の生活文化や自然など、種差の魅力を交えながら、本展にかけの思いを語った。

日時：7月13日（土）13:30－15:00

場所：青森県立美術館シアター

参加者数：95人

（6）親子ギャラリーツアー「種差展を楽しむ」

種差展を親子で対話しながら鑑賞する親子ギャラリーツアーを行った。

日時：7月20日（土）－28日（日）1日2回

第1回 11:00－11:40、第2回 14:00－14:40

参加者数：51人（大人20人、子ども31人）

（7）なりきりワークショップ「吉田初三郎になりきる」

奇数月の第3土曜日に開催する、開催中の展覧会に合わせて作家などの誰か関連する人になりきりながら、何かを体験したり創作したりするワークショップ。

今回は、種差展にあわせて“大正の広重”と呼ばれた鳥瞰図師・吉田初三郎になりきって鳥瞰図を制作した。参加者は、それぞれ描きたい地域の鳥瞰図を参考にしながら「遠くに住む友人や親戚を自宅に招待するための招待状」をイメージしながらオリジナルの鳥瞰図を完成させた。初三郎のデフォルメの難しさを実感していた。

日時：7月20日（土）13:30－16:30

場所：青森県立美術館ワークショップA

参加者数：7人

（8）写真ワークショップ「浜の記憶を見つけにいこう！」

写真家の笹岡啓子氏と一緒に種差海岸を散策し、「浜の記憶」を見つけ写真におさめるワークショップを開催した。

参加者は青森からバスで種差海岸へ向かい、八戸集合組と葦毛崎展望台で合流。葦毛崎展望台から大須賀海岸までと、深久保漁港からレストハウスたねさしまでの約2kmを散策しながら写真撮影を行い、その後レストハウスたねさしにおいて、参加者が厳選した写真をモニターに映しながら、笹岡氏と柳沢卓美氏のお話とともに鑑賞しあった。

日時：8月10日（土）

場所：種差海岸、レストハウスたねさし

講師：笹岡啓子氏（写真家）、柳沢卓美氏（種差観光協会会長）

参加者数：27人（青森集合12人、八戸集合15人）

（9）パフォーミングアーツ

八戸市を拠点に活動しているパフォーマンスグループ、豊島重

之+モレキュラーシアターが、「種差とカフカス（コーカサス）」をテーマとした「カフカス Kavkaz—『プロメテの火』から」を上演した。

日時：第1回 8月24日（土）18:00－18:50

第2回 8月25日（日）14:00－14:50

会場：青森県立美術館シアター

入場者数：137人（第1回58人、第2回79人／席数80席）

展覧会カタログ

仕様：26mm×185mm×25mm 6分冊収録

収録内容：

Book 1 笹岡啓子 TANESASHI

Book 2 浜の古層 | 海からのめぐみと脅威

Book 3 吉田初三郎と種差

Book 4 東山魁夷と種差

Book 5 リチャード・ロング、種差を歩く

Book 6 種差 | よみがえれ 浜の記憶

企画・構成：青森県立美術館（高橋しげみ＋工藤健志＋高橋洋介）

編集：境洋人

デザイン：森大志郎

執筆：倉石信乃、笹岡啓子、飯田高誉、高橋しげみ

発行：株式会社金入（青森県八戸市卸センター2-4-12）



ポスター



展示風景

2013年5月、「三陸復興国立公園」に指定された青森県八戸市の種差海岸は、画家や小説家、詩人など多くの芸術家をひきつけてきた名勝地である。この展覧会は、縄文時代の遺物から、現代美術家の作品まで、時代やジャンルを横断する資料や作品約120点を、種差という一つの場所を通じて共振させながら、そこに潜む記憶を呼び覚まし、この場所の未来について考えることをねらいとした。

縄文時代の出土品や近世の沿岸防備の絵地図、仏像等、この土地に残る文化財は、海から恵みを受ると共に脅威にもさらされてきた浜の歴史を伝えるものであった。また、太平洋戦争を挟む前後の時代、この土地と関わった鳥瞰図絵師・吉田初三郎と日本画家・東山魁夷という二人の作品からは、近代が抱える矛盾の中で独自の表現を追求する芸術家の格闘の様を浮かび上がらせた。そして、二人の現代アーティスト、写真家の笹岡啓子とイギリスを代表する美術家のリチャード・ロング。種差の地で、そこに眠る記憶との対話から生み出された彼らの作品は、縄文の時代から続いてきた基本的な人の営みやそれを包

み込む大なる自然のサイクルを指し示すことで、未来への展望を切り拓くものであった。

種差海岸の地元である八戸の人々から展覧会を観覧後、「種差の魅力を再発見した」、という声も多く聞かれ、自らの生きる土地に対する誇りの醸成に寄与できた。東日本大震災から丸二年がすぎ、すでに薄れ始めている震災の記憶を、人間と自然の関係性を問うこの展覧会を通じて、生産的な形で人々の中につなぎとめることができた。

出品作品

浜の古層 | 海からのめぐみと脅威

001 燕島遺跡	004 e 土器 縄文時代前期 高さ 31.0 八戸市埋蔵文化財センター是川縄文館	青森県埋蔵文化財調査センター	紙本金地着色 四曲一隻 170.0 × 360.0 上杉雪子
001 a 尖底深鉢形土器片 縄文時代早期 八戸市博物館 (音喜多コレクション)	004 f 土器 縄文時代前期 高さ 32.0 八戸市埋蔵文化財センター是川縄文館	006 藤沢 (1) 遺跡 石鍾 縄文早期 青森県埋蔵文化財調査センター	014 作者不詳 船絵馬「カッコ船難船図」 1909 板絵着色 50.8 × 81.0 種差熊野神社
001 b 石器 縄文時代 八戸市博物館 (音喜多コレクション)	004 g ウニ棘、魚骨類、哺乳類の骨類 縄文時代 八戸市博物館 (音喜多コレクション)	007 寺下遺跡	015 作者不詳 船絵馬 1900 板絵着色 55.0 × 78.5 種差熊野神社
001 c 石鍾 縄文時代 八戸市博物館 (音喜多コレクション)	004 h 球状耳飾り 縄文時代前期 八戸市埋蔵文化財センター是川縄文館	007 a 貝類 縄文時代晩期 階上町教育委員会	016 小林兆運 源義経像 1858 木造彩色 像高 34.0 小田八幡宮
002 白浜遺跡	004 i 黒曜石の石匙 縄文時代前期 13.6 × 3.7 × 1.0 八戸市埋蔵文化財センター是川縄文館	007 b ウニ棘、鳥骨類、魚骨類 縄文時代晩期 階上町教育委員会	017 小林兆運 弁慶像 1858 木造彩色 像高 34.3 小田八幡宮
002 a 尖底深鉢形土器片 縄文時代早期 八戸市博物館 (音喜多コレクション)	004 j 石匙 縄文時代前期 5.1 × 1.5 × 0.6 八戸市埋蔵文化財センター是川縄文館	007 c 製塩土器 縄文時代晩期 階上町教育委員会	018 作者不詳 弁財天坐像 江戸時代 木造彩色 像高 107.5 浮木寺
002 b 石器 縄文時代 八戸市博物館 (音喜多コレクション)	005 沢堀込遺跡	008 滝端遺跡 製塩土器 縄文時代晩期 階上町教育委員会	019 作者不詳 魚籃觀世音菩薩立像 江戸時代初期 木造 (一木造) 像高 32.0 常現寺
003 白浜海岸砂丘 角製釣針 八戸市博物館 (音喜多コレクション)	005 a 土器 縄文後期後半 青森県埋蔵文化財調査センター	009 三峯館寛兆 八戸浦之図 1848 - 1853 紙本淡彩 90.0 × 140.0 八戸市立図書館	011 作者不詳 千石船「万徳丸」図 江戸時代末期 紙本着色 54.0 × 90.0 西村昇
004 熊ノ林遺跡	005 b 土器 縄文後期-晩期 青森県埋蔵文化財調査センター	010 三峯館寛兆 八戸御領内絵図 c. 1849 紙本淡彩 137.0 × 83.0 八戸市立図書館	020 作者不詳 大漁半纏 c. 1932 綿 118.0 × 129.0 八戸市博物館
004 a 土器 縄文時代中期 高さ 35.0 八戸市埋蔵文化財センター是川縄文館	005 c 土器 縄文時代中期 青森県埋蔵文化財調査センター	011 作者不詳 紙本淡彩 137.0 × 83.0 八戸市立図書館	021 作者不詳 木造船「カッコ」 c. 1962-1963 木 651.0 × 135.0 × 62.0
004 b 土器 縄文時代前期 高さ 43.0 八戸市埋蔵文化財センター是川縄文館	005 d 土師器 奈良時代 青森県埋蔵文化財調査センター	012 七尾英風 鮫浦風景図 c. 1930 絹本淡彩 裏箔 二曲屏風 175.0 × 180.0 八戸市博物館	
004 c 土器 縄文時代前期 高さ 36.5 八戸市埋蔵文化財センター是川縄文館	005 e 土師器 奈良時代 青森県埋蔵文化財調査センター	013 作者不詳 八戸二十景屏風 江戸時代	
004 d 土器 縄文時代前期 高さ 26.5 八戸市埋蔵文化財センター是川縄文館	005 f 石棒 縄文時代後期-晩期 長さ 45.9 青森県埋蔵文化財調査センター		
	005 g 石棒 縄文時代後期-晩期 長さ 45.9 青森県埋蔵文化財調査センター		
	005 h 石刀 縄文時代晩期前半 長さ 27.0		

022

作者不詳
南部領海浜砲台図
弘化4年以後
紙本淡彩
272.5 × 158.0
もりおか歴史文化館

023

作者不詳
南部領海岸全図
1838
紙本淡彩
31.5 × 906.0
新渡戸明（新渡戸家文書）

024

作者不詳
アメリカ船図
江戸時代末期
紙本着色
86.9 × 146.8
十和田市立新渡戸記念館

025

作者不詳
和船図
江戸時代末期
紙本着色
42.6 × 61.0
十和田市立新渡戸記念館

026

新渡戸十次郎
虎丸御軍船於大畑御乗初隸儀之図
1851
紙本着色
38.5 × 52.5
十和田市立新渡戸記念館

027

作者不詳
八戸藩籌場狼煙場絵図
1807
紙本着色、墨
81.0 × 167.0
八戸市立図書館

028

作者不詳
御台場築建絵図（8点）
1854
紙本淡彩
各 | 38.0 × 52.0
八戸市立図書館

029

森貝巖
昭和の傷跡
1952
白黒写真
56.0 × 45.7
森貝巖

吉田初三郎と種差

030

吉田初三郎
八戸市鳥瞰図
1933
印刷折本
17.7 × 77.6
青森県立美術館

031

吉田初三郎
八戸市鳥瞰図
1937
印刷折本
17.7 × 77.6
柳沢卓美

032

吉田初三郎
八戸市鳥瞰図
1950
印刷折本
18.6 × 52.0
柳沢卓美

033

吉田初三郎
八戸市鳥瞰図
1954
印刷折本
19.0 × 51.7
柳沢卓美

034

吉田初三郎
八戸市観光鳥瞰図 原画
1950
絹本着色
36.5 × 101.8
八戸市博物館

035

吉田初三郎
八戸市鳥瞰図 原画
1954
絹本着色
45.0 × 160.0
八戸クリニック街かどミュージアム

036

吉田初三郎
種差之海図
1934
絹本着色、額
70.5 × 260.8
八戸商工会議所

037

吉田初三郎
種差之海（釜の口）図
1934
絹本着色、額
70.0 × 168.0
八戸商工会議所

038

吉田初三郎
石田家鳥瞰図
1933
印刷折本
17.5 × 39.5
柳沢卓美

039

鹿子木孟郎
海岸
1937
油彩、麻布
89.4 × 130.3
岡山県立美術館

040

吉田初三郎
明治天皇肖像画
1935
絹本着色、額
175.0 × 106.0
八戸市博物館

041

撮影者不詳
帝国ホテルでの吉田初三郎
撮影日不明
白黒写真
16.3 × 12.2
吉田種房

042

撮影者不詳
「潮観荘」全景
1949
白黒写真
11.6 × 16.2
吉田種房

043

撮影者不詳
警視總監を務めた丸山鶴吉を迎えて、「潮観荘」の庭にて
1933
白黒写真
10.9 × 15.0
吉田種房

044

撮影者不詳
歌人として著名な土屋文明を囲んでの歌会終了後に、「潮観荘」の応接室前で
1948
白黒写真
12.1 × 17.6
吉田種房

045

撮影者不詳
土屋文明を囲んで、海を背景に「潮観荘」の庭で
1948
白黒写真
12.1 × 17.6
吉田種房

046

撮影者不詳
高松宮殿下（中央）を迎えて。初三郎の家族とともに種差海岸を散策
1949
白黒写真
8.9 × 12.7
吉田種房

047

撮影者不詳
「潮観荘」にて、「南京城攻略戦跡図」を前にした初三郎と弟子たち
1938
白黒写真
11.0 × 15.5
吉田種房

048

撮影者不詳
「潮観荘」にて、「南京城攻略戦跡図」を前にした初三郎
1938
白黒写真
10.8 × 15.3
吉田種房

049

撮影者不詳
「潮観荘」にて、八戸部隊の陸軍関係者を招いて
1938
白黒写真
11.0 × 15.5
吉田種房

050

撮影者不詳
「潮観荘」前での初三郎
c. 1942
白黒写真
11.0 × 15.5
吉田種房

051

撮影者不詳
「潮観荘」内での初三郎
c. 1940
白黒写真
12.1 × 17.6
吉田種房

052

撮影者不詳
「潮観荘」にて、初三郎と弟子たち
1943
白黒写真
写真提供：吉田正臣

053

八戸工業大学
「潮観荘」CG
2013
八戸工業大学

054	塩釜市鳥瞰図	印刷折本	八戸クリニック街かどミュージアム
吉田初三郎	1952	27.5 × 118.0	
礼状 (潮観荘焼失見舞お礼状)	印刷折本	八戸クリニック街かどミュージアム	079
1953	17.6 × 75.6		吉田初三郎
葉書	石黒三郎	071	鉄道旅行案内
14.0 × 9.1		吉田初三郎	1921
吉田種房	063	日本八景名所図絵	本
	吉田初三郎	1930	11.0 × 19.5
055	女川港鳥瞰図	印刷折本	八戸クリニック街かどミュージアム
吉田初三郎	1956	22.0 × 167.0	
岩手懸観光鳥瞰図 原画	印刷折本	八戸クリニック街かどミュージアム	080
1937	19.1 × 52.5		吉田初三郎
絹本着色	藤本一美	072	鉄道旅行案内
76.0 × 408.0		吉田初三郎	1924
岩手県立博物館	064	関東大震災	本
	吉田初三郎	1924	11.0 × 19.5
056	石巻市鳥瞰図	印刷折本	八戸クリニック街かどミュージアム
吉田初三郎	1958	26.0 × 108.0	
釜石市街鳥瞰図 原画	印刷折本	柳沢卓美	081
1937	19.0 × 53.0		吉田初三郎
絹本着色	八戸クリニック街かどミュージアム	073	旅と名所
62.8 × 270.0		吉田初三郎	1929
宝樹寺	065	青森市鳥瞰図	冊子
	吉田初三郎	1932	26.0 × 19.3
057	岩手全県史蹟名勝鳥瞰図	印刷折本	八戸クリニック街かどミュージアム
吉田初三郎	1937	19.0 × 88.0	
宮城県鳥瞰図 原画	印刷折本	八戸クリニック街かどミュージアム	082
1933	22.0 × 117.0		吉田初三郎
絹本着色	八戸クリニック街かどミュージアム	074	観光春秋
72.5 × 330.0		吉田初三郎	1929
阿瀬太紀	066	青森市鳥瞰図	パンフレット
	吉田初三郎	1948	27.5 × 19.8
058	釜石市鳥瞰図	印刷折本	八戸クリニック街かどミュージアム
吉田初三郎	c. 1936	20.0 × 85.0	
金華山景勝鳥瞰図 原画	印刷折本	八戸クリニック街かどミュージアム	083
1933	19.0 × 87.0		吉田初三郎
絹本着色	八戸クリニック街かどミュージアム	075	KWANKO
70.0 × 400.0		吉田初三郎	1925
金華山黄金山神社	067	弘前市鳥瞰図	パンフレット
	吉田初三郎	1935	39.0 × 27.4
059	観光之宮城県図絵	印刷折本	八戸クリニック街かどミュージアム
吉田初三郎	1933	19.5 × 88.0	
金華山之図屏風	印刷折本	八戸クリニック街かどミュージアム	
1933	19.0 × 100.0		084
絹本着色	八戸クリニック街かどミュージアム	076	吉田初三郎
152.0 × 692.0		吉田初三郎	絵に添えて一筆集
金華山黄金山神社	068	十和田湖鳥瞰図	1930
	吉田初三郎	1933	本
060	日本を中心とする世界の交通大正十一年春	印刷折本	18.8 × 12.8
吉田初三郎	1922	19.5 × 88.0	八戸クリニック街かどミュージアム
国鉄東北支管内鳥瞰図 原画	印刷折本	八戸クリニック街かどミュージアム	
1957	25.5 × 167.0		085
絹本着色	八戸クリニック街かどミュージアム	077	吉田初三郎
50.0 × 190.0		吉田初三郎	景勝の長崎
東北歴史博物館	069	京阪電車御案内	1934
	吉田初三郎	1915年以降	印刷折本
061	叡山頂上一目八方鳥瞰図	印刷折本	19.2 × 100.0
吉田初三郎	1926	17.5 × 76.0	八戸クリニック街かどミュージアム
志津川町鳥瞰図	印刷折本	八戸クリニック街かどミュージアム	
1934	38.5 × 52.5		086
印刷折本	八戸クリニック街かどミュージアム	078	吉田初三郎
15.4 × 70.8		吉田初三郎	HIROSHIMA
石黒三郎	070	大正広重物語	c. 1949
	吉田初三郎	1923	雑誌
062	世界の名山金剛山交通大鳥瞰圖	冊子	28.0 × 35.8
吉田初三郎	1929	19.0 × 13.0	吉田種房

東山魁夷と種差

087

東山魁夷

凧

1940

紙本着色、額装

241.0 × 371.0

紀元二千六百年奉祝美術展

088

東山魁夷

凧

1940

絹本着色、軸装

127.5 × 40.7

光ミュージアム

089

東山魁夷

夕汀

1942

絹本着色、額装

48.7 × 56.6

市川市東山魁夷記念館

090

東山魁夷

夕凧

c. 1949

絹本着色、額装

36.6 × 51.4

香川県立東山魁夷せとうち美術館

091

寺島照夫

種差海岸の「道」に立つ東山魁夷

1978

カラー写真

青森県立美術館

092

作者不詳

《御旧領名所図巻》より「木崎野牧」（複製）

明治初期

紙本着色

27.2 × 60.7

青森県立郷土館

（原本：もりおか歴史文化館蔵）

093

作者不詳

絵馬

1685

板絵着色

27.9 × 40.0

清水寺観音堂

094

作者不詳

絵馬

1703

板絵着色

37.7 × 56.0

清水寺観音堂

095

撮影者不詳

無題（現タイハイ牧場の前身の鮫競馬場）

大正時代

白黒写真

柳沢卓美

096

和井田登

タネサシ公園の夏

1959

白黒写真

八戸市博物館

097

美之国（17巻第4号、1941年4月）

1941

雑誌

25.7 × 18.2

青森県立美術館

098

東山魁夷

保健同人（昭和22年8月号の表紙）

1947

雑誌

25.7 × 18.2

柳沢卓美

099

東山魁夷

静日

c. 1950

絹本着色、軸装

34.5 × 51.0

市川市東山魁夷記念館

100

東山魁夷

道〔試作〕

1950

絹本着色 額装

57.2 × 42.0

市川市東山魁夷記念館

101

東山魁夷

道

1950

絹本着色 額装

134.4 × 102.2

東京国立近代美術館

笹岡啓子 TANESASHI

102

笹岡啓子

小舟渡、鮫

2013

タイプCプリント

100.0 × 133.3

作家蔵

103

笹岡啓子

小舟渡、階上

2013

タイプCプリント

100.0 × 133.3

作家蔵

104

笹岡啓子

釜の口、鮫

2013

タイプCプリント

100.0 × 133.3

作家蔵

105

笹岡啓子

蕨島、鮫

2013

タイプCプリント

100.0 × 133.3

作家蔵

106

笹岡啓子

恵比寿浜、鮫

2013

タイプCプリント

60.0 × 80.0

作家蔵

107

笹岡啓子

葦毛崎、鮫

2013

タイプCプリント

60.0 × 80.0

作家蔵

108

笹岡啓子

釜の口、鮫

2013

タイプCプリント

60.0 × 80.0

作家蔵

109

笹岡啓子

小舟渡、鮫

2013

タイプCプリント

60.0 × 80.0

作家蔵

110

笹岡啓子

鮫角、鮫

2013

タイプCプリント

60.0 × 80.0

作家蔵

111

笹岡啓子

鮫角、鮫

2013

タイプCプリント

60.0 × 80.0

作家蔵

112

笹岡啓子

鮫角、鮫

2013

タイプCプリント

60.0 × 80.0

作家蔵

113

笹岡啓子

葦毛崎、鮫

2013

タイプCプリント

100.0 × 133.3

作家蔵

114

笹岡啓子

釜の口、鮫

2013

タイプCプリント

100.0 × 133.3

作家蔵

115

笹岡啓子

種差、鮫

2013

タイプCプリント

100.0 × 133.3

作家蔵

116

笹岡啓子

大須賀、鮫

2013

タイプCプリント

100.0 × 133.3

作家蔵

117

笹岡啓子

大須賀、鮫

2013

タイプCプリント

100.0 × 133.3

作家蔵

118

笹岡啓子

葦毛崎、鮫

2013

タイプCプリント

60.0 × 80.0

作家蔵

119

笹岡啓子

小舟渡、鮫

2012

タイプCプリント

60.0 × 80.0

作家蔵	写真、テキスト (2点組)
120	各 84.0 × 111.5
笹岡啓子	作家+リッソン・ギャラリー蔵
深久保、鮫	128
2013	リチャード・ロング
タイプCプリント	津波歩行
60.0 × 80.0	2013
作家蔵	テキスト
121	可変
笹岡啓子	作家蔵
種差、鮫	129
2013	リチャード・ロング
タイプCプリント	青い海から
60.0 × 80.0	2013
作家蔵	テキスト
122	可変
笹岡啓子	作家蔵
種差、鮫	130
2013	リチャード・ロング
タイプCプリント	津波の断想
60.0 × 80.0	2013
作家蔵	陶土
123	可変
笹岡啓子	作家蔵
種差、鮫	※作品番号 001 - 008 の考古資料について
2013	は、遺跡名、資料名、年代、所蔵者の順に記
タイプCプリント	した。
60.0 × 80.0	
作家蔵	
124	
笹岡啓子	
深久保、鮫	
2012	
タイプCプリント	
60.0 × 80.0	
作家蔵	
125	
笹岡啓子	
葦毛崎、鮫	
2013	
タイプCプリント	
100.0 × 133.3	
作家蔵	
126	
笹岡啓子	
大蛇、階上	
2013	
タイプCプリント	
100.0 × 133.3	
作家蔵	

リチャード・ロング、種差を歩く

127
リチャード・ロング
津波海岸線歩行
2013

掲載記事

朝日新聞

2013年6月21日(金)
種差の潮観荘 八工大CG化

2013年7月9日(火)
作品からたどる種差の浜の歩み 身体と泥で津波表現

2013年7月10日(水)
アート&カルチャー 津波から再生する浜

東奥日報

2013年8月15日(木)
八戸・種差と神話”交錯” 24,25日 県美で舞台芸術公演

陸奥新報

2013年5月3日(金)
県美で「種差」展

2013年7月6日(土)
魁夷の傑作など120点 県美で企画展「種差」

2013年7月28日(日)
よみがえれ浜の記憶(上)「絶望」と「希望」の風景

2013年8月4日(日)
よみがえれ浜の記憶(中) ディフォルメと色彩感覚

2013年8月11日(日)
よみがえれ浜の記憶(下) 巨大な壁面覆う宇宙観

デーリー東北

2012年7月27日(金)
来夏に「種差展」企画

2013年3月8日(金)
東山魁夷の「道」展示

2013年3月19日(火)
写真家笹岡啓子さん撮影進む

2013年3月22日(金)
弁財天像140年ぶり里帰り

2013年3月27日(水)
波及効果に高まる期待

2013年5月3日(金)
7月6日から 青森県立美術館「種差展」多彩な企画

2013年5月15日(水)
特別紙面 道 東山魁夷の心に浮かんだ種差の道

2013年6月21日(金)
ハマの秘仏出展

2013年7月7日(日)
天鐘

2013年7月20日(土)
県立美術館特別展 観覧ツアー実施へ

2013年7月21日(日)
<上> 海に生きる人々の信仰

2013年7月24日(水)
<中> 種差にこだわった画家 東山魁夷の「道」

2013年7月29日(月)
時評 財産の価値を知る機会に

2013年7月31日(水)
魁夷の「道」本作公開 県内では17年ぶり展示

2013年8月1日(木)
<下> 人の営みや自然 題材に

2013年8月21日(水)
豊島重之+モレキュラーシアター 県立美術館で24,25日開催

読売新聞

2013年6月23日(日)
種差の竜宮城 再現図

2013年7月18日(木)
守り伝える浜の記憶 青森県立美術館「種差海岸」の展覧会

河北新報

2013年6月29日(土)
画家が愛した種差 120作品 来月6日から企画展

2013年7月7日(日)
青森県立美術館 個性あふれる多種多様な芸術を体感

2013年8月22日(木)
自然美に映る人の営み

毎日新聞

2013年5月3日(金)
「種差」テーマに企画展

2013年7月8日(月)
「種差」テーマに企画展 英国人芸術家らが出品

2013年8月18日(日)
魁夷の「道」展示

聖教新聞

2013年7月13日(土)
種差一よみがえれ浜の記憶展

日刊自動車新聞

2013年8月13日(火)
種差海岸ゆかりの作品一堂に

横尾忠則の「昭和 NIPPON」－反復・連鎖・転移

開催概要

会期：2013年9月7日（土）－11月4日（月・祝）

開催日数：57日間

主催：横尾忠則展実行委員会（青森県立美術館、三沢市寺山修司記念館、青森朝日放送株式会社、公益社団法人青森県観光連盟）

特別協力：ヴィレッジヴァンガード・コーポレーション

協力：青い森鉄道株式会社

後援：青森県教育委員会

観覧料：一般 1,000（800）円、高大生 700（600）円、小中生 300（200）円

※（ ）内は前売及び20名以上の団体料金

巡回館：横尾忠則現代美術館（2014.1.25－3.30）

十郎、澁澤龍彦などの前衛芸術を通して、60-70年代の日本のアヴァンギャルドを総括した。

日時：10月12日（土）13:30－15:00

会場：青森県立美術館コミュニティホール

参加者数：20人

（5）映画上映「大島渚特集」

横尾忠則氏が主演した「新宿泥棒日記」、「東京戦争戦後秘話」、「儀式」の3本を特集上映した。

日時：10月19日（土）

場所：青森県立美術館シアター

参加者数：47人

入場者数

10,516人

関連企画

（1）横尾忠則氏公開制作

出展作家である横尾忠則氏が公開制作を行った。またこの作品については、横尾氏から実行委員会に寄贈された。

日時：9月7日（土）13:30－15:00

場所：青森県立美術館 K 展示室

（2）県美土曜ゼミ「横尾忠則の昭和 NIPPON」

本展担当学芸員が、本展開催のきっかけや本展にかける思いを語ったほか、横尾忠則氏の作品群から日本の戦後史について考察した。

日時：9月14日（土）13:30－16:30

場所：青森県立美術館 ワークショップ A

参加者数：20人

（3）なりきりワークショップ「横尾忠則になりきる」

独特の線で描かれる横尾忠則氏の人物画に着目し、展示会場でその作品を見た後に、描きたい人の写真をトレースしながら、横尾氏になりきってグラフィック作品を制作した。

日時：9月21日（土）13:30－16:30

場所：青森県立美術館 ワークショップ A

参加者数：13人

（4）県美土曜ゼミ「寺山修司と日本のアヴァンギャルド」

アンダーグラウンドカルチャーの伝説となった寺山修司と、唐



ポスター



展示風景

横尾忠則は、昭和前年史の激動の年に生まれた。その年とは、昭和11年（1936年）、大雪の帝都に軍靴が轟いた2.26事件の年である。また、阿部定と石田吉蔵も不穏な時代の渦中にいた。阿部定事件は5月18日に起こった。

本展覧会の構成趣旨は、横尾忠則によって一貫して描かれてきた「日本」の戦前や戦後、そして現代という時間の連続性を作家が生きてきた「昭和」という時代と重ね合わせて捉え直していくものであった。また、時としては時間軸を横断し、グラフィック・ワークや絵画といった表現メディアをも超えた展覧会構成となり、グローバル化した現代から「昭和」という時代を逆照射していく方法論的アプローチによって当時の時代精神をも浮かび上がらせ、そしてわれわれが今後何処へ向かおうとしているのかを問いかけていくものであった。

三島由紀夫曰く「横尾氏のやったことは… ツーリズム、世界的流行、工業化社会、都市化現象、大衆化社会などとも反対の、人の一番心の奥底から奥底への陰湿な通路を通った、交霊術的交流なのだった」（『ポップコーンの心霊術－横尾忠則論』以下

で表記)。今でも横尾忠則は、「日本という国のふしぎな地図」を決して手離してはいない。「靈魂は温かい、唯一の温かい言葉になった。彼（横尾）の芸術の独特の暗さと温かさは、かくて霊的なものである」（）と三島は述べている。

縄文という古代の時間が流れている青森の深い森と土着性、そして昭和という時代が背負った戦争と戦後の高度経済成長の光と影とを重ね合わせて、横尾忠則の「日本」が次の世代に何を投げかけているのかを本展覧会で問いかけ問題提起した。

主要出品作品

幼年時代 恐怖と快楽

- 1
運命
1997
キャンバス・アクリル
227.5 × 182.0cm
作家蔵
- 2
怪人二十面相道後に現る
2007
キャンバス・油彩
227.0 × 146.0cm
作家蔵
- 3
方舟に持ち込む一冊の本
1996
キャンバス・アクリル
227.3 × 182.0cm
作家蔵
- 4
私の竹取物語
1997
キャンバス・アクリル、油彩
227.7 × 182.0cm
作家蔵
- 5
壊された五条大橋
1998
キャンバス・アクリル、コラージュ
194.0 × 194.0cm
作家蔵
- 6
水の回路
1999
キャンバス・油彩、コラージュ
227.5 × 182.0cm
作家蔵
- 7
死者の誕生
1997
キャンバス・アクリル
227.1 × 182.3cm
作家蔵
- 8
江戸川乱歩全集（講談社）
1969
紙・オフセット
51.5 × 36.4cm
作家蔵

- 9
『週刊読売 1975 8/9 号』（読売新聞社）
1975
雑誌
個人蔵

焼け跡 廃墟の記憶

- 10
戦後
1985
セラミック・シルクスクリーン
240.0 × 240.0cm
原美術館
- 11
暗夜光路 2001 年 9 月 11 日
2001
キャンバス・油彩、ジエッソ、コラージュ
194.0 × 194.0cm
原美術館
- 12
暗夜光路 眠れない街
2001
キャンバス・アクリル
182.0 × 227.5cm
原美術館
- 13
夢の中の記憶
2006
キャンバス・油彩
181.8 × 227.3cm
作家蔵
- 14
雪村いずみ
1966
キャンバス・アクリル
37.9 × 45.5cm
兵庫県立美術館
- 15
美空ひばり
1966
キャンバス・アクリル
53.0 × 45.5cm
兵庫県立美術館
- 16
戦争の涙
2009
キャンバス・油彩
162.1 × 162.3cm
作家蔵
- 17
人物戯論（日本社）
1966
紙・シルクスクリーン
103.1 × 73.4cm
作家蔵

- 18
安吾フェスティバル（紀伊國屋ホール）
1974
紙・シルクスクリーン
103.0 × 72.8cm
作家蔵

- 19
戦後文化の軌跡 1945 - 1995
（目黒区美術館）
1995
紙・シルクスクリーン
103.0 × 72.6cm
作家蔵

- 20
戦後文化の軌跡 1945 - 1995
（目黒区美術館）
1995
紙・オフセット
102.8 × 72.5cm
作家蔵

- 21
無題（未完）
制作年不詳
キャンバス・アクリル
53.0 × 41.0cm
作家蔵

- 22
『デザイン NO.108』（美術出版社）
表紙 色指定紙
1968
トレーシングペーパー・カラーインク
31.9 × 24.8cm
作家蔵

- 23
『デザイン NO.109』（美術出版社）
表紙 原画・色指定紙
1968
紙・カラーインク、鉛筆
トレーシングペーパー・カラーインク
37.4 × 30.3cm
作家蔵

- 24
『デザイン NO.110』（美術出版社）
表紙 原画・色指定紙
1968
紙・鉛筆
トレーシングペーパー・カラーインク
45.0 × 30.9cm
作家蔵

- 25
サントリーゴールド
テレビコマーシャルフィルム
イラスト【マッカーサー】
原画・色指定紙
1977
紙・インク、トレーシングペーパー・色鉛筆、
カラーチップ
27.3 × 19.5cm
作家蔵

- 26
『漫画サンデー 1968 5/10 増刊号』
（実業之日本社）
1968
雑誌
個人蔵

- 27
『朝日ジャーナル 原発と人間
2011 6/5 号』（朝日新聞出版）
2011
雑誌
武蔵野美術大学 美術館・図書館、個人蔵

- 28
『週刊読売 1975 7/19 号』
1975
雑誌
個人蔵

- 29
『週刊読売 1975 8/23 号』
1975
雑誌
個人蔵

陰惨醜悪怪奇 百鬼夜行

- 30
恐怖の愛
1994
キャンバス・アクリル
194.0 × 194.2cm
横尾忠則現代美術館

- 31
死者の洞窟
1985 頃
板・アクリル
180.0 × 240.3cm
横尾忠則現代美術館

- 32
業
1986 頃
板・アクリル
180.0 × 120.0cm
横尾忠則現代美術館

- 33
愛の回想
1994
キャンバス・アクリル
182.0 × 227.4cm
作家蔵

- 34
地球の果てまでつれてって
1994
キャンバス・アクリル
182.1 × 227.9cm
作家蔵

35
今夜の酒には骨がある
1998
キャンバス・油彩、コラージュ
182.4 × 227.3cm
作家蔵

36
首なし 369
2001 頃
キャンバス・油彩
65.6 × 45.5cm
作家蔵

37
黄色い訪問者
1986
キャンバス・油彩
227.3 × 146.0cm
作家蔵

38
鳶紅葉・宇津谷峠
原画・色指定紙
1967
紙・インク
トレーシングペーパー・カラーインク、カラー
チップ
35.0 × 28.7cm
作家蔵

近代の病 呪われた部分

39
責場 A - C
1969
紙・シルクスクリーン
各 91.0 × 68.0cm
東京都現代美術館

40
由比正雪 (劇団状況劇場)
1968
紙・シルクスクリーン
109.5 × 79.2cm
国立国際美術館

41
A LA MAISON DE M.CIVECAWA
(ガルメラ商会)
1965
紙・シルクスクリーン
103.5 × 73.3cm
作家蔵

42
細江英公写真展
土方巽と日本人 (ニコンサロン)
1968
紙・シルクスクリーン
103.0 × 72.8cm
作家蔵

43
通し狂言 椿説弓張月 (国立劇場)
1969
紙・シルクスクリーン
103.5 × 73.7cm
作家蔵

44
写性 I - III
1969
紙・シルクスクリーン
各 111.8 × 72.3cm
作家蔵

45
土方巽 燐燐大踏鑑 (ガルメラ商会)
1970
紙・シルクスクリーン
109.0 × 79.5cm
作家蔵

46
文楽 椿説弓張月 (国立劇場)
1971
紙・シルクスクリーン
102.0 × 72.2cm
作家蔵

47
黒蜥蜴 (東京芸術劇場)
1993
紙・オフセット
103.5 × 72.9cm
作家蔵

48
色情に迷って理性を失うの図
1970
紙・シルクスクリーン
19.0 × 13.5cm
作家蔵

49
神風恍惚切根之図「平凡パンチ」
原画・色指定紙
1968
紙・インク、トレーシングペーパー・カラー
インク、カラーチップ
50.4 × 30.3cm
作家蔵

50
責場
原画・色指定紙
1968
紙・インク、花札
トレーシングペーパー・カラーチップ
36.2 × 51.4cm
作家蔵

51
三島由紀夫著・『不道德教育講座』
(中央公論社) カバーデザイン アイデアス
ケッチ
1969
紙・色鉛筆、カラーインク

21.0 × 30.5cm
作家蔵
52
色情に迷って理性を失う之図 其巻
1969
イラストボード・インク
25.7 × 18.5cm
作家蔵

53
サントリー豆本 (サントリー)
1969
附録
個人蔵

54
サントリー豆本 (サントリー)
イラスト 原画 8 点
1969
紙・インク
13.4-13.7 × 19.4-19.8cm
作家蔵

55
サントリー洋酒天国 (サントリー)
イラスト 原画・色指定紙
7 点
1969 頃
紙・インク
トレーシングペーパー・カラーインク
13.5-13.8 × 19.7-29.7cm
作家蔵

56
イラスト 原画・色指定紙
1969 頃
紙・インク
トレーシングペーパー・カラーインク
27.8 × 20.2cm
作家蔵

日本資本主義 シミュラクルの残骸

57
万博 太陽 (日本万国博の楽しい会場より)
1967
キャンバス・アクリル
33.4 × 24.3cm
国立国際美術館

58
万博 空 (日本万国博の楽しい会場より)
1967
キャンバス・アクリル
31.8 × 40.9cm
国立国際美術館

59
動く道路 (日本万国博の楽しい会場より)
1967
キャンバス・アクリル
31.8 × 40.9cm
国立国際美術館

60
万博 ふんすい
(日本万国博の楽しい会場より)
1967
キャンバス・アクリル
31.8 × 40.9cm
国立国際美術館

61
TOKYO : Form and Spirit
(ウォーカーアートセンター)
1986
紙・オフセット紙
91.5 × 63.6cm
国立国際美術館

62
テレビ
1996
キャンバス・アクリル
72.6 × 60.7cm
黒河内俊蔵

63
想い出劇場
2007
キャンバス・アクリル、グワッシュ
116.7 × 90.9cm
西村画廊

64
憂国 小澤金四郎リサイタル (日経ホール)
1969
紙・シルクスクリーン
83.5 × 59.0cm
作家蔵

65
日本万国博覧会せんい館 (日本繊維館協会の)
1969
紙・オフセット
104.0 × 77.2cm
作家蔵

66
堅々獄夫婦庭訓 (かちかちやまめうとのすじ
みち)
イラスト 原画
1964
紙・インク、写植貼り込み
39.5 × 27.5cm
作家蔵

67
せまりくる足音・小松左京 ホッホッホッ
ウッフッフッ
イラスト 原画
1966
紙・インク
30.9 × 44.9cm
作家蔵

68
売国 原画・色指定紙
1967
紙・インク、トレーシングペーパー・カラー

<p>インク、カラーチップ 39.5 × 27.5cm 作家蔵</p>	<p>77 『週間アンボ』（アンボ社） 1969 雑誌 個人蔵</p>	<p>39.5 × 27.2cm 作家蔵</p>	<p>紙・オフセット 88.5 × 59.0cm 作家蔵</p>
<p>69 『オール読物』（文藝春秋） 今月の情景 イラスト 原画・色指定紙 1969 紙・インク トレーシングペーパー・カラーインク 27.3 × 19.7cm 作家蔵</p>	<p>78 プラスマイナスゼロ 『朝日ジャーナル』（朝日新聞社） イラスト 原画 1969 紙・インク 21.0 × 30.5cm 作家蔵</p>	<p>85 『ポケットパンチ』（平凡出版） イラスト 原画・色指定紙 1968 紙・インク トレーシングペーパー・カラーインク 23.0 × 15.5cm 作家蔵</p>	<p>94 戦争展（日本画廊） 1968 紙・シルクスクリーン 101.2 × 72.9cm 国立国際美術館</p>
<p>70 『オール読物』（文藝春秋） 今月の情景 イラスト 原画 1969 紙・インク 27.4 × 39.4cm 作家蔵</p>	<p>79 『朝日ジャーナル』 イラスト 原画・色指定紙 1969 頃 紙・インク トレーシングペーパー・カラーインク 22.3 × 30.9cm 作家蔵</p>	<p>86 『まんがNo1』（日本社） 6冊 1972・1973 雑誌 武蔵野美術大学 美術館・図書館 個人蔵</p>	<p>95 PLEINS FEUX SUR LE JAPON, PARIS 1987（三井広報委員会） 1987 紙・オフセット 103.1 × 72.8cm 作家蔵</p>
<p>71 NIPPON GINKO『太陽』（平凡社） イラスト 原画 1969 イラストボード・インク、鉛筆 36.2 × 51.4cm 作家蔵</p>	<p>80 『朝日ジャーナル』 イラスト 原画・色指定紙 1969 頃 紙・インク トレーシングペーパー・カラーインク 19.8 × 17.6cm 作家蔵</p>	<p>87 『少年マガジン』（講談社） 9冊 1970 雑誌 武蔵野美術大学 美術館・図書館 個人蔵</p>	<p>96 日宣美展（日本宣伝美術協会） 1968 紙・オフセット 72.8 × 51.5cm 作家蔵</p>
<p>72 『話の特集』（日本社） カバーデザイン 原画 1966 イラストボード・インク、アクリル 36.25 × 25.6cm 作家蔵</p>	<p>81 『朝日ジャーナル』 イラスト 原画・色指定紙 1969 頃 紙・インク トレーシングペーパー・カラーインク 31.0 × 22.3cm 作家蔵</p>	<p>88 『ブルータス 8/1号』（マガジンハウス） 1999 雑誌 個人蔵</p>	<p>97 詳細不詳 3点 1965 紙・カラーインク、色鉛筆 27.5 × 39.6cm 作家蔵</p>
<p>73 『話の特集』（日本社） カバーデザイン 原画 1966 イラストボード・インク、アクリル 36.25 × 25.6cm 作家蔵</p>	<p>82 『朝日ジャーナル』 イラスト 原画・色指定紙 1969 頃 紙・インク トレーシングペーパー・カラーインク 27.3 × 18.6cm 作家蔵</p>	<p>89 山口百恵『COSMOS 宇宙』（CBS・ソニー） 1978 レコード 個人蔵</p>	<p>98 『広告批評 1983.9』（マドラ出版） 1983 雑誌 個人蔵</p>
<p>74 『話の特集 6月号』（日本社） 1966 雑誌 作家蔵</p>	<p>83 『朝日ジャーナル』 イラスト 原画・色指定紙 1969 頃 紙・インク トレーシングペーパー・カラーインク 22.4 × 16.6cm 作家蔵</p>	<p>90 山口百恵『不死鳥伝説』（CBS・ソニー） 1980 レコード 個人蔵</p>	<p>99 『広告批評 1983.12』（マドラ出版） 1983 雑誌 個人蔵</p>
<p>75 『サンデー毎日』（毎日新聞社） イラスト 原画 1968 紙・インク 27.4 × 23.8cm 作家蔵</p>	<p>84 『デザイン 1月号』 原画・色指定紙 制作年不詳 紙・インク、コラージュ トレーシングペーパー・インク、色鉛筆</p>	<p>91 大島渚『わが日本精神改造計画』（産報） 1972 書籍 個人蔵</p>	<p>100 『広告批評 1984.3』（マドラ出版） 1984 雑誌 個人蔵</p>
<p>76 『週間アンボ』 表紙 アイデアスケッチ 1969 封筒・カラーインク 22.8 × 15.0cm 作家蔵</p>	<p>85 『サンデー毎日』（毎日新聞社） イラスト 原画 1968 紙・インク 27.4 × 23.8cm 作家蔵</p>	<p>92 富士と旭日の光芒 至高性への憧憬 1998 キャンバス・油彩、コラージュ 194.0 × 194.0cm 作家蔵（東京都現代美術館）</p>	<p>101 『一人三人全集』（河出書房新社） カバーデザイン アイデアスケッチ 1969 紙・色鉛筆、カラーインク 25.7 × 18.1cm 作家蔵</p>
<p>77 『週間アンボ』 表紙 アイデアスケッチ 1969 封筒・カラーインク 22.8 × 15.0cm 作家蔵</p>	<p>86 『デザイン 1月号』 原画・色指定紙 制作年不詳 紙・インク、コラージュ トレーシングペーパー・インク、色鉛筆</p>	<p>93 Tadanori Yokoo（バリ広告美術館） 1983</p>	<p>102 『一人三人全集』（河出書房新社） 5冊（第2巻が欠如） 1969 書籍 武蔵野美術大学 美術館・図書館</p>

103 イラスト 原画 2点 制作年不詳 イラストボード・インク、カラートーン 25.7 × 36.3cm 作家蔵	112 ヤクザ映画 戦後日本映画のひとつの流れ (草月アートセンター、日本読書新聞) 1968 紙・シルクスクリーン 109.4 × 79.0cm 国立国際美術館	121 新宿泥棒日記 (創造社) 1968 シルクスクリーン・紙 99.8 × 71.5cm 作家蔵	作家蔵 129 『横尾忠則日記 一米七〇糧のブルース』 (新書館) カバーデザイン アイデアスケッチ 1969 紙・インク、カラーインク 27.4 × 11.6cm 作家蔵
104 イラスト 原画 制作年不詳 紙・インク 26.4 × 17.5cm 作家蔵	113 終りの美学 1966 キャンバス・アクリル 52.5 × 65.5cm 個人蔵	122 横尾忠則全集展 (松屋) 1970 オフセット・紙 102.9 × 73.0cm 作家蔵	130 『横尾忠則日記 一米七〇糧のブルース』 (新書館) カバーデザイン アイデアスケッチ 1969 紙・インク、カラーインク 24.9 × 11.3cm 作家蔵
105 『100 Posters of Tadanori Yokoo』 (講談社) 1978 書籍 武蔵野美術大学 美術館・図書館	114 眼鏡と帽子のある風景 1965 紙・カラーインク 70.0 × 54.5cm 個人蔵	123 KEN TAKAKURA (ジャパン・ソサエティ・ ニューヨーク) 1978 オフセット・紙 70.0 × 50.5cm 作家蔵	131 『横尾忠則日記 一米七〇糧のブルース』 (新書館) 1969 書籍 個人蔵
106 青森県のせむし男 (天井棧敷) 舞台背景画 1967 キャンバス・油彩 31.8 × 40.9cm 作家蔵	115 男の死あるいは三島由紀夫と R. ワーグナー の肖像 1983 キャンバス・アクリル、油彩 227.5 × 149.6cm 三島徳辰蔵 (横尾忠則現代美術館寄託)	124 I HAVE NO TIME LEFT 1994-2013 162.0 × 130cm 作家蔵	132 『横尾忠則日記 一米七〇糧のブルース』 (新書館) 表紙デザイン 原画・色指定紙 1969 紙・インク、鉛筆 トレーシングペーパー・カラーインク、鉛 筆 27.6 × 40.7cm 作家蔵
107 『週刊読売 1975 6/7 号』 (読売新聞社) 1975 雑誌 個人蔵	116 再生 1997 キャンバス・アクリル 227.3 × 182.2cm 作家蔵	125 三島由紀夫著「終りの美学」 『女性自身』 (光文社) 挿画 原画・色指定紙 10点 1966 紙・インク、トレーシングペーパー・色鉛筆 19.7-39.5 × 19.7-27.4cm 作家蔵	133 『未完への脱走』 (講談社) 1970 書籍 個人蔵
108 平岡正明著 『犯罪あるいは革命に関する諸章』 (現代思潮社) 1967 個人蔵	117 終りの美学 (発狂社) 1966 紙・シルクスクリーン 102.4 × 76.0cm 作家蔵	126 三島由紀夫著「終りの美学」 『女性自身』 (光文社) 挿画 原画 3点 1966 紙・インク 27.3 × 19.7-19.8cm 作家蔵	134 『椿説弓張月 上の巻』 (コロムビアミュージックエンタテインメン ト) 1987 レコード 個人蔵
忘れえぬ英雄 昭和残侠伝	118 TADANORI YOKOO (松屋) 1965 紙・シルクスクリーン 103.5 × 73.4cm 作家蔵	127 「三島由紀夫のレター教室」 『女性自身』 (光文社) 挿画 原画・色指定紙 12点 1967 紙・インク トレーシングペーパー・カラーインク 各 19.8 × 27.3cm 内 1点 27.3 × 19.8cm 作家蔵	135 藤純子『緋牡丹博徒』 (ビクターレコード) レコードジャケット 原画・色指定紙 1969 紙・インク、トレーシングペーパー・カラー インク、カラーチップ 40.7 × 71.6cm 作家蔵
109 理想の実現 1994 キャンバス・アクリル 227.3 × 181.8cm 兵庫県立美術館	119 切断された小指に捧げるバラード (八九三書房) 1966 紙・シルクスクリーン 102.2 × 72.3cm 作家蔵	128 「三島由紀夫のレター教室」 『女性自身』 (光文社) 挿画 原画 1967 紙・インク 27.5 × 33.7cm	レコード
110 一米七〇糧のブルース (新書館) 1968 紙・オフセット 59.7 × 28.0cm 国立国際美術館	120 新宿泥棒日記 (A.T.G.) 1968 紙・オフセット 71.7 × 51.4cm 作家蔵		136 藤純子『緋牡丹博徒』 (ビクターレコード) 1972 レコード
111 新網走番外地 (東映) 1969 紙・オフセット 73.0 × 51.7cm 国立国際美術館			

個人蔵	146	1966	黒河内俊蔵
137	『プレイボーイ』（集英社）	キャンバス・アクリル	164
高倉健 『プレイボーイ』 イラスト 色指定紙	別冊ふろく プレイボーイ艶歌	45.5 × 53.0cm	理性と感性
1968	1969	徳島県立近代美術館	2007
トレーシングペーパー・色鉛筆	附録	155	キャンバス・アクリル、眼鏡
36.1 × 51.5cm	個人蔵	お堀 Part II	53.0 × 45.5cm
作家蔵	147	1966	黒河内俊蔵
138	初春人気者十二人衆年賀状 裸身之図	キャンバス・アクリル	165
横尾忠則『憂魂、高倉健』（都市出版社）	1969	53.0 × 65.2cm	燃える空
1971	附録	黒河内俊蔵	2008
書籍	個人蔵	156	キャンバス・油彩
武蔵野美術大学 美術館・図書館	148	隠されたモナリザ	162.1 × 130.3cm
139	青い満月『平凡パンチ』（平凡出版）	2003	作家蔵
背中で吠えてる高倉健（天声出版）	イラスト 原画・色指定紙	キャンバス・油彩	166
挿画 原画・色指定紙	1968	72.7 × 60.7cm	花嫁
6点	紙・ペン	京都国立近代美術館	1966
1969	トレーシングペーパー・カラーインク	157	キャンバス・アクリル
イラストボード・インク	36.3 × 51.4cm	モナリザとタトゥー	53.0 × 46.0cm
トレーシングペーパー・色鉛筆	作家蔵	2003	東京都現代美術館
各 36.1 × 51.5cm	記憶の鎮魂歌	キャンバス・アクリル	167
作家蔵	心霊的交流	80.3 × 65.2cm	カミソリ
140	149	個人蔵（横尾忠則現代美術館寄託）	1966
高倉健『男なら』（キングレコード）	記憶の鎮魂歌	158	キャンバス・アクリル
レコードジャケット	1994	腰巻お仙（劇団状況劇場）	53.0 × 45.5cm
原画・色指定紙	キャンバス・油彩、アクリル	1966	徳島県立近代美術館
1969	181.8 × 227.3cm	紙・シルクスクリーン	168
紙・インク、ホワイト、印	作家蔵	103.1 × 72.3cm	カミソリ III
27.3 × 39.6cm	150	作家蔵	2005
作家蔵	懐かしい靈魂の会合	159	キャンバス・アクリル
141	キャンバス・アクリル、コラージュ	腰巻お仙 [青]（劇団状況劇場）	100.0 × 80.3cm
高倉健『男なら』（キングレコード）	227.5 × 182.1cm	1968	作家蔵
1969	作家蔵	紙・シルクスクリーン	169
レコード	151	103.0 × 72.8cm	『小説現代』（講談社）現代の顔
個人蔵	時の花	作家蔵	イラスト 原画・色指定紙
142	1999	160	1967
『プレイボーイ 1969 6/24号』（集英社）	キャンバス・油彩、コラージュ	オートバイ	紙・インク
1969	117.0 × 91.5cm	1996	トレーシングペーパー・カラーインク
雑誌	横尾忠則現代美術館	キャンバス・アクリル	27.2 × 19.7cm
武蔵野美術大学 美術館・図書館	笑う女たち	53.0 × 45.5cm	作家蔵
143	土俗の悲しみ	黒河内俊蔵	170
『キネマ旬報 1968 8/10号』（キネマ旬報社）	152	161	性風景 I - V
1968	歯みがき	Tadanori Yokoo [よだれ]（松屋）	1968
雑誌	1966	1970	紙・シルクスクリーン
個人蔵	キャンバス・アクリル	紙・オフセット	各 72.5 × 51.8cm
144	73.0 × 61.0cm	102.9 × 73.0cm	作家蔵
『ポケットパンチ』（平凡出版）イラスト	東京都現代美術館	作家蔵	171
原画・色指定紙	153	162	無心
2点	銭湯	よだれ	1986
1668	2002	1966	キャンバス・油彩、アクリルミラー
各 22.5 × 15.5cm	キャンバス・油彩	キャンバス・アクリル	258.5 × 162.3cm
作家蔵	90.9 × 72.7cm	53.0 × 45.5cm	横尾忠則現代美術館
145	京都国立近代美術館	徳島県立近代美術館	172
詳細不明	154	163	ジョン・シルバー（劇団状況劇場）
イラスト 原画	お堀	香港 1997	1967
制作年不詳	1966	1997	紙・シルクスクリーン
紙・インク	作家蔵	キャンバス・アクリル、油彩	102.7 × 74.6cm
作家蔵	99.7 × 72.7cm	作家蔵	

173
Tadanori Yokoo [色情に迷って理性を失う
事之図] (松屋)
1970
紙・オフセット
102.4 × 72.3cm
作家蔵

174
Tadanori Yokoo [浅丘ルリ子裸体姿之圖]
(松屋)
1970
紙・オフセット
102.6 × 73.3cm
作家蔵

175
責場 (松屋)
1970
紙・オフセット
72.6 × 102.7cm
作家蔵

176
YUMEYA 夢屋 ポスター
版下・色指定紙

1971
トレーシングペーパー・カラーインク
印画紙
16.0 × 13.3cm
作家蔵

177
YUMEYA 夢屋 ポスター
原画・色指定紙
1971
紙・インク、鉛筆
トレーシングペーパー・カラーインク
46.0 × 35.7cm
作家蔵

178
深沢七郎 [深沢七郎コレクション流・転]
(ちくま文庫)
2010
書籍
武蔵野美術大学 美術館・図書館

179
カワムラ ポストカード
原画・色指定紙
1969
紙・インク
トレーシングペーパー・カラーインク
19.3 × 16.1cm
作家蔵

180
イラスト 原画
3点
制作年不詳
イラストボード・インク、カラートーン
各 25.7 × 36.3cm
作家蔵

181
あなたに夢中なの『平凡パンチ』(平凡出版)
イラスト 原画・色指定紙
1968
紙・インク
トレーシングペーパー・カラーインク
36.2 × 51.4cm
作家蔵

182
悲しい酒『平凡パンチ』(平凡出版)
イラスト 原画・色指定紙
1968
紙・インク
トレーシングペーパー・カラーインク
36.4 × 25.7cm
作家蔵

183
篠山紀信黄江
イラスト 原画・色指定紙
1968
紙・インク
トレーシングペーパー・カラーインク
31.9 × 44.7cm
作家蔵

184
『流行通信』(流行通信)
13冊
1980-1981
雑誌
個人蔵

185
桃井かおり『おもしろ遊戯』(CBS・ソニー)
1982
レコード
個人蔵

泉彼 岸と此岸

186
実験報告
1996
キャンバス・油彩
194.0 × 194.0cm
東京都現代美術館
187
彼岸へ
2000
キャンバス・アクリル
91.0 × 73.0cm
作家蔵 (東京都現代美術館寄託)

188
すべてに泉声を聞け
1994
キャンバス・アクリル
227.5 × 182.0cm
横尾忠則現代美術館

189
すべてに轉聲を聞け
1994
キャンバス・アクリル、コラージュ
227.3 × 182.1cm
作家蔵

190
『朝日ジャーナル』
イラスト 原画・色指定紙
1969頃
紙・インク
トレーシングペーパー・カラーインク
22.2 × 22.2cm
作家蔵

寺山修司との再会

191
かざぐるま
1966
キャンバス・アクリル
60.4 × 50.0cm
三沢市寺山修司記念館

192
かざぐるま 2004
2004
キャンバス・アクリル
60.5 × 50.0cm
作家蔵

193
天井棧敷 定期会員募集 (天井棧敷)
1967
紙・シルクスクリーン
104.0 × 73.7cm
作家蔵

194
大山デブコの犯罪 (天井棧敷)
1967
紙・シルクスクリーン
107.0 × 74.7cm
作家蔵

195
毛皮のマリー (天井棧敷)
1968
紙・シルクスクリーン
105.0 × 75.3cm
作家蔵

196
青森県のせむし男 (天井棧敷)
1967
紙・シルクスクリーン
103.0 × 72.8cm
作家蔵

197
寺山修司「スポーツ無宿」
『週刊スポーツ '66』
イラスト 原画・色指定紙
17点

1966
紙・インク
トレーシングペーパー・カラーインク
19.5-39.1 × 19.6-31.3cm
作家蔵

198
寺山修司「スポーツ無宿」
『週刊スポーツ '66』
イラスト 原画
1966
紙・インク
27.4 × 19.8cm
作家蔵

その他主要資料

199
FAMILY-EI 原画
1974
紙・インク
34.6 × 27.1cm
作家蔵

200
FAMILY-MIMI 原画
1974
紙・インク
34.8 × 27.2cm
作家蔵

201
FAMILY-YASUE 原画
1974
紙・インク
34.5 × 27.3cm
作家蔵

202
FAMILY-TADANORI 原画
1974
紙・インク
39.1 × 27.0cm
作家蔵

203
『新輯蕃薇刑』(集英社)
カバーデザイン 原画・色指定紙
1970
紙・インク
トレーシングペーパー・カラーインク
25.8 × 54.5cm
作家蔵

204
『新輯蕃薇刑』(集英社)
1970
書籍
武蔵野美術大学 美術館・図書館

205
『話の特集』(日本社)
33冊
1966-1976
雑誌

武蔵野美術大学 美術館・図書館 個人蔵	武蔵野美術大学 美術館・図書館	'80-'83] (筑摩書房)	1995
206 『話の特集』(日本社) カバーデザイン 原画・色指定紙 1966 紙・インク トレーシングペーパー・カラーインク 28.7 × 21.0cm 作家蔵	214 深沢七郎 『盲滅亡 深沢七郎対談集』(創樹社) 1971 書籍 個人蔵	1991 書籍 武蔵野美術大学 美術館・図書館	書籍 武蔵野美術大学 美術館・図書館
207 『話の特集』(日本社) カバーデザイン 原画・色指定紙 1966 紙・インク トレーシングペーパー・カラーインク 21.3 × 15.5cm 作家蔵	215 横尾忠則『宇宙瞑想 対談集』(平河出版社) 1980 書籍 武蔵野美術大学 美術館・図書館	224 『365 日の自画像・横尾忠則の画家の日記 '84-'86』(筑摩書房) 1992 書籍 武蔵野美術大学 美術館・図書館	234 瀬戸内寂聴『瀬戸内寂聴全集 1 ~ 20 巻』 (新潮社) 2001-2002 書籍 武蔵野美術大学 美術館・図書館
208 『話の特集』(日本社) カバーデザイン 原画・色指定紙 1966 紙・インク トレーシングペーパー・カラーインク 21.3 × 15.5cm 作家蔵	216 ハル・クレメント『SF 世界の名作—宇宙人 デカ』(岩崎書店) 1967 書籍 武蔵野美術大学 美術館・図書館	225 イアン・リトルウッド 『日本人が書かなかった日本: 誤解と礼賛の 450 年』(イースト・プレス) 1998 書籍 武蔵野美術大学 美術館・図書館	235 瀬戸内寂聴 横尾忠則 『奇縁まんだら』(日本経済新聞出版社) 2011 書籍 武蔵野美術大学 美術館・図書館
209 『話の特集』(日本社) イラスト 原画 1966 紙・インク 9.6 × 12.8cm 作家蔵	217 ハル・クレメント『SF 世界の名作—宇宙人 デカ』(岩崎書店) 口絵 原画、色指定紙 1967 紙・インク トレーシングペーパー・カラーインク 27.1 × 19.8cm 作家蔵	226 大佛次郎『鞍馬天狗 1 ~ 10 巻』(中央公論社) 1969 書籍 武蔵野美術大学 美術館・図書館	236 『千年王国への旅—横尾忠則作品集』(講談社) 1974 画集 武蔵野美術大学 美術館・図書館
210 『話の特集』(日本社) イラスト 原画・色指定紙 1966 紙・インク トレーシングペーパー・カラーインク 19.7 × 11.6cm 作家蔵	218 瀬戸内晴美『幻花(上・下)』(河出書房新社) 1976 書籍 武蔵野美術大学 美術館・図書館	227 『横尾忠則全集』(講談社) 1971 書籍 武蔵野美術大学 美術館・図書館	237 小木新造 他 編『明治大正図誌 1 ~ 17』 (筑摩書房) 1977 画集 武蔵野美術大学 美術館・図書館
211 『広告批評』(マドラ出版) 57 冊 1982-1987 雑誌 武蔵野美術大学 美術館・図書館 個人蔵	219 横尾忠則『インドへ』(文藝春秋社) 1977 書籍 武蔵野美術大学 美術館・図書館	228 柴田錬三郎『自選時代小説全集 1 ~ 30 巻』 (集英社) 1973 書籍 武蔵野美術大学 美術館・図書館	238 『世界版画美術全集 デューラー 他 1 ~ 8 巻』(講談社) 1980-1981 画集 武蔵野美術大学 美術館・図書館
212 『ブルーアス 1985 5/15 号』 (マガジンハウス) 1985 雑誌 武蔵野美術大学 美術館・図書館	220 池田満寿夫 横尾忠則対談『反美的生活のす ずめ』(河出書房新社) 1977 書籍 武蔵野美術大学 美術館・図書館	229 ルドルフ・シュタイナー 『シュタイナー選集』(イザラ書房) 1987 書籍 武蔵野美術大学 美術館・図書館	239 『山口長男作品集』(講談社) 1981 画集 武蔵野美術大学 美術館・図書館
213 『PAR AVION Vol.1-Vol.6』(SDC 出版) 1988 雑誌	221 横尾忠則『昨日のぼく 今日のぼく』(講談社) 1980 書籍 武蔵野美術大学 美術館・図書館	230 『横尾忠則グラフィック大全』(講談社) 1989 書籍 武蔵野美術大学 美術館・図書館	240 横尾忠則 『横尾忠則の画家の日記』 (アートダイジェスト出版) 1987 画集 武蔵野美術大学 美術館・図書館
	222 横尾忠則『8 時起床、晴。: 今日はいいこと がありそうだ』(佼成社) 1980 書籍 武蔵野美術大学 美術館・図書館	231 『坂口安吾全集 1 ~ 12 巻(文庫)』(筑摩書房) 1990 書籍 武蔵野美術大学 美術館・図書館	241 『源氏物語 横尾忠則作品集』(飛鳥出版) 1991 画集 武蔵野美術大学 美術館・図書館
	223 『いわゆる画家宣言: 横尾忠則の画家の日記	232 『多田道太郎著作集 1 ~ 6 巻』(筑摩書房) 1994 書籍 武蔵野美術大学 美術館・図書館	242 『細江英公人間写真集 胡蝶の夢 舞踏家 大野一雄』(青幻舎) 2006 画集 武蔵野美術大学 美術館・図書館
	224 『いわるる画家宣言: 横尾忠則の画家の日記	233 高橋克彦『炎立つ 全 5 巻(文庫)』(講談社)	

掲載記事

朝日新聞

2013年10月23日(水)

横尾忠則の「昭和NIPPON」 分析すり抜ける無限の謎

東奥日報

2013年9月5日(木)

激動の時代振り返る 横尾忠則「昭和NIPPON」展

2013年9月8日(日)

横尾忠則の世界集結 県美で作品展 初日は公開制作

陸奥新報

2013年9月7日(土)

「昭和感じ取って」県美きょうから横尾忠則展

2013年9月28日(土)

横尾忠則展が入場5000人達成

デーリー東北

2013年9月7日(土)

横尾忠則展 きょう開幕

2013年9月8日(日)

力強い筆遣いをファンが見守る 青森県立美術館で横尾さん公開制作

読売新聞

2013年9月8日(日)

横尾忠則作品展 県立美術館で

毎日新聞

2013年9月8日(日)

横尾さんが公開制作 県立美術館 企画展イベントで

日本の民家一九五五年 二川幸夫建築写真の原点

開催概要

会期：2013年12月14日（土）－2014年3月30日（日）

開催日数：95日間

主催：日本の民家展実行委員会（青森県立美術館、青森県写真連盟、一般社団法人青森県建築士会女性委員会）

特別協力：A.D.A EDITA Tokyo CO.,Ltd.、GA photographers

技術協力：エプソン販売株式会社

展示協賛：タキヤ株式会社

協力：パナソニック 汐留ミュージアム、青い森鉄道株式会社

後援：東奥日報社、デーリー東北新聞社、陸奥新報社、青森県教育委員会

観覧料：一般 700（600）円、高大生 500（420）円、小中生 200（160）円

※（ ）内は20名以上の団体料金

会場デザイン：藤本壮介（藤本壮介建築設計事務所）

アートディレクション：細谷巖（ライトパブリシティ）

入場者数

5,115人

関連企画

（1）県美土曜ゼミ『日本の民家』を巡る旅』

1957年から59年にかけて発行された『日本の民家』。若き日の二川幸夫と伊藤ていじが各地を旅し、とらえた民家が現代に語りかけるものとは何かを考察した。

日時：12月21日（土）13:30－15:00

場所：青森県立美術館シアター

参加者数：15人

（2）おはなし会ロング「ミンナ DE ミンカ」

参加者が美術館を冒険しながら、美術館の様々な場所や部分を写真撮影するワークショップを行った。撮影した写真の中から参加者自らお気に入りの1枚を選び、その写真をワークショップ前廊下に展示した。展示は、本展の展示方法を取り入れた空間にした。

日時：12月21日（土）－2014年1月13日（月・祝）

10:00－15:00

・撮影ワークショップ

2013年12月21日（土）－2014年1月5日（日）

・作品展示期間

2014年1月6日（月）－1月13日（月・祝）

場所：青森県立美術館ワークショップ前廊下

ワークショップ参加者数：101人

観覧者数：484人

（3）なりきりワークショップ「昭和30年代の人々になりきる」四季を肌で感じながら生活していた昭和30年代の人々の暮らしを体験するため、参加者が持参した布を使って、みかんの皮による草木染めを行った。

日時：2014年1月18日（土）

会場：青森県立美術館ワークショップB

参加者数：9人

（4）青木淳×藤本壮介 立春建築放談

本展の会場構成を担当した藤本壮介氏と青森県立美術館を設計した青木淳氏が、青森県立美術館の建築や藤本氏の建築作品、本展の展示と二川への想いなどについて語った。

日時：2014年2月1日（土）14:00－15:30

場所：青森県立美術館シアター

参加者数：180人

（5）講演会「民芸のある美しい暮らし『民芸×インテリア』」

「民芸」が生まれた歴史や物語、そして、私たちが暮らす青森の風土から生まれた民芸品について学び、こころ豊かに美しく暮らすとはどういうことか。青森県民藝協会会長 會田秀明氏とあおりインテリアコーディネーター倶楽部 石戸谷英子氏との対談形式で「民芸×インテリア」を切り口に改めて考えた。

日時：2014年2月22日（土）13:30－14:50

場所：青森県立美術館ワークショップA

講師：會田秀明（つがる工芸店店主、青森県民藝協会会長）、石戸谷英子（あおりインテリアコーディネーター倶楽部）

主催：公益社団法人インテリア産業協会 東北支部

参加者数：30人

（6）ワークショップ「行燈風テーブルランプづくり」

ねぶた師の竹浪比呂央氏と手塚茂樹氏の指導のもと、針金と和紙でつくった小ぶりのテーブルランプに、ろうと絵具で模様・色付をした。

日時：2014年2月22日（土）15:00－17:00

場所：青森県立美術館ワークショップA

講師：竹浪比呂央、手塚茂樹

（ねぶた師、竹浪比呂央ねぶた研究所）

主催：公益社団法人インテリア産業協会 東北支部

参加者数：20人



ポスター



展示風景 Photo: Yoshio Futagawa

本展は、1950年代より建築写真を撮り続け、国際的にも高く評価される二川幸夫（1932-2013）が約60年前に発表したデビュー作『日本の民家』を、最新のデジタル技術による大型プリント72点により展覧したものであり、パナソニック 汐留ミュージアム（東京）が企画し、2013年1月12日から3月24日にかけて同ミュージアムにおいて開催された展覧会の巡回展である。

写真集『日本の民家』（全10巻）は1957年から59年にかけて美術出版社より発行されたもので、若き日の二川幸夫が約6年をかけて日本各地を歩き、記録した280点の写真が収録されている。また、本書の解説は、のちに工学院大学学長に就く建築史家・伊藤ていじ（1922-2010）であった。庶民が長い年月をかけて築き上げてきた民家という存在を世に問うた本書は、出版当初より国内外において絶賛され、1959年には第13回毎日出版文化賞を受賞している。

今回、二川は改めて全てのネガに目を通し87点を厳選して「決定版」写真集として再編集・発行し、本展もそれに沿った

かたちで構成された。

展覧会の会場構成・デザインは、斬新なデザインで注目を集める若手建築家、藤本壮介が担当した。藤本は作品を天井から吊るして配置し、作品が宙に浮遊しているかのような空間をつくり出し、作品を鑑賞する者があたかも民家とそれを取り巻く風景の中に身を置いているかのような空間体験を演出した。

その他、二川幸夫がこれまでに手掛けた書籍60冊も併せて展示し、クオリティの高い書籍によって世界の建築を紹介し続けた業績も紹介するとともに、二川幸夫、伊藤ていじ関連の書籍を自由に閲覧できるスペースも設けた。また、汐留ミュージアムでの開催時に制作された展示映像（14分）の上映もおこなった。

出品作品

京・山城

1
空から見た中京区辺りの町屋
1950年代
インクジェットプリント
118.3cm×90.0cm

2
堀川べりにつづく家並み
1950年代
インクジェットプリント
70.2cm×60.0cm

3
京都市中京区、藤井源四郎家のミセ正面
1950年代
インクジェットプリント
69.6cm×90.0cm

4
京都市北区、松野隆男家の乾蔵（いぬいぐら）の戸まえ
1950年代
インクジェットプリント
72.9cm×90.0cm

大和・河内

5
空から見た天理の集落
1950年代
インクジェットプリント
80.7cm×120.0cm

6
四条の集落（唐招提寺近く）
1950年代
インクジェットプリント
64.5×90.0cm

7
空から見た大和の集落
1950年代
インクジェットプリント
81.5cm×90.0cm

8
奈良市白毫寺町の集落
1950年代
インクジェットプリント
75.5cm×90.0cm

9
南河内、羽曳野市、吉村要治郎家
1950年代
インクジェットプリント
64.2cm×90.0cm

10
吉村要治郎家、広敷の天井
1950年代
インクジェットプリント
55.0cm×55.0cm

11
吉村要治郎家、奥座敷
1950年代
インクジェットプリント
55.0cm×55.0cm

12
奈良市北御門町 細田与一家のかまど
1950年代
インクジェットプリント
63.8cm×90.0cm

13
郡山市九条の井戸
1950年代
インクジェットプリント
60.2cm×60.0cm

14
奈良市の町屋、中庭を見下ろす
1950年代
インクジェットプリント
70.1cm×60.0cm

15
橿原市今井町、今西一郎家
1950年代
インクジェットプリント
60.0cm×60.0cm

山陽路

16
倉敷市本町附近の町屋
1950年代
インクジェットプリント
66.0cm×90.0cm

17
倉敷市本町、大原総一郎家
1950年代
インクジェットプリント
61.2cm×90.0cm

18
倉敷市本町、小山収二家の表二階（屋根裏）
1950年代
インクジェットプリント
66.4cm×90.0cm

四国路

19
愛媛県南宇和郡西海町、外泊（そとどまり）集落
1950年代
インクジェットプリント
86.1cm×120.0cm

20
愛媛県南宇和郡西海町、外泊（そとどまり）集落
1950年代
インクジェットプリント
90.0cm×66.5cm

21
外泊（そとどまり）集落、石畳の小道
1950年代
インクジェットプリント
90.0cm×58.8cm

22
外泊（そとどまり）集落の防風石垣
1950年代
インクジェットプリント
88.4cm×120.0cm

23
徳島県つるぎ町、桑平の集落
1950年代
インクジェットプリント
59.8cm×90.0cm

24
徳島県つるぎ町、平（たいら）の民家
1950年代
インクジェットプリント
60.4cm×90.0cm

西海路

25
佐賀県杵島郡嘉瀬川の集落
1950年代
インクジェットプリント
65.2cm×90.0cm

26
佐賀県、民家の草葺屋根
1950年代
インクジェットプリント
90.4cm×90.0cm

27
佐賀の民家、馬の耳の形をした尖りのある屋根
1950年代
インクジェットプリント
37.4cm×60.0cm

28
クド造りの民家
1950年代
インクジェットプリント
39.9cm×60.0cm

29
宮崎県西臼杵郡高千穂町の民家
1950年代
インクジェットプリント
66.9cm×66.5cm

30
宮崎県西臼杵郡高千穂町五ヶ村、工藤東蔵家

の神棚
1950年代
インクジェットプリント
58.8cm×58.8cm

31
鹿児島県阿久根市尻無の民家群
1950年代
インクジェットプリント
86.1cm×85.2cm

32
山形県鶴岡市、田麦俣の集落
1950年代
インクジェットプリント
79.2cm×120.0cm

33
山形県鶴岡市、田麦俣の民家
1950年代
インクジェットプリント
58.2cm×90.0cm

34
岩手県八幡平市兄川の関清造家
1950年代
インクジェットプリント
66.7cm×90.0cm

35
関清造家、台所よりニワを見る
1950年代
インクジェットプリント
62.9cm×90.0cm

36
岩手県遠野市上綾織、曲屋の千葉哲雄家、遠望
1950年代
インクジェットプリント
58.5cm×90.0cm

37
千葉哲雄家、廊下を支える石の片持ち梁
1950年代
インクジェットプリント
75.5cm×55.0cm

38
千葉哲雄家の馬屋
1950年代
インクジェットプリント
75.5cm×55.0cm

39
山形県蔵王村、民家の妻破風
1950年代
インクジェットプリント
90.0cm×89.0cm

40
福島県猪苗代町八幡の冬の日の村辻
1950年代
インクジェットプリント
90.0cm×85.2cm

武蔵・両毛

41
埼玉県川越市志義町、旧原田米穀店、店蔵の正面
1950年代
インクジェットプリント
100.0cm×118.9cm

42
空から見る武蔵野の集落
1950年代
インクジェットプリント
90.0cm×67.5cm

43
埼玉県秩父、三峰神社神主裏の神主集落
1950年代
インクジェットプリント
74.3cm×120.0cm

44
群馬県吾妻郡六合村の集落を望む
1950年代
インクジェットプリント
87.2cm×120.0cm

45
群馬県勢多郡宮城村、阿久沢丞一郎家
1950年代
インクジェットプリント
66.2cm×90.0cm

信州・甲州

46
山梨県山梨市加納岩の雨宮生紀家
1950年代
インクジェットプリント
65.5cm×90.0cm

47
山梨県塩山市の甘草屋敷（高野宅美家）、屋根裏の大黒柱
1950年代
インクジェットプリント
60.0cm×90.0cm

48
長野県大町市常盤上一本木、清水千春家
1950年代
インクジェットプリント
74.3cm×100.7cm

49
清水千春家、「かって」（家族の間、食事の間）廻り
1950年代
インクジェットプリント
67.3cm×90.0cm

50
長野県塩尻市、本山宿を望む
1950年代
インクジェットプリント

66.5cm×90.0cm
51
清流の流れる本山宿の町並み
1950年代
インクジェットプリント
120.0cm×78.6cm

52
長野県塩尻市、郷原宿、山城屋（赤羽家）の正面
1950年代
インクジェットプリント
87.8cm×120.0cm

北陸路

53
滋賀県伊香郡西浅井町集福寺の集落
1950年代
インクジェットプリント
78.8cm×120.0cm

54
滋賀県伊香郡西浅井町集福寺、田中弥太郎家、ニワの囲炉裏ばた
1950年代
インクジェットプリント
45.0cm×57.7cm

55
滋賀県伊香郡田中弥太郎邸、入り口。履き物を脱ぎ、すのこを伝って中に入る
1950年代
インクジェットプリント
45.0cm×29.4cm

56
石川県輪島市町野町、時国宏邸の大黒柱
1950年代
インクジェットプリント
90.0cm×75.7cm

57
石川県輪島市町野町、時国宏家、正面
1950年代
インクジェットプリント
61.8cm×90.0cm

58
新潟県岩船郡関川村下関、渡辺万寿太郎家
1950年代
インクジェットプリント
91.7cm×120.0cm

59
新潟県岩船郡関川村下関、渡辺万寿太郎家、茶の間と台所
1950年代
インクジェットプリント
78.8cm×102.2cm

60
新潟県岩船郡関川村、佐藤泰彦家
1950年代

インクジェットプリント
68.0cm×90.0cm
61
新潟県三島郡出雲崎町の漁師町
1950年代
インクジェットプリント
79.0cm×112.4cm

62
新潟県糸魚川市能生の船小屋
1950年代
インクジェットプリント
59.8cm×90.0cm

高山・白川

63
岐阜県高山市、日下部礼一家
1950年代
インクジェットプリント
79.0cm×120.0cm

64
岐阜県高山市、日下部礼一家、「おいえ」（右）と「なかのおいえ」（左）
1950年代
インクジェットプリント
84.7cm×120.0cm

65
日下部礼一家、ロジから見る各部屋
1950年代
インクジェットプリント
80.0cm×54.4cm

66
岐阜県高山市、吉島休兵衛家、ロジの中仕切
1950年代
インクジェットプリント
80.0cm×54.9cm

67
日下部礼一家、梁組
1950年代
インクジェットプリント
121.1cm×90.0cm

68
吉島休兵衛家、梁組
1950年代
インクジェットプリント
130.1cm×90.0cm

69
岐阜県大野郡白川村、飛騨加須良集落
1950年代
インクジェットプリント
87.8cm×120.0cm

70
富山県上平村、越中桂の民家
1950年代
インクジェットプリント
90.1cm×120.0cm

71
岐阜県白川村芦倉の民家、居間
1950年代
インクジェットプリント
87.9cm×120.0cm

72
岐阜県白川村芦倉、合掌造りの民家と墓
1950年代
インクジェットプリント
67.9cm×67.5cm

書籍

73
日本の民家 「大和・河内」
二川幸夫 撮影、伊藤ていじ 文
美術出版社
1957-59年
35.4cm×26.3cm×0.6cm

74
日本建築の根
二川幸夫 写真、伊藤ていじ 文
美術出版社
1962年
34.5cm×26.6cm×3.0cm

75
日本のかたち
二川幸夫 企画・撮影、神代雄一郎 文、細谷巖 構成
美術出版社
1963年
28.8cm×25.5cm×1.7cm

76
沖縄の民芸
二川幸夫 撮影、水尾比呂志 執筆、田中一光 構成
美術出版社
1964年
37.0cm×25.7cm×2.8cm

77
GA 1 フランク・ロイド・ライト ジョンソン・ワックス本社 1936-9
二川幸夫 企画・撮影、磯崎新 文、細谷巖 デザイン
エーディーエー・エディタ・トーキョー
1970年
36.4cm×25.7cm×0.6cm

78
現代の数寄屋
二川幸夫 写真、伊藤ていじ 文
淡交社
1971年
30.8cm×31.7cm×2.7cm

79
GI 1 アメリカの住宅
二川幸夫 企画・撮影
エーディーエー・エディタ・トーキョー

1971年 28.7cm×22.8cm×1.8cm	エーディーエー・エディタ・トーキョー 1980年 31.7cm×32.0cm×5.2cm	30.9cm×31.7cm×3.6cm	107 ガラスの家：ダルザス邸 二川幸夫 企画・撮影、ベルナルル・ボシェ 文・図面、三宅 理一 翻訳 エーディーエー・エディタ・トーキョー 1988年 30.7cm×31.3cm×2.0cm
80 世界の村と街1 エーゲ海の村と街 二川幸夫 企画・撮影、磯崎新 文 エーディーエー・エディタ・トーキョー 1973年 30.7cm×23.4cm×3.1cm	89 GA DOCUMENT SPECIAL ISSUE 1 1970- 1980 エーディーエー・エディタ・トーキョー 1980年 30.0cm×29.7cm×2.2cm	98 フランク・ロイド・ライト全集 第10巻 二川幸夫 企画・撮影 エーディーエー・エディタ・トーキョー 1986年 30.9cm×31.7cm×3.5cm	108 フランク・ロイド・ライトの住宅 第3巻 タリアセン・ウェスト フランク・ロイド・ライト 作、二川幸夫 企画・編集、ブルース・ブルックス・ファイ ファー 文、玉井一匡 訳 エーディーエー・エディタ・トーキョー 1989年 22.7cm×30.1cm×1.5cm
81 ケヴィン・ローチ/ジョン・ディンケルー作 品集 Vol.1 J.アーヴィン・ミラー/ハンリー・ラッセル・ ヒッチコック 著 エーディーエー・エディタ・トーキョー 1975年 30.7cm×31.6cm×3.1cm	90 GA DOCUMENT 1 エーディーエー・エディタ・トーキョー 1980年 30.0cm×29.8cm×1.1cm	99 GA ARCHITECT 5 ザハ・ハディド ザハ・ハディド/二川幸夫 著、磯崎新/ アルヴァン・ボヤルスキー 序論 エーディーエー・エディタ・トーキョー 1986年 30.0cm×31.0cm×1.1cm	109 フランク・ロイド・ライトの住宅 第2巻 タリアセン フランク・ロイド・ライト 作、二川幸夫 企画・編集、ブルース・ブルックス・ファイ ファー 文、玉井一匡 訳 エーディーエー・エディタ・トーキョー 1990年 22.7cm×30.3cm×1.5cm
82 ジェームズ・スターリング作品集 1950- 1975 ジョン・ジェコブス 序、石井和紘ほか 訳 エーディーエー・エディタ・トーキョー 1975年 24.2cm×29.4cm×2.7cm	91 GA DOCUMENT 特別号2 MODERN ARCHITECTURE 1851-1919 二川幸夫 企画・撮影、ケネス・フランプト ン 文、香山壽夫翻訳 エーディーエー・エディタ・トーキョー 1981年 30.0cm×29.8cm×1.5cm	100 フランク・ロイド・ライト全集 第2巻 二川幸夫 企画・撮影 エーディーエー・エディタ・トーキョー 1987年 30.8cm×31.7cm×3.2cm	110 フランク・ロイド・ライトの住宅 第4巻 落水荘 フランク・ロイド・ライト 作、二川幸夫 企画・編集、ブルース・ブルックス・ファイ ファー 文、玉井一匡 訳 エーディーエー・エディタ・トーキョー 1990年 22.7cm×30.2cm×1.4cm
83 フィリップ・ジョンソン著作集 ディヴィッド・ホイットニー 編集、横山正 翻訳 エーディーエー・エディタ・トーキョー 1975年 24.2cm×19.5cm×3.3cm	92 フランク・ロイド・ライト全集 第12巻 二川幸夫 企画・撮影 エーディーエー・エディタ・トーキョー 1984年 30.8cm×31.8cm×4.4cm	101 フランク・ロイド・ライト全集 第3巻 二川幸夫 企画・撮影 エーディーエー・エディタ・トーキョー 1987年 30.8cm×31.7cm×3.3cm	111 フランク・ロイド・ライトの住宅 第5巻 1930、40年代の名作 フランク・ロイド・ライト 作、二川幸夫 企画・編集、ブルース・ブルックス・ファイ ファー 文、玉井一匡 訳 エーディーエー・エディタ・トーキョー 1990年 22.7cm×30.0cm×1.6cm
84 GA HOUSES 1 エーディーエー・エディタ・トーキョー 1976年 30.0cm×22.8cm×1.4cm	93 フランク・ロイド・ライト全集 第4巻 二川幸夫 企画・撮影 エーディーエー・エディタ・トーキョー 1985年 30.8cm×31.7cm×3.2cm	102 フランク・ロイド・ライト全集 第11巻 二川幸夫 企画・撮影 エーディーエー・エディタ・トーキョー 1987年 30.9cm×31.7cm×3.8cm	112 安藤忠雄ディテール集1 二川幸夫 編集・企画、ピーター・アイゼン マン 論文、安藤忠雄 作品解説、渡辺洋 (英 訳) / 丸山洋志 (和訳) 翻訳 エーディーエー・エディタ・トーキョー 1991年 30.0cm×31.0cm×1.5cm
85 GA DETAIL 1 ファンスワース邸 ミース・ ファン・デル・ローエ ダーク・ローハン 文、北村修一 製図 エーディーエー・エディタ・トーキョー 1976年 25.9cm×36.4cm×0.7cm	94 フランク・ロイド・ライト全集 第5巻 二川幸夫 企画・撮影 エーディーエー・エディタ・トーキョー 1985年 30.8cm×31.7cm×3.2cm	103 フランク・ロイド・ライト全集 第7巻 二川幸夫 企画・撮影 エーディーエー・エディタ・トーキョー 1987年 30.8cm×31.8cm×4.0cm	113 フランク・ロイド・ライトの住宅 第1巻 ブレイリー・ハウス フランク・ロイド・ライト 作、二川幸夫 企画・編集、ブルース・ブルックス・ファイ ファー 文、玉井一匡 訳 エーディーエー・エディタ・トーキョー 1991年 22.7cm×30.0cm×1.8cm
86 フランク・ロイド・ライト建築透視図集1 フランク・ロイド・ライト 画、横山正 訳 エーディーエー・エディタ・トーキョー 1977年 55.0cm×41.6cm×6.0cm	95 フランク・ロイド・ライト全集 第9巻 二川幸夫 企画・撮影 エーディーエー・エディタ・トーキョー 1985年 30.9cm×31.6cm×3.5cm	104 フランク・ロイド・ライト全集 第7巻 二川幸夫 企画・撮影 エーディーエー・エディタ・トーキョー 1988年 30.8cm×31.8cm×4.0cm	
87 木の民家 ヨーロッパ 鈴木洵 文、二川幸夫 撮影 エーディーエー・エディタ・トーキョー 1978年 31.6cm×31.9cm×3.8cm	96 フランク・ロイド・ライト全集 第1巻 二川幸夫 企画・撮影 エーディーエー・エディタ・トーキョー 1986年 30.8cm×31.7cm×3.1cm	105 フランク・ロイド・ライト全集 第8巻 二川幸夫 企画・撮影 エーディーエー・エディタ・トーキョー 1987年 30.8cm×31.6cm×4.2cm	
88 日本の民家 二川幸夫 企画・撮影、伊藤ていじ 文	97 フランク・ロイド・ライト全集 第6巻 二川幸夫 企画・撮影 エーディーエー・エディタ・トーキョー 1986年	106 現代建築の根 二川幸夫 企画・撮影、クリスチャン・ノル ベルグ＝シュルツ 文、加藤邦男 訳 エーディーエー・エディタ・トーキョー 1988年 30.0cm×31.0cm×1.5cm	

114	1998年 フランク・ロイド・ライトの住宅 第6巻 ユーソニアン・ハウス1 フランク・ロイド・ライト 作、二川幸夫 企画・編集、ブルース・ブルックス・ファイ ファー 文、玉井一匡 訳 エーディーエー・エディタ・トーキョー 1991年 22.7cm×30.2cm×1.5cm	21.0cm×15.0cm×2.0cm	二川幸夫 著 エーディーエー・エディタ・トーキョー 2009年 21.0cm×15.1cm×1.8cm	エーディーエー・エディタ・トーキョー 2010年 21.0cm×15.1cm×1.8cm
115	122 フランク・ロイド・ライトの住宅 第7巻 ユーソニアン・ハウス2 フランク・ロイド・ライト 作、二川幸夫 企画・編集、ブルース・ブルックス・ファイ ファー 文、玉井一匡 訳 エーディーエー・エディタ・トーキョー 1991年 22.7cm×30.2cm×1.5cm	122 現代建築を考える〇と× 二川幸夫 企画・編集 エーディーエー・エディタ・トーキョー 1998年 21.0cm×15.0cm×1.5cm	131 世界現代住宅全集01 Residential Masterpieces アルヴァ・アアルト ヴィラ・マイレア クリスティアン・グリクセン 文 二川幸夫 企画・編集・撮影 エーディーエー・エディタ・トーキョー 2009年 36.4cm×26.0cm×1.1cm	138 世界現代住宅全集11 Residential Masterpieces チャールズ・レニー・マッキングトッシュ ビル・ハウス 二川由夫 文 二川幸夫 企画・編集・撮影 エーディーエー・エディタ・トーキョー 2011年 36.4cm×25.9cm×0.7cm
116	123 フランク・ロイド・ライトの住宅 第8巻 コンクリート及びコンクリート・ブロックの 住宅 フランク・ロイド・ライト 作、二川幸夫 企画・編集、ブルース・ブルックス・ファイ ファー 文、玉井一匡 訳 エーディーエー・エディタ・トーキョー 1991年 22.7cm×30.2cm×1.6cm	123 反回想 磯崎新 著 エーディーエー・エディタ・トーキョー 2001年 21.6cm×15.5cm×2.4cm	132 世界現代住宅全集02 Residential Masterpieces ルイス・バラガン バラガン自邸 二川由夫 文 二川幸夫 企画・編集・撮影 エーディーエー・エディタ・トーキョー 2009年 36.4cm×26.0cm×1.0cm	139 スティーヴン・ホール完全作品集1975- 2012 スティーヴン・ホール 作 二川幸夫 企画・編集 エーディーエー・エディタ・トーキョー 2012年 31.0cm×31.3cm×5.3cm
117	124 GA JAPAN 01 創刊号 エーディーエー・エディタ・トーキョー 1992年 30.0cm×22.9cm×2.0cm	124 世界現代建築全集 01 MUSEUM1 二川幸夫 企画・編集・撮影 エーディーエー・エディタ・トーキョー 2001年 30.7cm×23.8cm×3.0cm	133 世界現代住宅全集03 Residential Masterpieces OMA ヴィラ・ダラヴァ 二川由夫 文 二川幸夫 企画・編集・撮影 エーディーエー・エディタ・トーキョー 2009年 36.4cm×26.0cm×1.0cm	140 GA JAPAN 120 エーディーエー・エディタ・トーキョー 2013年 30.0cm×23.0cm×1.5cm
118	125 光の空間1 二川幸夫 企画・撮影、バオロ・ポルトゲー ジ 序文、三宅理一 文 エーディーエー・エディタ・トーキョー 1994年 30.8cm×30.8cm×2.0cm	125 GA TRAVELER 007 Frank Lloyd Wright Architecture フランク・ロイド・ライト 作 二川幸夫 企画・編集・撮影 ブルース・ブルックス・ ファイファー 文、菊池泰子 訳 エーディーエー・エディタ・トーキョー 2003年 22.8cm×16.1cm×3.2cm	134 世界現代住宅全集05 Residential Masterpieces ル・コルビュジエ サヴォア邸 隈研吾 文 二川幸夫 企画・編集・撮影 エーディーエー・エディタ・トーキョー 2009年 36.4cm×26.0cm×0.7cm	
119	126 GA75 ミース・ファン・デル・ローエ バ ルセロナ・バヴィリオン1928-29 (1986 再建) / トゥーゲントハート邸1928-30 二川幸夫 企画・撮影、フリッツ・ノイマイ ヤー 文、細谷巖 デザイン エーディーエー・エディタ・トーキョー 1995年 36.4cm×25.7cm×0.6cm	126 GA TRAVELER 008 GAUDI ガウディ 作 二川幸夫 企画・編集・撮影 二川由夫 文 渡辺洋 訳 エーディーエー・エディタ・トーキョー 2003年 22.8cm×16.4cm×2.6cm	135 世界現代住宅全集07 Residential Masterpieces ジェフリー・バワ 33rd Lane (バワ自邸) / ルヌガンガ (バワの庭園) 二川由夫 文 二川幸夫 企画・編集・撮影 エーディーエー・エディタ・トーキョー 2010年 36.4cm×26.0cm×0.7cm	
120	127 GA DOCUMENT EXTRA 安藤忠雄 著、二川幸夫 編集 エーディーエー・エディタ・トーキョー 1995年 30.0cm×22.8cm×1.2cm	127 Oscar Niemeyer Form & Space オスカー・ニーマイヤー 作 二川幸夫 企画・編集・撮影 エーディーエー・エディタ・トーキョー 2008年 22.9cm×31.0cm×2.3cm	136 世界現代住宅全集08 Residential Masterpieces カルロ・スカルバ ヴェリッティ邸 / オッ トーレンギ邸 二川由夫 文 二川幸夫 企画・編集・撮影 エーディーエー・エディタ・トーキョー 2010年 36.4cm×25.9cm×0.7cm	
121	128 妹島和世誌本-1998 妹島和世 著、二川幸夫 企画・編集 エーディーエー・エディタ・トーキョー	128 HOUSES IN MEXICO 二川幸夫 企画・編集 エーディーエー・エディタ・トーキョー 2008年 30.0cm×26.0cm×1.6cm	137 藤本社介誌本 藤本社介 述 二川由夫 インタビュー 二川幸夫 企画・編集	
	129 妹島和世 著、二川幸夫 企画・編集 エーディーエー・エディタ・トーキョー	129 TOYO ITO RECENT PROJECT 伊東豊雄 著 エーディーエー・エディタ・トーキョー 2008年 30.0cm×25.9cm×1.5cm		
	130 妹島和世 著、二川幸夫 企画・編集 エーディーエー・エディタ・トーキョー	130 GA日記		

掲載記事

東奥日報

2013年12月27日(金)
県美で「日本の民家一九五五年」展
価値と美 写真で伝える

2014年2月17日(月)
二川作品の魅力探る 県美「日本の民家」写真
真展イベント 青木さん、藤本さん対談

2014年3月25日(火)
「建築写真家 二川幸夫の原点 県立美術館
「日本の民家」展 ㊦ 日本建築の本質発見」

2014年3月26日(水)
「建築写真家 二川幸夫の原点 県立美術館
「日本の民家」展 ㊦ 人間に対する深い共
感」

陸奥新報

2013年11月21日(木)
県美 懐かしい「日本の民家」来月14日
開幕 二川氏の写真72点

2013年12月14日(土)
「日本の民家」趣感じて 県美企画展 きょ
う開幕 二川氏の写真72点

2014年1月17日(金)
「建築写真家 二川幸夫の原点(上) 国内美
術館で初開催 デビュー作72点を展覧」

2014年1月24日(金)
「建築写真家 二川幸夫の原点(中) 民家が
生きた最後の時代 1955年へのこだわり」

2014年1月31日(金)
「建築写真家 二川幸夫の原点(下) 養蚕用
構造に地方色 自然環境と文化など影響」

デーリー東北

2014年2月17日(月)
「青森県立美術館企画展 日本の民家1955
年 各地方訪れ写真に記録 造形力の魅力」

2014年2月24日(月)
「青森県立美術館企画展 日本の民家1955
年 地方ごとに際立つ特徴 屋根の形式」

河北新報

2013年12月7日(土)
東北などの民家72点 建築写真家・二川幸
夫写真展 青森県美術館で14日開幕

2014年2月13日(木)
「日本の民家一九五五年 二川幸夫・建築写
真の原点 地方色豊か 多様な造形美」

アーツスケープ (Web)

2014年2月15日(土)
フォーカス/民家のガンバリと力強さー
「日本の民家一九五五年ー二川幸夫・建築写
真の原点」レビュー 飯沢耕太郎(写真評論)

平成 25 年度常設展示

Permanent Exhibition 2013

通年展示

アレコホール マルク・シャガールによるバレエ「アレコ」の背景画

20 世紀を代表する画家、マルク・シャガール（1887-1985）が制作した全 4 幕から成るバレエ「アレコ」の舞台背景画、第 1 幕、第 2 幕、第 4 幕を展示。

1942 年初演のバレエ「アレコ」は、ナチの迫害から逃れるためにアメリカへ亡命したシャガールが舞台美術を、バレエ・リュスで活躍したロシア人ダンサー、レオニード・マシーンが振付を手がけた。音楽はピョートル・チャイコフスキーによるイ短調ピアノ三重奏曲をオーケストラ用に編曲したものが用いられ、ストーリーはアレクサンドル・プーシキンの叙情詩『ジプシー』を原作としている。シャガールは祖国ロシアの文化の粋を結集したこの企画に夢中になり、そのたくましい想像力と類いまれな色彩感覚によって仕上げた舞台は大好評を博した。

展示室 F 奈良美智：『A to Z Memorial Dog マスター型』
『ニュー・ソウルハウス』

国内外で活躍する青森県出身の美術作家・奈良美智（1959 - ）が、創作ユニット・graf とのコラボレーションにより 2006 年に制作した小屋の作品の一つ、《ニュー・ソウルハウス》を中心に、収蔵作品や作家からの寄託作品を展示。

奈良美智は 1988 年から 2000 年までドイツに滞在していた頃から、挑むような目つきの女の子の絵や、ユーモラスでありながらどこか哀しげな犬の立体作品などで若い世代を中心に多くの人の心をとらえてきた。青森県立美術館では、開館前の 1998 年から絵画やドローイングなどの収集を始め、現在 160 点を超えるコレクションを有している。

第 1 期：棟方志功生誕 110 年記念 棟方志功の多面体 ほか

2013 年 3 月 16 日（土）－ 6 月 9 日（日）

開催日数：84 日間

特集：棟方志功生誕 110 年記念 棟方志功の多面体

展示室 N 棟方志功展示室 板画で描く神々

棟方志功（1903 -1975）は、日本の神仏だけでなくさまざまな国々の神々や、自然が人の形をとって表現されているようなアニミズム的な神々を数多く描いている。ヒンドウー教や古事記の神々、世界の七つの海を表現した女性像や、ニューヨークでトーテムポールから着想を得た最初にアメリカの地にたった五人の女性像、さらにニーチェがゾロアスター教の開祖から名

を借りて超人思想を語った『ツアラトウストラはかく語りき』の詩を彫り込んだ『運命頌』など、多彩な神々をモチーフにした作品を展示。

展示室 P ふたつの“バラライカ”今純三と棟方志功

《バラライカの女の柵》は、棟方志功が十歳年長の先輩画家、今純三（1893 -1944）への敬愛の念を込め、その代表作《バラライカ》に捧げたオマージュである。

青森の近代美術における青春期ともいえる時代を生きた二人の画家の出会いをテーマに、棟方の《バラライカの女の柵》（棟方志功記念館所蔵）、今の《バラライカ》（弘前市立博物館所蔵）、さらに今が若き日の棟方を描いた銅版画《棟方志功像》（青森県立郷土館所蔵）を展示。

展示室 Q 油彩画家 棟方志功

棟方が友人の小野忠明から見せられた『白樺』掲載のゴッホのひまわりの図をみて感動し、「わだばゴッホになる」と画家を志したというのは、自伝のタイトルにもなった有名なエピソードである。当初、油彩画を描いていたが、目も悪く、師もない棟方は帝展に何度も落選。ようやく 1928 年に初入選を果たすが、この頃から次第に油彩画から離れ、版画が創作の中心となる。暗めの色調でフォービスム風に描かれた当時の流行を感じさせる初期作品と、これらとはうってかわって華やかで明るい原色を用い、闊達自在な筆致で描かれた晩年の油彩作品を展示。

展示室 M 倭画の魅力

棟方は筆と顔料という日本画の伝統的スタイルで描いた絵を倭画（やまとが）とよび、即興的で自在な筆はこびで、大作から愛らしい美人画まで数多くの作品を残している。鷹や女性像を描いた、倭画の代表作を展示。

展示室 L 棟方志功と民芸

棟方は 1936 年、国画会展で『大和し美し』が民芸運動の創始者、柳宗悦と浜田庄司の目にとまったことがきっかけで、その同志である河井寛次郎の知遇も得、この 3 人を中心とする民芸運動の人々から仏教をはじめとする宗教や美術、哲学などについて教えをうけ、生涯親しく交流を続けることになる。柳に学び、青森で民芸運動をひろめた相馬貞三、河井寛次郎に師事し、郷土の土による陶芸の道を歩んだ高橋一智といった郷土青森の人々も、生涯を通して同志であり友人であった。

棟方が青森の風俗の様式で描いた作品や絵付けをした陶芸作品、さらに河井、浜田、高橋による陶芸作品を展示。

展示室 J 成田亨：怪獣デザインの美学

「ウルトラマン」、「ウルトラセブン」という初期ウルトラシリーズのヒーロー、怪獣、宇宙人、メカをデザインし、日本の戦後文化に大きな影響を与えた成田亨（1929-2002）によるデザイン原画を展示。

美術家としての高い感性によってデザインされたヒーロー、怪獣は、モダンアートの成果をはじめ、文化遺産や自然界に存在する動植物を引用して生み出される形のおもしろさが特徴で、誰もが覚えのあるモチーフを引用しつつ、そこから「フォルムの意外性」を打ち出していくという一貫した手法からは成田の揺らぐことのない芸術的信念を読みとることができる。

展示室 K 斎藤義重：「思考」のオブジェ ～松本コレクションによる

絵画や彫刻といったジャンル分けを超えた独自の表現を追求した斎藤義重（1904-2001）。1960年代から電気ドリルを使って合板に線を刻むことで「物質性」を強く感じさせる連作を発表、やがて空間を志向するかのようになり平面からレリーフへと展開、1970年代末からは空間そのものを取り込んだ立体作品へと移行する。1973年に戦災で焼失した作品の再制作を行った斎藤は、その過程で自身の造形が三次元の空間へと展開するものであることを認識し、壁かけの「絵画」から脱していった。長年斎藤の活動を支えた個人のコレクションを展示。

展示室 G 村上善男：新収蔵品展

東北の地に根をはり、東北の風土と一貫して向き合い続けた村上善男（1933-2006）。1950年代後半から活動を開始し、1960年代には注射針を画面に無数に貼り付けた作品、さらには計測器具、新聞、各種統計図等にあられる数字を構成した作品で高い評価を得た村上は、1970年代に入って気象図や貨車をモチーフにした作品へと展開し、1982年以降は弘前市を拠点に活動を続け、古文書を裏返して貼り込んだ上から、あたかも釘を打つように白い点を描き、点と点を結び「釘打図」を数多く手がけた。時代を追うごとにその作風は大きく展開したが、緻密な計算による画面構成と抑制の効いた色彩を持つ理知的な作風が、村上芸術の一貫した特徴と言える。

長く弘前大学で教鞭をとり、弘前を拠点に活動した村上の遺族から寄贈をうけた新収蔵作品を展示。

第2期：青森県美+弘前市博コレクション「北国の彩り」ほか
2013年6月15日（土）－9月1日（日）

開催日数：78日間

展示室 H 企画展「種差 ーよみがえれ 浜の記憶」関連企画 豊島弘尚：鮫港大潮風巻（さめのみなどはしおしまく）

「北方」の風景や光に着想した「精神の風景画」を一貫して描き続けた豊島弘尚（1933-2013）※。青森県上北郡横浜町に生まれ、田名部（現むつ市）や八戸で育った豊島の作品には、下北という半島や鮫、種差の海辺など北の大地で培った原記

憶が内包されている。青森県立美術館のコレクションに加え、2012年5月の個展で発表された「八戸」をモチーフにした新作を展示。

※豊島氏は本展終了後、2013年10月19日に逝去。

展示室 IJK 特集 北国の彩り1 佐野ぬい：回想のハーftime

弘前に生まれた佐野ぬい（1932 - ）。雪国に育った少女は、やがて色彩豊かな作品を描く画家となり、特に青色を愛して「青の画家」と呼ばれるようになる。

青森県立美術館と、改修工事のため休館中の弘前市立博物館のコレクションから、半世紀を超えた創作の歩みを振り返る代表作を展示。洗練された色彩とリズムが織りなす佐野ぬいの世界を美術館の大きな白い展示空間に展開した。

展示室 LMN 特集 北国の彩り2 石井康治：樹映

青森の自然に魅せられた石井康治（1946-1996）は、現在、青森県立美術館が建つ場所に間近い青森市内内にアトリエを構え、四季折々の光と風をガラス作品にうつし取った。熱したガラスを中空の棹に巻き取り、息を吹き込んで膨らませ、色彩を溶着させて最終的なかたちをつくる石井の作品は、吹きガラスならではの色彩とフォルムが生み出す流麗な造形美を湛えるとともに、青森の自然を愛した作家の想いを映した詩情をただよわせている。

寄託作品と昨年度寄贈をうけた作品から、初夏から夏をテーマにした作品を中心に展示。

棟方志功展示室 棟方の富士ー日本の美を描く

日本一の山、富士山は古来多くの人々を魅了し、絵の画題にも取り上げられてきた。棟方も板画、倭画、油絵で多くの富士を描いており、なかでも草野心平の「富士山」の詩を彫り込んだ板画の連作は旅行先のアメリカで制作され、大小様々に描かれた富士に異国の地から馳せる想いが込められている。

色とりどりに描かれた富士山をはじめ、棟方が板画で表現した日本の美を展示。

縮小期：シャガール、奈良美智、成田亨、棟方志功

2013年9月7日（土）－11月11日（月）

開催日数：64日間

※この期間は、「横尾忠則の『昭和 NIPPON』ー反復・連鎖・転移」展開催のため、常設展示は地下2階のアレコホール、展示室 F、展示室 G のみ。

展示室 G 成田亨：怪獣デザインの美学

（第1期と同内容。※展示作品は異なる）

展示室 G 棟方志功：アメリカ・ヨーロッパの旅

1959年、棟方はアメリカのロックフェラー財団とジャパン・ソサエティの招聘を受けて初めて渡米する。1月に横浜港を出

航、約3週間の船旅を経てニューヨークに到着し、11月に帰国するまでの約9ヶ月間、アメリカ各地の大学で版画の講義を行い、ニューヨークのギャラリーで個展を開催するなど精力的に活動した。滞米中には、初めて石版画(リトグラフ)の制作も行っている。空気が乾燥しているアメリカでは木版画の制作が思うようにいかなかったこともあり、指導を受けて石版画制作に熱心に取り組んでいる。夏にはヨーロッパにも足を延ばし、フランス、オランダ、スイス、イタリア、スペインを訪れ、各地の美術館を見学し、フランス・オーヴェールにゴッホの墓を訪ねるなどした。

棟方にとって初めての海外旅行は非常に印象深く収穫の多いものであり、その感動を自伝にも詳細に綴っている。その後、生涯で合わせて四度渡米し、日本の木版画の魅力を伝えるとともに、海外で得た感動を自身の作品に昇華させた。

棟方が海外旅行の体験に想を得た作品や、アメリカで制作した石版画などを展示。

第3期：青森県美+弘前市博コレクション 「工藤甲人 春を待つ」、近藤悠三 器を造り、器に描く ほか
2013年11月12日(火) - 2014年2月2日(日)
開催日数：71日間

展示室 H 特別展示 寺山修司×横山宏：2人の箱男
「無人島」というコンセプトで寺山修司の演劇に頻繁に登場する「箱」。学生時代に天井桟敷の舞台を手伝い、その後、イラスト+模型によって『マシーネンクリーガー』という独創的な世界観を構築した横山宏がプロデュースするプラモデルの「箱」。「箱」という装置が持つ様々な機能について考察するとともに、『マシーネンクリーガー』のデザイン、造形性の魅力についても紹介。

展示室 IJKLM 特集1 青森県美+弘前市博コレクション 工藤甲人 春を待つ
北国の長く厳しい冬、深い雪の中で春を待ち、春を恋う想い。そして春の訪れに感じる生命が湧き上がるような喜び。工藤甲人(1915-2011)は、故郷、津軽の自然を創造の源泉として独自の作品世界を築き、日本画に斬新な表現を切り拓いた。弘前の農家に生まれ、身近な自然の小さな草花や生き物、或いは家の中の畳の目や壁のシミをじっと見つめて想像の世界に遊び、詩や文学に熱中した少年時代を送る。やがて画家を目指して上京し、働きながら絵を学んで公募展への入選も果たすが、戦争により招集を受け画業は中断し、作品も失われてしまった。終戦後、故郷で農作業に従事しながら再出発を期し、後には神奈川県平塚市に居を構えて、創造美術、新制作展協会、創画会を中心に創作活動を展開した。

弘前市立博物館の協力を得て、1950年代から2011年の未完の絶筆まで、「四季」「聖鳥」「春」「生命」などのキーワードとともに創作の軌跡を辿る代表作を展示。

展示室 OPQN 特集2 近藤悠三 器を造り、器に描く
近藤悠三(1902-1985)は京都に生まれ、1977年、染付の技法で無形重要文化財保持者(人間国宝)の認定を受けるなど、日本の陶芸界に大きな足跡を残した。その作風は豪放、雄勁で、自然の草木果実や山々などのモチーフを絵画的な筆致と濃淡の諧調によって表現している。

青森県立美術館は、作家と親交のあった八戸市出身の故中村正信氏から寄贈を受けた近藤悠三の一大コレクションを有している。作家自身が一番の出来と認めた名品の数々を散逸させることなく未来に伝え、多くの人々に観てもらいたいという中村氏の願いとともに、故郷、青森の美術館に託された作品は94件(150点)に及ぶ。壺、皿、瓢瓶、茶碗、杯など多様な器は、シンプルな形状の中に心地よいのびやかさと美しさを湛え、そこに染付、釉裏紅、赤絵、金彩など多彩な技法によって描かれた梅や葡萄のみずみずしい生命感を、富士や浅間などの名山は雄大さを感じさせる。

近藤は、轆轤(ろくろ)を挽いて器をつくる際、その器にどんな絵を描くかを考えて形を造っていったという。成形された器に描かれるモチーフはその形状と絶妙に一体化し、三次元の器と二次元の絵画が見事に融合した造形が生まれる。

伝統を学び、その技を極めることから、逆に既存の枠にとらわれない自由な発想で新たな境地を切り拓いた近藤の代表作を展示。

棟方志功展示室 棟方の妃神図
棟方は人間味あふれる神仏の姿を数多く描いている。棟方が最も好み得意としたテーマであり、仏教の経典や詩歌、文学などからも題材を取り入れて様々な姿の神仏を描いた。1955年にサンパウロ・ビエンナーレ、翌56年にヴェネツィア・ビエンナーレに出品し、二度の受賞を果たした代表作《二菩薩釈迦十大弟子》は、興福寺の十大弟子にヒントを得て制作したものだが、棟方は「仏に近づきつつある人間の姿を描いた」と語り、実に表情豊かに描いている。この他、神仏のなかでも特に好んで描いた女性の姿をした菩薩像などを展示。

展示室 G 棟方志功：欧米の風景
(前期と同内容)

展示室 F 成田亨：怪獣デザインの美学
(前期と同内容。※展示作品は異なる)

第4期：生誕100年 小野忠弘 ほか
2014年2月8日(土) - 4月6日(日)
開催日数：56日間

展示室 OMLKJIH 特集 生誕100年記念「小野忠弘 一津軽に生まれた永遠のアヴァンギャルド」
青森県弘前市に生まれた小野忠弘(1913-2001)は、東京美術学校彫刻科に学んだ後、厚塗りの画面や、ガラクタのような廃

品を貼り付けた立体など、絵画や彫刻といった既存のジャンルを超えた独自の表現に向かっていく。素材との激しい格闘から生まれる原初的エネルギーに満ちた作品は、前衛の動向が興隆する戦後の美術界で脚光を浴び、サンパウロ・ビエンナーレやヴェネツィア・ビエンナーレといった国際展にも日本を代表する美術家として参加した。

「小野忠弘という美術家は、戦後の40年間前衛といわれ続けています。一度も保守であったためしがない」※。作家と親交のあった詩人・宗左近は、こう語っている。中央の美術界から遠のいた70年代以降も、未知の表現世界を探求し続けた小野は、美術教師として赴任した福井県の三国町に構えたアトリエで、88歳で命を落とすまで、創作の手を止めることはなかった。

青森県立美術館の80点を超える小野忠弘コレクションから、制作活動の展開を知ることができる代表作を展示。また、昨年生誕100年をむかえたことを記念して、福井県立美術館が収蔵する貴重な初期作品等を特別出品。

※宗左近「宇宙人・小野忠弘」、『小野忠弘展 <隕石・縄文・写楽の系譜>』図録、福井県立美術館、1985年、13頁

棟方志功展示室 「胸中花」—花鳥風景図

桜、朝顔、あやめ、菊、萩、りんどう等々、棟方は季節の花を好み、板画や倭画で様々な花を描き表した。色とりどりに描かれた花の絵は、ときに自然の花よりもさらに生き生きとした輝きを放つ。

棟方は子供の頃に見た神社の絵灯籠が深く印象に残っているという。その絵は、牡丹の花や蕾が一本の幹から出ているにもかかわらず、様々な色に描かれ、葉も違う色で描かれていたが、少しもおかしいと感じることはなく、それどころか自然の花よりも美しく、「絵の花」の見事さに感動し、あの絵こそが本当の絵、自然とは別の、絵から生まれた牡丹なのだと感じるようになったと語っている。

棟方も独自の表現方法で様々な花を生み出した。花札の図柄にヒントを得て、12ヶ月の草花を装飾的に表現した板画《柳緑花紅頌》や、墨の濃淡を活かして描いた墨画《花図》、絵の具をたっぷり含んだ筆を振って滴を落として描いた倭画《丸紋百花譜》など、倭画を中心に花鳥風景図を紹介。

展示室 N 特別史跡 三内丸山遺跡出土の重要文化財：縄文の表現

特別史跡三内丸山遺跡は我が国を代表する縄文時代の拠点的な集落跡であり、縄文時代前期中頃から中期終末（約5500年前-4000年前）にかけて長期間にわたって定住生活が営まれた。これまでの発掘調査によって、住居、墓、道路、貯蔵穴集落を構成する各種の遺構や多彩な遺物が発見され、当時の環境や集落の様子などが明らかとなっている。また、他地域との交流、交易を物語るヒスイや黒曜石の出土、DNA分析によるクリの栽培化が明らかになるなど、数多くの発見がこれまでの縄文文化のイメージを大きく変えてきた。遺跡では現在も発掘調査がおこなわれており、更なる解明が進められている。

一方、土器や土偶などの出土品の数々は、美術表現としても

重要な意味を持っている。当時の人々が抱いていた生命観や美意識、そして造形や表現に対する考え方など、縄文遺物が放つエネルギーは数千年の時を隔てた今もなお衰えず、人々を魅了し続けている。

国指定重要文化財の出土品の一部を展示し、三内丸山遺跡の豊かな文化の一端を紹介。

青森 EARTH2013

すばらしい新世界—再魔術化するユートピア

BRAVE NEW WORLD—Re-enchanting Utopia

開催概要

会期：[第1部]2013年6月15日（土）－9月1日（日）
[第2部]2013年7月27日（土）－8月25日（日）

開催日数：76日間

主催：青森県立美術館

連携：あいちトリエンナーレ

会場：青森県立美術館

[第1部] 常設展示室 G、O、P、Q

[第2部] コミュニティギャラリー

入場料：一般500（400）円、高大生300（240）円、小中生
100（80）円

※（ ）内は20名以上の団体料金

※7月6日－9月1日は「夏休みこども美術館デイ」により
小中生無料

入場者数

27,554人

関連企画

(1) シンポジウム+タルコフスキー上映会

「揺れる大地—われわれはどこに立っているのか：場所、記憶、そして復活」を掲げた「あいちトリエンナーレ2013」との広報連携プログラムとして三内丸山遺跡竪穴式住居にて東日本大震災後の美術状況を前提にシンポジウムを開催した。被災地のいわき市立美術館館長を迎え、あいちトリエンナーレ芸術監督を交えて、芸術祭の在り方やアートのミッションなどについて語りあった。

その後、アンドレイ・タルコフスキーの「ストーカー」を上映し、映画終了後はパネリストがコメントを述べあった。

日時：8月16日（金）13:00－14:30 [シンポジウム]
14:40－17:30 [上映会]

場所：三内丸山遺跡 竪穴式住居

シンポジウムテーマ：

「縄文・東北・環境汚染—3.11以後の美術」

パネリスト：

五十嵐太郎（あいちトリエンナーレ2013芸術監督／東北大学大学院教授）

佐々木吉晴（いわき市立美術館館長）

飯田高誉（青森県立美術館美術統括監）

司会：池田亨（青森県立美術館学芸主幹）

参加者数：75人

(2) 寺山修司 dialogue 横山宏「2人の箱男」

「無人島」というコンセプトで寺山修司の演劇に頻繁に登場する「箱」。学生時代に天井桟敷の舞台を手伝い、その後、イラスト+模型によって『マシーネンクリーガー』という独創的な世界観を構築した横山宏がプロデュースするプラモデルの「箱」。本展は「箱」という装置が持つ様々な機能について考察するとともに、『マシーネンクリーガー』のデザイン、造形性の魅力についても紹介した。

会期：2013年11月12日（火）－2014年2月2日（日）

会場：常設展示室 H



ポスター



展示風景

青森の地を舞台にした国際芸術祭の開催を目標に2012年に始まった「青森 EARTH」は、東日本大震災から復興へとむかう東北の未来を、世界遺産指定をめざす北東北の縄文文化の雄大な宇宙観をベースに、現代のアーティストたちの作品と青森県立美術館のコレクションによって実現していこうとする試みである。2013年度の「青森 EARTH」では、「現代の再魔術化」をテーマに、縄文の世界観を強く打ち出すアーティストや、最新の科学技術によって古代日本の世界観を現代に蘇らせるような作家を集め、青森の大地に根ざした芸術とはなにかを考える展示とした。

本展は、2部構成となっており、第1部では、縄文の環状列石から着想を得た森万里子の作品や、青森の恐山などにみられる積み石から着想を得た青木野枝の作品、近代から現代にいたる原子力の歴史をテーマにした風間サチコの版画など現代の作品とともに、青森出身の前衛画家・豊島弘尚や棟方志功の作品、縄文時代の象徴的に火を司る道具（環状配石炉）を展示することによって、現代における土着的な信仰と最先端の科学技術と

芸術をひとつながりのものとして捉えたときに見えてくるものは何かを探った。

第2部では、パリのルイヴィトンで個展を開催するなど目覚ましい活躍をみせる児玉幸子の磁性流体を用いた作品や、高松宮殿下記念世界文化賞を受賞したフランスを代表する芸術家のクリスチャン・ボルタンスキーの「影」を主題にした作品、ルーブル美術館での展示などで国際的に知られるチームラボの最先端技術による映像作品、国立国際美術館での展覧会でデビューした注目の若手作家・柳井信乃らの人工雷をつくりだす作品を展示し、現代における魔術と芸術の関係を再定義した。

また、あいちトリエンナーレと連携し、愛知と青森の双方でシンポジウムを行ったほか、FDA や瀬戸内国際芸術祭などでもパネル展示することによって、青森の作家を国内外に広く紹介した。

出品作品

	水彩、ペン・紙 38.0 × 31.1 cm 青森県立美術館		
成田亨 ガボラ 1966年 ペン、水彩・紙 25.8 × 35.3 cm 青森県立美術館	成田亨 パゴス頭部 1965年 コンテ、ペン、水彩・紙 37.5 × 26.2 cm 青森県立美術館	h150-180cm × 50-70cm × 40-55 cm 作家蔵	1961年 紙・木版彩色 252.0 × 711.0 cm 青森県立美術館
成田亨 ガラモン初稿 1965年 ペン、水彩・紙 36.1 × 24.4 cm 青森県立美術館	成田亨 ペムラー 1966年 ペン・紙 38.8 × 25.6 cm 青森県立美術館	青木野枝 原形質 2012年 石膏、布、鉄 h231.0 × 251.0 × 186.0 cm 作家蔵	豊島弘尚 花屍の湿り (円・A) 1973年 キャンバス・油彩、鉛筆 227.3 × 181.8 cm 作家蔵
成田亨 キャンゴ 1966年 ペン、水彩・紙 39.4 × 25.8 cm 青森県立美術館	成田亨 ペムラー (ウルトラマン) 初稿 1965年 ペン・紙 35.7 × 24.4 cm 青森県立美術館	チームラボ 花と屍 刺落 十二幅対 2012年 デジタルワーク 1分50秒 (9:16 × 12) 作家蔵	豊島弘尚 花屍の湿り (円・B) 1973年 キャンバス・油彩、鉛筆 227.3 × 181.8 cm 作家蔵
成田亨 グリーンモンス決定稿 1966年 ペン、水彩・紙 39.7 × 28.7 cm 青森県立美術館	成田亨 ベムラー (ウルトラマン) 初稿 1965年 ペン・紙 35.7 × 24.4 cm 青森県立美術館	児玉幸子 モルフォタワー 2011年 ガラス、鉄、銅、フッ素コート、 プラスチック、ウレタン塗料、 磁性流体、コンピュータ、電源 19.0 × 19.0 × 40.0 cm 作家蔵	屋外配石炉 砂子瀧遺跡出土 縄文時代後期 青森県埋蔵文化財調査センター
成田亨 ケロニア 1967年 ペン・紙 39.3 × 36.2 cm 青森県立美術館	成田亨 ミクラス 1967年 ペン、水彩・紙 46.0 × 36.5 cm 青森県立美術館	児玉幸子 突き出す、流れる 2013年 タイプC プリント、アクリル (6点組) 53.0 × 5.0 × 40.0 cm 協力：竹野美奈子、高田洋三 作家蔵	土偶 (11点) 三内丸山遺跡出土 縄文時代中期 青森県教育庁文化財保護課
成田亨 ゴモラ決定稿 1966年 ペン、水彩・紙 36.7 × 34.8 cm 青森県立美術館	成田亨 ラゴン 1965年 ペン、水彩・紙 37.4 × 24.5 cm 青森県立美術館	柳井信乃 Lightning State 2013年 テスラコイル、プロジェクター (ダブルチャ ンネル)、メディアプレーヤー、アンプ、パ ソコン、MIDI、液晶ディスプレイ他 サイズ可変 作家蔵	土器 (4点) 三内丸山遺跡出土 縄文時代中期 青森県教育庁文化財保護課
成田亨 ジャミラ 1966年 ペン、水彩・紙 36.5 × 19.8 cm 青森県立美術館	成田亨 「南海の怒り」登場予定怪魚 1965年 ペン、水彩・紙 24.8 × 33.1 cm 青森県立美術館	クリスチャン・ホルタンスキー 影 1986年 扇風機、電球、ミクストメディア サイズ可変 作家蔵	石棒 (9点) 三内丸山遺跡出土 縄文時代中期 青森県教育庁文化財保護課
成田亨 テレスドン 1966年 ペン、コンテ・紙 39.5 × 36.5 cm 青森県立美術館	森万里子 トランスサークル 2004年 コーリアン、LED、 コントロールシステム、玉砂利 コーリアン9体： 各110.0 × 56.0 × 34.0 cm ヴァンジ彫刻庭園美術館	今井俊満 波濤図 (ヴェネチアに捧ぐ) 1992年 キャンバス・アクリル、銀箔 200.0 × 450.0 cm 青森県立美術館	土器片 (20点) 三内丸山遺跡出土 縄文時代前期-中期 青森県教育庁文化財保護課
成田亨 ドドンゴ 1966年	青木野枝 ふりそそぐもの—青森 2013年 鉄 (コルテン鋼) h 500.0 × 552.5 × 1460 cm 作家蔵	風間サチコ 噫! 怒涛の閉塞艦 2012年 木版画 (パネル、和紙、墨) 181.0 × 418.0 cm 東京都現代美術館	三内丸山遺跡出土遺物 (重要文化財) 深鉢型土 (3点) 縄文時代前期-中期 青森県教育庁文化財保護課
	青木野枝 立山—青森 2013年 鉄、石鯨 6点	棟方志功 花矢の柵	石器 (18点) 縄文時代前期-中期 青森県教育庁文化財保護課
			土偶 (3点) 縄文時代前期-中期 青森県教育庁文化財保護課
			針 (3点) 縄文時代前期-中期 青森県教育庁文化財保護課
			装身具 (3点) 縄文時代前期-中期 青森県教育庁文化財保護課

範 (1 点)

縄文時代前期-中期

青森県教育庁文化財保護課

学芸

美術資料収集

美術資料貸出状況

作品保存修復

凡例

- 1 「美術資料収集」における作品データは、作家名、作品名、制作年、寸法（高さ×縦×横、cm）、技法、収集区分の順に記した。
- 2 「美術資料貸出状況」における作品データは、作家名、作品の順に記した。

美術資料収集

平成 25 年度収集美術資料

菊地敦己 十分でない状態 2009 木・ペンキ 寄贈	菊地敦己 中心の方向 2013 103.0 × 145.6 紙・オフセット印刷 他 寄贈	72.8 × 51.5 紙・オフセット印刷 寄贈	菊地敦己 小金沢健人展 動物的 (丸亀市猪熊弦一郎美術館) 2009 72.8 × 51.5 紙・オフセット印刷、型抜き 寄贈
菊地敦己 「家紋」シリーズ 2003 82.0 × 54.0 紙・オフセット印刷 寄贈	菊地敦己 ミナ ヘルホネンのための印刷物 2000 - 2003 紙・オフセット印刷 他 寄贈	菊地敦己 ヴォルフガング・ライブ展 (丸亀市猪熊弦一郎美術館) 2003 72.8 × 51.5 紙・オフセット印刷、シルクスクリーン 寄贈	菊地敦己 ギャラリー α M のための印刷物 2009 - 2010 72.8 × 51.5 紙・オフセット印刷 寄贈
菊地敦己 「360 × 480」シリーズ 2006 48.0 × 36.0 紙・オフセット印刷 他 寄贈	菊地敦己 Exhibition of m i n ä 's works 粒子 2002 103.0 × 72.8 紙・活版印刷 (樹脂凸版) 寄贈	菊地敦己 風景遊歩 (丸亀市猪熊弦一郎美術館) 2005 103.0 × 72.8 / 72.8 × 51.5 紙・オフセット印刷、シルクスクリーン 寄贈	菊地敦己 ペーター・フィッシュリ ダヴィッド・ヴァイス (金沢 21 世紀美術館) 2010 72.8 × 51.5 紙・オフセット印刷 寄贈
菊地敦己 Glitz and then some 2008 84.1 × 59.4 紙・オフセット印刷 寄贈	菊地敦己 m i n ä perhonen 展覧会「進行中」 2010 103.0 × 72.8 紙・シルクスクリーン 寄贈	菊地敦己 GOOD DESIGN GOOD SENSU (クリエイションギャラリー G8 ガーディアン・ガーデン) 2006 103.0 × 72.8 紙・オフセット印刷 寄贈	菊地敦己 チェルフィッシュ「ゾウガメのソニックライフ」(神奈川芸術劇場 他) 2010 72.8 × 51.5 紙・オフセット印刷 寄贈
菊地敦己 「Hand to Plate」シリーズ 2010 103.0 × 72.8 紙・オフセット印刷 寄贈	菊地敦己 「窓 (サリー・スコット)」シリーズ 2002 - 2006 84.1 × 59.4 紙・オフセット印刷 寄贈	菊地敦己 ドイツ写真の現在 (丸亀市猪熊弦一郎美術館) 2006 72.8 × 51.5 紙・オフセット印刷 寄贈	菊地敦己 「蓮沼執太 フィル phew × 高橋悠治 MUSIC TODAY LAFORET」(LAFORET MUSEUM HARAJUKU) 2012 103.0 × 72.8 紙・オフセット印刷 寄贈
菊地敦己 「困ったこと」シリーズ 2010 48.0 × 36.0 紙・オフセット印刷 寄贈	菊地敦己 「無題 (サリー・スコット)」シリーズ 2007 - 2009 84.1 × 59.4 紙・オフセット印刷、型抜き 寄贈	菊地敦己 エルネスト・ネット展 (丸亀市猪熊弦一郎美術館) 2007 72.8 × 51.5 紙・オフセット印刷 寄贈	菊地敦己 「チェルフィッシュ個展」(クリエイションギャラリー G8) 2013 103.0 × 72.8 紙・オフセット印刷 寄贈
菊地敦己 「ささいな出来事」シリーズ 2010 48.0 × 36.0 紙・オフセット印刷 他 寄贈	菊地敦己 「ビーナス (サリー・スコット)」シリーズ 2010 - 2013 84.1 × 59.4 紙・オフセット印刷、箔押し 寄贈	菊地敦己 チェコ絵本とアニメーションの世界 (目黒区美術館) 2007 72.8 × 51.5 紙・オフセット印刷 寄贈	菊地敦己 資料一式 2000 - 2013 寄贈
菊地敦己 だいこん 2011 51.5 × 72.8 紙・オフセット印刷 寄贈	菊地敦己 ナショナルスタンダードのための印刷物 2004 - 2005 紙・オフセット印刷 他 寄贈	菊地敦己 小金沢健人展 あれとこれのあいだ (神奈川県民ホール) 2008 103.0 × 72.8 / 72.8 × 51.5 紙・オフセット印刷 寄贈	菊地敦己 横尾忠則 青○の魔人 2014 130.3 × 162.1 キャンバス・油彩 寄贈

美術資料貸出状況

館長 庵野秀明 特撮美術館 ミニチュアで見える昭和平成の 技

貸出先

・[特撮博物館] 愛媛県実行委員会

展示施設 (会期)

・愛媛県美術館 (13/4/3 - 6/23)

貸出点数: 5

作品名

・成田亨「ウルトラセブン決定稿B案」

・成田亨「ウルトラマン初稿」

・成田亨「ウルトラ警備隊マーク」

・成田亨「にせウルトラマン」

・成田亨「科学特捜隊基地セット」

北の異才たち 青森県立美術 館コレクション展

貸出先

・三菱地所アルティウム有限会社 モマ・コ
ンテンポラリー

展示施設 (会期)

・三菱地所アルティウム (13/4/6 - 5/26)

貸出点数: 44

作品名

・工藤哲巳「あなたの肖像 1970-1974」

・工藤哲巳「『脱皮』の記念品・郷愁病用・
あなたの居間に」

・工藤哲巳「電子回路の中における放射能に
よる養殖」

・今純三「乞食 合浦公園」

・今純三「青森県画譜」

・沢田教一「安全への逃避」

・沢田教一「泥まみれの死」

・沢田教一「わが子を抱き悲嘆にくれる母親」

・沢田教一「(1966.6.30 カンボジア国境近
く)」

・沢田教一「(1967.10.25 ダナンの南 16
キロ)」

・沢田教一「敵をつれて」

・奈良美智「Pancake Kamikaze」

・奈良美智 (松井繁明との共作)「Channel」

・奈良美智「Night Walker」

・奈良美智「Y.N.(Self-portrait)」

・奈良美智「Spockie」

・奈良美智「Become to Thinker」

・成田亨「ウルトラセブン初稿」

・成田亨「ウルトラセブン頭部」

・成田亨「ウルトラマン初稿」

・成田亨「ウルトラマンイラスト」

・成田亨「カネゴン決定稿」

・成田亨「シーボーズ」

・成田亨「エレキング」

・成田亨「バルタン星人決定稿」

・成田亨「メトロン星人」

・成田亨「メフィラス星人」

・成田亨「ジャミラ」

・成田亨「ゴモラ決定稿」

・成田亨「レッドキング」

・成田亨「キャンゴ」

・成田亨「ダダ」

・成田亨「チブル星人」

・棟方志功「赤富士の欄」

・棟方志功「青森山之神図」

・棟方志功「御吉祥大辨財天御尊像図」

・村上善男「車力村 objet の漂着・参」

・村上善男「津軽・赤倉山周辺釘打之圖牡丹
紅炮弾連発」

・村上善男「鹽景之内迷圖寒澤雨期入圖」

・横尾忠則「天井棧敷定期会員募集」

・横尾忠則「大山デブ子の犯罪」

・及川正通「書を捨てよ！町に出よう！」

・宇野亜喜良「星の王子様」

・土井典「大山デブ子人形」

生誕 100 年 棟方志功と熊野 筆

貸出先

・一般財団法人筆の里振興事業団

展示施設 (会期)

・筆の里工房 (13/9/20 - 11/10)

貸出点数: 2

作品名

・棟方志功「鷺栖図」

・棟方志功「雪国風景図」

六本木クロッシング 2013 ア ウト・オブ・ダウト 来たる べき風景のために

貸出先

・森美術館

展示施設 (会期)

・森美術館 (13/9/21 - 14/2/13)

貸出点数: 1

作品名

・中村宏「観光独裁」

北の異才たち 青森県立美術 館コレクション展

貸出先

・一般財団法人清水港湾博物館

展示施設 (会期)

・一般財団法人清水港湾博物館 (13/10/5
- 11/23)

貸出点数: 26

作品名

・今純三「青森県画譜」

・奈良美智「Pancake Kamikaze」

・奈良美智「Flap eared Creeping Dog」

・奈良美智「Lampflowers」

・奈良美智「Mr.Sky」

・奈良美智「Round Eyes Pilot」

・奈良美智「Dog From Your Childhood」

・成田亨「ウルトラセブン頭部」

・成田亨「バルタン星人決定稿」

・成田亨「ウルトラセブン初稿」

・成田亨「ウルトラマンイラスト」

・成田亨「ウルトラマン初稿」

・成田亨「カネゴン決定稿」

・成田亨「シーボーズ」

・成田亨「ダダ」

・成田亨「チブル星人」

・成田亨「メトロン星人」

・成田亨「レッドキング」

・棟方志功「赤富士の欄」

・棟方志功「青森山之神図」

・棟方志功「御吉祥大辨財天御尊像図」

・横尾忠則「天井棧敷定期会員募集」

・横尾忠則「大山デブ子の犯罪」

・及川正通「書を捨てよ！町に出よう！」

・宇野亜喜良「星の王子様」

・土井典「大山デブ子人形」

あなたの肖像—工藤哲巳回顧 展

貸出先

・国立国際美術館

・東京国立近代美術館

展示施設 (会期)

・国立国際美術館 (13/11/2 - 14/1/19)

・東京国立近代美術 (14/2/4 - 3/30)

貸出点数: 42

作品名

・工藤哲巳「融合反応 585B」

・工藤哲巳「増殖性連鎖反応—1」

・工藤哲巳「増殖性連鎖反応—2」

・工藤哲巳「集合—増殖」

・工藤哲巳「インボ哲学」

・工藤哲巳「黒メカから白メカへ、それから
…」

・工藤哲巳「さいころの中の自己充足」

・工藤哲巳「モルモットの関係」

・工藤哲巳「あなたは変態しつつある -D」

・工藤哲巳「無題」

・工藤哲巳「あなたの肖像」

・工藤哲巳「あなたの肖像」

・工藤哲巳「『脱皮』の記念品」

・工藤哲巳「あなたの肖像」

・工藤哲巳「郷愁病用、あなたの居間に」

・工藤哲巳「あなたの肖像' 67」

・工藤哲巳「養殖・郷愁病用・あなたの居間に」

・工藤哲巳「『脱皮』の記念品」

・工藤哲巳「放射能による養殖」

・工藤哲巳「養殖」

・工藤哲巳「『脱皮』の記念品・郷愁病用・
あなたの居間に」

・工藤哲巳「脱皮の記念碑 (サナギ)」

・工藤哲巳「巨大な化石予想図A 現在発掘
中 鎭山にて」

・工藤哲巳「巨大な化石予想図B 現在発掘
中 鎭山にて」

・工藤哲巳「巨大な化石予想図C 現在発掘
中 鎭山にて」

・工藤哲巳「自然による養殖・それを見て
いる人々」

・工藤哲巳「電子回路の中における放射能に
よる養殖」

・工藤哲巳「足型」

・工藤哲巳「イオネスコの肖像—あなたの肖
像 (コンピューターによって翻訳された絵
画)」

・工藤哲巳「環境汚染—養殖—新しいエコロ
ジー」

・工藤哲巳「あなたの肖像」

・工藤哲巳「あなたの肖像 1970-1974」

・工藤哲巳「カゴの中のカゴの中のカゴ」

・工藤哲巳「バリの仏陀」

・工藤哲巳「無題」

・工藤哲巳「バリの仏陀」

・工藤哲巳「危機の中の芸術家の肖像」

・工藤哲巳「遺伝染色体による無限のあやと
り」

・工藤哲巳「未来と過去とのエンドレステー
プの間での瞑想」

・工藤哲巳「人生のドップラー効果 透明ブ
ルーの輪になる可能性は一億分の一の確
率」

・工藤哲巳「縄文の精子の生き残り」

・工藤哲巳「前衛芸術家の魂」

館長 庵野秀明 特撮美術館 ミニチュアで見える昭和平成の 技

貸出先

・[特撮博物館] 新潟県実行委員会

展示施設 (会期)

・新潟県立近代美術館 (13/11/8 -
14/1/21)

貸出点数: 5

作品名

・成田亨「ウルトラセブン決定稿B案」

・成田亨「ウルトラマン初稿」

・成田亨「ウルトラ警備隊マーク」

・成田亨「にせウルトラマン」

・成田亨「科学特捜隊基地セット」

生誕 110 年記念 棟方志功展 —青森県立美術館・棟方志功 記念館コレクションによる—

貸出先

・福井県立美術館

展示施設（会期）

・福井県立美術館（14/2/21 - 3/23）

貸出点数：25

作品名

- ・棟方志功「雪国風景図」
- ・棟方志功「八甲田山麓図」
- ・棟方志功「桃真盛り」
- ・棟方志功「勝鬨譜善知鳥版画曼陀羅」
- ・棟方志功「山間風景図」
- ・棟方志功「群鯉図」
- ・棟方志功「大旭日山」
- ・棟方志功「雑華山房主人像図」
- ・棟方志功「御三尊像図」
- ・棟方志功「angeles (A)」
- ・棟方志功「Angels (B)」
- ・棟方志功「貴理寿波の柵（巴シール有）」
- ・棟方志功「鍵板画柵 全 59 柵」
- ・棟方志功「摩那那発門多に建立すの柵」
- ・棟方志功「花矢の柵」
- ・棟方志功「瘋癲老人日記板画柵屏風」
- ・棟方志功「金富士の柵」
- ・棟方志功「黒富士の柵」
- ・棟方志功「赤富士の柵」
- ・棟方志功「キナ撫子の妃の柵」
- ・棟方志功「御吉祥大辨財天御妃尊像図」
- ・棟方志功「没然の自板像の柵」
- ・棟方志功「鷺栖図」
- ・棟方志功「大印度の花の柵」
- ・棟方志功「青森山之神図」

ピカソ 版画に見せられた巨匠

貸出先

・熊本県立美術館

・株式会社 テレビ熊本

展示施設（会期）

・熊本県立美術館（14/3/29 - 5/18）

貸出点数：1

作品名

- ・パブロ・ピカソ「若い女の肖像（クラナッハによる）」

テーマ展 生誕 100 年記念 小野忠弘の 軌跡

貸出先

・福井県立美術館

展示施設（会期）

・福井県立美術（14/2/21 - 3/23）

貸出点数：14

作品名

- ・小野忠弘「(題不詳)」[作品番号 2546]
- ・小野忠弘「影の部分」
- ・小野忠弘「三人」
- ・小野忠弘「BLUE」
- ・小野忠弘「(題不詳)」[作品番号 2542]
- ・小野忠弘「(題不詳)」[作品番号 2564]
- ・小野忠弘「トロツキーを探して」
- ・小野忠弘「(題不詳)」[作品番号 2555]
- ・小野忠明「無題」[作品番号 3073]
- ・小野忠明「無題」[作品番号 3081]
- ・小野忠明「無題」[作品番号 3082]
- ・小野忠明「無題」[作品番号 3068]
- ・小野忠明「無題」[作品番号 3103]
- ・小野忠明「無題」[作品番号 3107]

作品保存修復

保存管理

展示・保管している美術資料の公開と保存を両立させるため、温湿度等の空調や照度の調整、粉塵・有害ガス・虫菌害等の定期的な環境調査の実施などにより展示・収蔵環境を管理している。また、日常的な点検に基づき、必要に応じて収蔵作品等のマット装や表装・額装の改善、保存箱の作成、専門家による調査・保存処置等を行った。さらに、基本データの整理、写真撮影による画像データの記録をおこなった。

教育普及

普及プログラム

スクールプログラム

サポートスタッフ

メンバーシッププログラム

平成 25 年度 普及プログラム

1 こども（親子）プログラム

（1）種差展「親子ギャラリーツアー」

「種差展を楽しむ」をテーマに、種差展を親子で対話しながら鑑賞する親子ギャラリーツアーを行った。また、普段は見ることができない美術館のバックヤードを案内した。

講師：美術館スタッフ及び鑑賞サポーター

開催期間：7月20日（土）－7月28日（日）

9日間（1日2回）

開催時間：① 11:00－11:40、② 14:00－14:40

場所：企画展示室ほか

参加者数：51人

（2）なりきりワークショップ

開催中の展覧会に関係する作家や時代を取り上げ、その作家の特徴や思考、技法などを取り入れながら、作家になりきって創作を行った。

①棟方志功になりきる

開催中の特別展示「棟方志功の多面体」を鑑賞したあと、棟方志功になりきって、版画を制作し、棟方志功の特徴である裏彩色を体験した。

講師：青森県立美術館スタッフ

日時：5月18日（土）13:30－16:30

場所：青森県立美術館ワークショップA

参加者数：2人

②吉田初三郎になりきる

「種差展」にあわせて、「大正の広重」と呼ばれた鳥瞰図絵師・吉田初三郎になりきって、鳥瞰図を作成した。

講師：青森県立美術館スタッフ

日時：7月20日（土）13:30－16:30

場所：青森県立美術館ワークショップA

参加者数：7人

③横尾忠則になりきる

独特の線で描かれる横尾忠則作品の人物画の原画を鑑賞したあと、横尾忠則になりきって、参加者が持参した描きたい人の写真をトレースしながら、グラフィック作品を作成した。

講師：青森県立美術館スタッフ

日時：9月21日（土）13:30－16:30

場所：青森県立美術館ワークショップA

参加者数：13人

④陶芸家になりきる

開催中の常設展において陶芸家・近藤悠三の作品を鑑賞したあと、素焼きされた器の上に絵付けを行った。作品は窯で焼

いたあと、後日参加者へ受け渡した。

講師：鶴見弥生

日時：11月16日（土）13:30－16:30

場所：青森県立美術館ワークショップA

参加者数：15人

⑤昭和30年代の人々になりきる

開催中の民家展に関連して、四季を肌で感じながら生活していた昭和30年代の人々の暮らしを体験するため、参加者が持参した布を使って、みかんの皮による草木染めを行った。

講師：青森県立美術館スタッフ

日時：2014年1月18日（土）13:30－16:30

場所：青森県立美術館ワークショップA

参加者数：9人



なりきりワークショップ④陶芸家になりきる

2 一般プログラム

（1）県美土曜ゼミ

美術作品の解説に止まらず、社会のあらゆるジャンルとの関わり、様々な視点から「美術とは何か」を参加者と美術館スタッフがディスカッションを重ね、考えるゼミ形式の講座を5月から2月まで月1回開催した。

時間：各日 13:30－15:00

① 5月11日（土）

もう一度 棟方志功～なぜ凄いのか。棟方志功再入門

② 6月22日（土）

原子力時代の原始－現代における縄文とはなにか

③ 7月13日（土）種差展への思い

④ 8月10日（土）芸術＝技術＝魔術

⑤ 9月14日（土）横尾忠則の昭和 NIPPON

- ⑥ 10月12日(土) 寺山修司と日本のアヴァンギャルド
- ⑦ 11月16日(土) 伝統から生み出す独創ー弘前出身の日本画家と京都出身の陶芸家
- ⑧ 12月21日(土) 『日本の民家』を巡る旅
- ⑨ 2014年1月11日(土)
- 森万里子：創造の原点としての縄文
- ⑩ 2014年2月8日(土)

小野忠弘：ただならぬ<タダの人>

定員：各回30人

参加者数：229人



県美土曜ゼミ@小野忠弘：ただならぬ<タダの人>

3 創作支援プログラム

(1) オープンアトリエ

青森県立美術館のアトリエスペースであるワークショップ室を開放し、ワークショップ室にある材料や自分で持ち込んだ材料を使い、自由に制作することができる場を設けた。

- ①日時：6月1日(土)ー6月7日(金) 10:00ー16:00
場所：青森県立美術館ワークショップA
参加者数：46人
- ②日時：8月3日(土)ー8月9日(金) 10:00ー16:00
場所：青森県立美術館ワークショップA
参加者数：62人
- ③日時：10月5日(土)ー10月11日(金) 10:00ー16:00
場所：青森県立美術館ワークショップA
参加者数：56人
- ④日時：12月7日(土)ー12月13日(金) 10:00ー16:00
場所：青森県立美術館ワークショップA
参加者数：30人

4 展覧会関連プログラム

(1) 種差展ワークショップ「吉田初三郎の表現 | 鳥瞰図を描こう」

参加者が、夏休みに遠方の親せきや友達などを招くことを想定して、デフォルメした鳥瞰図による招待状を作成した。

講師：小倉学氏(八戸クリニック街かどミュージアム 研究員)

日時：6月29日(土) 13:30ー15:30

場所：青森県立美術館ワークショップA

参加者数：15人

(2) 種差展「アーティストトーク」

本展参加作家のリチャード・ロング氏がこれまでの活動や出品作について語った。

講師：リチャード・ロング氏

日時：7月6日(土) 13:30ー14:30

場所：青森県立美術館シアター

参加者数：130人

(3) 種差展「道」作品コンクール

本展覧会で展示された東山魁夷の代表作「道」にちなみ、「道」をテーマとした絵画、版画、写真の作品コンクールを実施した。

募集期間：4月8日(月)ー6月30日(日)

応募数：593点

絵画567点(小学生303点、中学生230点、高校生34点)

版画8点(中学生8点)

写真18点(中学生1点、高校生9点、一般8点)

審査会：平成25年7月3日(水)ー7月4日(木)

審査員：絵画・版画 伊藤二子氏(画家)、久保田恭子氏(画家・東山魁夷記念館職員)、戸村茂樹氏(版画家)

写真 芦名公雄氏(青森県写真連盟会長)、笹岡啓子氏(写真家)

展示期間：7月19日(金)ー7月21日(日)

展示会場：青森県立美術館コミュニティギャラリー

展示入場者：388人

表彰式：7月20日(土) 13:00ー

表彰式会場：青森県立美術館コミュニティギャラリー

表彰式参加者：104人



表彰式

(4) 種差展レクチャー「吉田初三郎の表現 | 鳥瞰図を楽しもう」

国内最大級の吉田初三郎コレクションを誇る、八戸クリニック街かどミュージアム研究員小倉学氏が、スライドによるレクチャーと展示室でのトークを行い、鳥瞰図の魅力について語った。

講師：小倉学氏(八戸クリニック街かどミュージアム 研究員)

日時：第1回 7月27日(土) 13:30 - 15:30
第2回 7月28日(日) 13:30 - 15:30
会場：青森県立美術館ワークショップB、企画展示室
参加者数：25人

(5) 種差展写真ワークショップ「浜の記憶を見つけにいこう！」
青森から夏の種差海岸へバスツアーで訪れ、写真家の笹岡啓子氏と一緒に種差海岸を散策し、「浜の記憶」を見つけ写真におさめるワークショップを行った。参加者は種差海岸で写真撮影の後、レストハウスたねさしで笹岡啓子氏と種差観光協会会長の柳沢卓美氏とともに、参加者が撮影した写真を鑑賞した。

日時：8月10日(土)
場所：種差海岸、レストハウスたねさし
講師：笹岡啓子氏(写真家)、柳沢卓美氏(種差観光協会会長)
参加者数：27人(青森集合12人、八戸集合15人)

(6) 青森 EARTH2013 シンポジウム+タルコフスキー上映会
「縄文・東北・環境汚染—3.11以後の美術」をテーマに、あいちトリエンナーレ連携シンポジウム及びアンドレイ・タルコフスキーの「ストーカー」上映会を行った。

日時：8月16日(金)
13:00 - 14:30(シンポジウム)、14:40 - 17:30(上映会)
場所：三内丸山遺跡 大型竪穴式住居
パネリスト：五十嵐太郎(あいちトリエンナーレ2013芸術監督/東北大学大学院教授)、佐々木吉晴(いわき市立美術館館長)、飯田高誉(青森県立美術館美術統括監)
司会：池田亨(青森県立美術館学芸主幹)
参加者数：75人

(7) 種差展「豊島重之+モレキュラーシアター カフカス Kavkaz —『プロメテの火』から」
「種差とカフカス」をテーマとした、八戸市のパフォーマンスグループによる舞台芸術公演を行った。

日時：第1回公演 8月24日(土) 18:00 - 18:50
第2回公演 8月25日(日) 14:00 - 14:50
場所：青森県立美術館シアター
入場者数：137人

(8) 横尾忠則展「大島渚特集上映会」
横尾忠則氏が主演した「新宿泥棒日記」など3本の映画を特集上映した。

日時：10月19日(土)
場所：青森県立美術館シアター
上映作品：「新宿泥棒日記」、「東京戦争戦後秘話」、「儀式」
入場者数：47人

(9) 常設展特別展示「横山宏トークショー&サイン会」
特別展示「寺山修司×横山宏：2人の箱男」の出品作家である横山宏氏のトークショー及びサイン会を行った。

日時：11月16日(土) 13:30 - 15:00

場所：展示室H
参加者数：25人

(10) 民家展ワークショップ「ミンナDEミンカ」

民家展に関連して、参加者が美術館を冒険しながら、美術館の様々な場所や部分を写真撮影するワークショップを行った。撮影した写真の中から参加者自らお気に入りの1枚を選び、その写真をワークショップ前廊下に展示した。展示は、民家展の展示方法を取り入れた空間にした。

開催日時：12月21日(土) - 2014年1月13日(月・祝)
10:00 - 15:00

・撮影ワークショップ 12月21日(土) - 2014年1月5日(日)
・作品展示期間 2014年1月6日(月) - 1月13日(月・祝)
場所：青森県立美術館ワークショップ前廊下スペース
ワークショップ参加者数：101人
観覧者数：484人



作品展示風景

(11) 民家展「青木淳×藤本壮介 立春建築放談」

民家展の会場構成を担当した藤本壮介氏と青森県立美術館を設計した青木淳氏が、青森県立美術館の建築や藤本氏の建築作品、民家展の展示と二川幸夫氏への想いなどについて語った。

日時：2014年2月1日(土) 14:00 - 15:30
場所：青森県立美術館シアター
入場者数：180人

平成 25 年度 スクールプログラム

概要

未来の青森県を担う感性豊かな人材を育成するためには、多くの子どもたちに対して、優れた美術作品に出会い本物が持つ素晴らしさを体験し、ふるさと青森の芸術文化や先人を学ぶ機会を提供することで、郷土に対する誇りが持てる鑑賞指導を行うことが極めて重要である。

このため、子どもたちが居住地域や家庭環境の違いの影響を受けずに、級友と語り合いながら発達段階に応じた深さで等しく学ぶ機会を提供する学校教育の場を活用して、児童・生徒、教育関係者を対象に、鑑賞指導、研修会、鑑賞教材開発等の多様な事業を行うスクールプログラムを実施した。

学校団体の来館受入れ

多くの子どもたちが優れた美術作品に接し、豊かな感性や能力を伸ばす機会として、学校団体の来館を積極的に受け入れている。特に、作品を見て子どもたちが感じたことや考えたことを大切にし、言葉で伝え合うことを通して、主体的に鑑賞する能力を育むことを重視したギャラリートークに力を入れている。

メニュー：

鑑賞プログラム（ギャラリートークコース、自由鑑賞コース）、鑑賞＋遺跡見学プログラム、オリジナルプログラム（学校連携プログラム）

月	常設展 (人)	企画展 (人)	団体数					
			合計	小	中	高	特	
4月	225	228	5	4	0	1	0	
5月	1,204	1,021	32	19	8	2	3	
6月	665	428	17	11	1	5	0	
7月	461	187	10	4	3	2	1	
8月	179	154	5	1	1	3	0	
9月	426	626	11	6	3	1	1	
10月	1,105	1,809	20	6	6	3	5	
11月	347	137	8	5	3	0	0	
12月	0	0	0	0	0	0	0	
1月	0	0	0	0	0	0	0	
2月	0	0	0	0	0	0	0	
3月	0	0	0	0	0	0	0	
合計	4,612	4,590	108	56	25	17	10	

合計 9,202 人

出前講座

県内各地の学校に出向き、当館の紹介、鑑賞教材「アートカード」を使ったゲーム（「○○美術館をつくろう」）や、ギャラリートーク体験（作家の伊藤二子氏と塚本悦雄氏から借用した作品や学校にある作品を使用）といった鑑賞活動を通じ、来館の難しい学校の児童生徒等に対して美術に親しむ機会を提供した。

実施日	学校名	人数
11月15日	青森市立堤小学校	59
11月19日	むつ市立大畑小学校	42
11月20日	平内町立小湊中学校	56
11月28日	鶴田町立胡桃館小学校	60
11月29日	弘前市立南中学校	105
12月5日	平内町立小湊小学校	42
12月6日	県立八戸第一養護学校	9
12月10日	田舎館村立田舎館中学校	66
12月11日	青森市立造道小学校	86
12月13日	階上町立小舟渡小学校	26
12月17日	平川市立平賀東小学校	71
12月19日	十和田市立南小学校	109
1月17日	青森明の星中学校	21
1月23日	むつ市立近川中学校	29
1月28日	青森市立新城小学校	52
1月30日	鶴田町立鶴田小学校	57
1月31日	南部町立南部小学校	51

合計 941 人

アートカード

図工・美術の授業及びクラブ活動などの学校教育活動で気軽に使用できる鑑賞教材として、棟方志功、奈良美智、鷹山宇一、豊島弘尚等、本県ゆかりの作家の作品や三内丸山遺跡出土遺物などを50点にまとめた「アートカード」を制作し、平成19年度から県内9施設において学校への貸出しを行っている。

また、平成23年度には県内10地区の小学校教育研究会図工部会にアートカードを提供し、利用促進を図っている。

貸出し実績：3件

貸出施設一覧

施設・機関名	所在地	電話番号
青森県立美術館	青森市安田字近野 185	017-782-1919 fax 783-5244
青森市教員研修センター	青森市栄町 1-10-10	017-743-4900 fax 743-4919
つがる市生涯学習交流センター [松の館]	つがる市木造若緑 52 (つがる市教育委員会指導課)	0173-42-5532 fax 42-5542
五所川原市立図書館	五所川原市字栄町 119	0173-34-4334 fax 34-3256
弘前市教育研究所	弘前市末広 4-10-1	0172-26-4802 fax 26-2250
十和田市民図書館	十和田市西 13 番町 2-8	0176-23-7808 fax 25-3838
むつ市立図書館	むつ市中央 2-3-10	0175-28-3500 fax 28-3400
北通り総合文化センター [ウイング]	大間町大字大間字内山 48-164	0175-32-1111 fax 37-5110
八戸市美術館	八戸市番町 10-4	0178-45-8338 fax 24-4531

教員研修

美術館と連携した鑑賞教育について教員の理解を深めるため、当館のコレクションや鑑賞指導演（アートカードの活用、ギャラリートーク演習等）などをテーマに、県総合学校教育センター、市町村教育委員会図工及び美術等教科研究会との連携講座を実施した。

また、当館主催の研修会として「みる」をテーマに「図工・美術、大学、美術館が連携して、美術教育の充実を考える研修」を実施した。この研修会では、同時に行われた武蔵野美術大学学生による展覧会「若き葛藤展」の展示作品を使った「対話による鑑賞」の体験や武蔵野美術大学三澤一実教授の講演会、小グループでのディスカッションを行った。

主催	月日	研修講座の名称	会場	人数
県立美術館	7月14日(日)	図工・美術、大学、美術館が連携して、美術教育の充実を考える研修	県立美術館	233
県・市町村教育委員会と共催	8月8日(木)	青森県総合学校教育センターと共催 初任者研修(小・中学校) 教職一般研修講座	県立美術館	56
	9月26日(木)	青森県総合学校教育センターと共催 図画工作・美術科教育講座 [鑑賞]	県立美術館	10
教育研究団体等と共催	7月24日(水)	南地方小学校教育研究会 図画工作科部会半日研修会	県立美術館	15
	8月9日(金)	西北美術教育研究会 夏季研修会	県立美術館	40
	12月25日(水)	上北地方小学校教育研究会 図画工作科部会 冬季研修会	十和田市立南小学校	15
	1月6日(木)	青森市小学校教育研究会 図画工作科研究部会 冬季研修会	県立美術館	56

合計 425 人

鑑賞サポーターの育成

学校団体鑑賞ツアーで来館した児童・生徒の鑑賞指導にあたる鑑賞サポーター（平成22年度までの「ファシリテーター」を呼称変更。）を配置・養成し、多くの学校団体の受入・指導を行った。

平成25年度3月末現在：14人

印刷物

スクールプログラムの周知及び活用促進のため、スクールプログラムガイドブック（教員用）を作成した。



学校団体の来館受入れ



出前講座



教員研修

サポートスタッフ

概要

青森県立美術館では、県民が美術館の活動に積極的に参加できるように常に工夫し、「県民とともに活動する」ことを目指している。

その取り組みの一つとして、美術館の様々な事業等の運営に参加、協力するボランティアを「サポートスタッフ」として募集し、各種イベント運営や、管理事務の補助、環境安全整備等、幅広いボランティア活動の展開を図っている。

なかでも、県美コンシェルジュ活動は、青森県立美術館のコンテンツの理解を促したり、来館者に寄り添って多角的なサポートを提供し、来館者の満足度向上に寄与している。

募集概要

募集期間：2013年2月6日－3月25日

募集人数：50人程度

応募条件：

- ・満18歳以上（2013年4月1日現在）。未成年は保護者の承諾が必要。
- ・美術館活動に関心があり、積極的に学び活動する意欲のあること。
- ・美術館に通勤可能なこと。

登録者数：49人（25年度末現在）

※このうち県美コンシェルジュ活動希望者26人

活動内容

1 研修

第1回研修会 4月20日（土）9:30－16:00

内容：平成25年度事業概要及び活動内容説明

・常設展「棟方志功の多面体」鑑賞及びギャラリートーク体験

・コンシェルジュとは（コンシェルジュ活動希望者のみ対象）

第2回研修会 11月21日（木）13:00－16:00

内容：活動実績報告及び補助犬、車椅子介助対応研修



サポートスタッフ研修会

2 サポート活動

(1) 学芸（企画展関連イベント運営補助）

活動日数：7日

参加人数：延べ39人

(2) 教育普及（おはなし会、レクチャー、ワークショップの運営補助）

活動日数：28日

参加人数：163人

(3) 舞台芸術（コンサート、おはなしフェスタの運営補助）

活動日数：22日

参加人数：87人

(4) 運営管理（資料整理等）

活動日数：17日

参加人数：85人

(5) 環境安全整備（県立美術館・三内丸山遺跡周辺の草刈等）

活動日数：29日

参加人数：460人

(6) 自主企画イベント実施（自主企画コンサート）

活動日数：4日

参加人数：20人

(7) 県美コンシェルジュ活動

活動日数：106日

参加人数：278人

対応客数：20,994人



サポート活動 運営管理（資料整理）

メンバーシッププログラム

概要

当館では、芸術を、より多くの人に身近に楽しんでもいただけるような環境づくりを進めるため、会員制度「青森県立美術館メンバーシッププログラム」を設けている。

入会した会員に対して、当館で開催する展覧会やパフォーミングアーツ事業への招待・優待などの特典付与、会員への情報提供などを行うものであり、本年度展開した事業内容は以下のとおりである。

会員証は奈良美智氏と、当美術館のシンボルマーク、ロゴタイプなど、ヴィジュアル・アイデンティティ (VI) を考案した菊地敦己氏のコラボレーションによるもの。

会員カテゴリ及び年会費

一般会員：3,000 円

学生会員：2,000 円（学生のためのプログラム）

こども会員：500 円（小・中学生のためのプログラム）

特別会員：10,000 円（一般会員をさらにすすめたプログラム）

コーポレート会員 A：50,000 円

コーポレート会員 B：30,000 円

※ 10 月以降入会の場合は各半額

会員数

（2014 年 3 月 31 日現在）

一般会員：130 人

学生会員：4 人

こども会員：10 人

特別会員：13 人

コーポレート会員 B：1 人

計 158 人

事業内容

（一般会員・学生会員・こども会員）

美術館事業への優待

- ・常設展観覧料 いつでも無料観覧可
- ・企画展観覧料 企画展招待券引換券を 2 枚配付するほか、いつでも前売料金で観覧可
- ・上記以外の館内実施プログラム 無料または割引価格で優待（特別会員）

美術館事業への優待

- ・常設展観覧料 いつでも無料観覧可
- ・企画展観覧料 企画展招待券引換券を 6 枚配付するほか、いつでも前売料金で観覧可

- ・企画展の内覧・開会レセプション等に招待
- ・上記以外の館内実施プログラム 無料または割引価格で優待（コーポレート会員）

美術館事業への優待

- ・常設展観覧料 会員証の提示により 5 名（B 会員については 3 名）まで無料観覧可
- ・企画展観覧料 企画展招待券引換券を 20 枚配付
- ・館内及びホームページに法人名を掲示（A 会員のみ）
- ・企画展の内覧・開会レセプション等に招待（A 会員のみ）

会員への情報提供

- ・年に 3 - 4 回、美術館スケジュール等の案内を送付

特典

- ・館内ミュージアムショップでの商品購入 5% 割引（一部商品を除く）
- ・館内カフェでの飲食代 5% 割引（一部商品を除く）

その他事業

- ・研修視察旅行
秋田県立美術館等を訪ねる日帰り鑑賞・研修ツアーを実施。
参加者数：40 人
- ・出前展示
「中ハシクシゲ展 in 小湊中学校」を平内町立小湊中学校内で開催した。この展覧会では、メンバーシップ会員が中ハシクシゲ氏と小湊中学校の生徒とともに、中ハシクシゲ氏の作品「OHKA43-b」の展示作業を行った。
入場者数：304 人



中ハシクシゲ展

パフォーミングアーツ

演劇

ダンス

音楽

映画

演劇

日・中・韓 国際共同制作作品 演劇「祝／言」

1 事業概要

青森県立美術館と国際交流基金の共同主催により、日本・中国・韓国の俳優、舞踊家、音楽家による現代演劇国際共同プロジェクト「祝／言」を3カ国8箇所で開催した。

また、中国では、イベントとして公演会場となる北京蓬蒿劇場で長谷川舞台芸術総監督による「演劇ワークショップ」を実施した。

2 公演趣旨

日本・中国・韓国は、長い歴史の中で様々な影響を互いに与えてきた近隣国でありながら、国民感情の中に複雑な思いを抱え現在に至る。

演劇「祝／言」は、互いが「異なる」ことを認識し、寄り添おうとしたとき、そこに人間本来の持つ普遍的な優しさや慈しみの心が生まれ、自分の中に新たな一面を見出すことができる、芸術にはそのような力があると信じて取り組まれたプロジェクトである。

俳優として参加する東北の演劇人と、中国・韓国の表現者が、それぞれの思いを持ってこの作品と対峙し、これからの日本と中国と韓国とのつながりを問う作品を目指し、制作・上演した。

また、この演劇プロジェクトは、2011年3月に東北を襲った大震災を正面から扱った。

3 企画・制作

主催：国際交流基金、青森県立美術館

制作：

【国内】 青森県立美術館（平成24年度）、青森県立美術館パフォーミングアーツ推進実行委員会（平成25年度）

【海外】 国際交流基金、国際交流基金ソウル日本文化センター、北京日本文化センター

各会場制作：

- ・青森 青森県立美術館
- ・仙台 仙台市民文化事業団
- ・東京 くわはらよしこ
- ・大田 大田文化芸術の殿堂
- ・ソウル ソウル国際公演芸術祭（ハンパック）
- ・全州 ソリ文化の殿堂
- ・上海 上海話劇芸術センター、上海総領事館
- ・北京 蓬蒿劇場

共催：

【日本】 フェスティバル／トーキョー13連携プログラム、仙台市民文化事業団

【韓国】 韓国公演芸術センター、太田文化芸術の殿堂、全州ソリ文化の殿堂

【中国】 上海話劇芸術センター、北京蓬蒿劇場

後援：

【青森】（株）東奥日報社、（株）デーリー東北新聞社、（株）陸奥新報社、（株）青森朝日放送、（株）青森テレビ、（株）青森放送、エフエム青森、朝日新聞青森総局、河北新報社、共同通信社青森支局、産経新聞社青森支局、（株）時事通信社青森支局、日本経済新聞社青森支局、毎日新聞青森支局、読売新聞青森支局、NHK青森放送局、青森市日中友好協会、在日大韓民国民団青森県地方本部

【仙台】 河北新報社、朝日新聞仙台総局、毎日新聞仙台支局、読売新聞東北総局、産経新聞社東北総局、時事通信社、NHK仙台放送局、東北放送株式会社、仙台放送、株式会社宮城テレビ放送、株式会社東日本放送、株式会社エフエム仙台、株式会社仙台シティエフエムラジオ、せんだい泉エフエム放送株式会社、株式会社プレスアート S-style

【東京】 中華人民共和国駐日本国大使館文化部、駐日韓国大使館韓国文化院

協力：

- ・日本 公益財団法人新国立劇場運営財団
- ・韓国 バク・グニョン（劇団コルモッキル劇作家）
- ・中国 ユイ・ロンジュン
（上海話劇芸術センター：劇作家・演出家）

作・演出：長谷川孝治

プロデューサー：小笠原真理子

韓国語翻訳：石川樹里

中国語翻訳：施小煒・趙冰清

韓国語翻訳・通訳：石川樹里

舞台監督：田邊克彦

舞台美術：高橋淳

音響：本多大公、寺山紀幸

照明：中村昭一郎

プロジェクション：齋藤耕平

俳優：相澤一成（宮城県）、なかじょうのぶ（宮城県）、佐藤隆太（福島県）、高橋淳（岩手県）、小笠原真理子（青森県）、田邊克彦（新潟県）、キム・ソナ（ソウル）、イ・ヨンスク（韓国 大田）、李丹（上海）、楊子奕（上海）、王小欢（北京）

舞踊：中村登世之丞（青森県）、チョン・ヨンドウ（ソウル）
津軽三味線：齋藤沙希（青森県）
国楽：アンサンブル・シナウィ5名（ソウル）

4 北京ワークショップ概要

(1) レクチャー「日本の演劇について」及び「コミュニケーションワークショップ」

日時：6月24日（月）10:00 - 12:00（レクチャー）、
14:00 - 16:00（ワークショップ）

会場：蓬蒿（ボンハオ）劇場
（北京市東城区交道口南大街東棉花胡同35号）
<http://www.penghaoren.com>

・レクチャー「日本の演劇について」

講師：長谷川孝治

通訳：張芳（ジャン ファン）氏

テクニカル操作：田邊克彦

観客動員数：60人

・「コミュニケーションワークショップ」

ワークショップ補助：田邊克彦

内容：

コミュニケーションとはどういうものを、説明ではなく体感させることで、参加者にコミュニケーションとは何かを考えさせる。長谷川舞台芸術総監督が、長年各地で行っているワークショップ手法の1つ。

※2人ペアになり、片方が目をつぶり誘導する。誘導する人間は、相手に色々な質問をし、相手の情報を聞き出す。

※目をつぶっている人間は相手の誘導で移動する。この際、絶対に目を開いてはいけない。また、壁や物に触れてもいけない。※劇場から外に出て、指定の場所まで誘導。目的地に着いたら、誘導する人間を交代し、同じように相手の情報を聞き出しながら、劇場へ戻る。

※他已紹介 相手から聞き出した情報をもとに、ペアになった相手の紹介を行う。



各参加者の自己紹介

(2) 「作品制作のためのワークショップ」及び作品発表
日時：6月25日（火）10:00 - 12:00（ワークショップ）、
14:00 - 16:00（作品発表）
会場：風尚劇場（東城区文化館3楼）

・「作品制作のためのワークショップ」

講師：長谷川孝治

通訳：張芳（ジャン ファン）氏

ワークショップ補助：田邊克彦

内容：

演劇「祝／言」のプレイベント台本を使用して、ドラマリーディング作品を制作。各班に分かれてダンサーとして参加してもらった。班分け後、各班で配役及び台詞の割り振りを決めてもらい、各班で読み合わせ及び稽古を行った。

・「作品発表」

講師：長谷川孝治

通訳：張芳（ジャン ファン）氏

発表補助・音響操作：田邊克彦

プロジェクター操作：久保田淳一氏

（国際交流基金北京日本文化センター）

参加者からの感想：

今まで、いろいろなワークショップを受けてきた。しかし、今回の手法は、まったく違うもので、表現をすべて体感できる、感じることができる。なぜ、表現者たちは表現をするのか、深く理解できるものだった。／これまでやった中で、一番素晴らしいワークショップだった。／このような方法で、ワークショップを実施したのは初めてだった。今の社会と、直接的に繋がっているワークショップだった。／この演劇「祝／言」は写真と音楽だけで十分感動できる。そこに文字だけを入れ込んでいく。それだけで、感動を生むのではないか。／詩的言語と写真、音楽によって構成されたものだけでも見てみたい。／最初は、長谷川さんの意図が分らなかった。しかし、最後の作品制作で、長谷川さんは私たちと違う思想、別の世界にいて、長谷川さんが別の世界から私たちに語りかけている気がした。／とても文学的な作品なので、なかなか理解できなかったが、これからもっと時間をかけて深いところへ降りていきたい。俳優として舞台の上でつなげ、共感を得られる作品にしていくのが難しいが、もっと体感したいと心から思った。／この演劇で、長谷川さんが何をみんなに伝えたいのか、わかってきた。音楽、写真、言葉で感動した。

5 稽古

会場：青森県立美術館シアター・スタジオ

日時：10月1日（火） - 9日（水）

10月10日（木）（リハーサル）

6 国内公演概要

(1) 青森公演

会場：青森県立美術館シアター

日時：

10月11日（金）18:00 - 20:00

10月12日（土）18:00 - 20:00

10月13日（日）18:00 - 20:00

（受付：60分前、開場30分前）

チケット料金：

前売り一般 3,500円／当日一般 4,000円

前売り学生 2,500円／当日学生 3,000円

チケット販売先：

青森県立美術館ミュージアムショップ、サンロード青森、成田本店しんまち店、日弘楽器、紀伊国屋書店弘前店、八戸ポータルミュージアムはっち、ローソンチケット Lコード（23490）

その他：

- ・無料託児サービス
公演の開場から終演までの間、キッズルームにて無料で託児サービス実施。（ただし、1歳から）
- ・終演後の無料送迎
公演終演後、青森駅までの無料送迎を実施。
- ・カフェ「4匹の猫」臨時営業
公演日は開場時間まで営業時間を延長。



青森県立美術館シアター公演



国内公演ポスター

(2) 仙台公演

会場：日立システムズホール仙台

（宮城県仙台市青葉区旭ヶ丘 3-27-5）

日時：11月24日（日）14:00 - 16:00

（受付：60分前、開場30分前）

チケット料金：

前売り一般 3,500円／当日一般 4,000円

前売り学生 2,500円／当日学生 3,000円

チケット販売先：

日立システムズホール仙台、イズミティ 21、せんだい演劇工房 10-B o X、仙台三越、藤崎、ローソンチケット Lコード（23491）、仙台市市民文化財団（仙台市市民文化財団「友の会」割引 前売り料金から300円引きでチケットを販売）

(3) 東京公演

会場：新国立劇場小劇場（東京都渋谷区本町 1-1-1）

日時：

11月29日（金）18:30 - 20:30

11月30日（土）13:00 - 15:00 / 18:30 - 20:30

12月1日（日）13:00 - 15:00

（受付60分前、開場30分前）

チケット料金：

前売り一般 4,500円／当日一般 5,000円

前売り学生 3,500円／当日学生 4,000円

チケット販売先：ローソンチケット Lコード（33531）、F/T チケットセンター（一般前売り券のみ取扱）

7 海外公演概要

(1) 韓国大田公演

会場：テジョン文化芸術の殿堂（大田広域市 西区 万年洞）

日時：

10月19日（土）19:00 - 21:00

10月20日（日）15:00 - 17:00



韓国テジョン公演ポスター

(2) 韓国ソウル公演

会場：大学路芸術劇場（ソウル市鍾路区東崇洞 1-130）

日時：

10月25日（金）20:00 - 22:00

10月26日（土）15:00 - 17:00 / 18:00 - 20:00



大学路芸術劇場

(3) 韓国全州公演

会場：全州ソリ文化の殿堂

（全羅北道全州市徳津区ソリ路 31（徳津洞 1 街））

日時：

11月1日（金）19:30 - 21:30

11月2日（土）15:00 - 17:00 / 19:00 - 21:00



全州ソリ文化の殿堂

(4) 上海公演

会場：海話劇芸術センター（上海市安福路 201 号）

日時：

11月14日（木）19:30 - 21:30

11月15日（金）19:30 - 21:30

11月16日（土）14:00 - 16:00 / 19:30 - 21:30

11月17日（日）14:00 - 16:00



上海公演ポスター

(5) 北京公演

会場：蓬蒿劇場（北京市東城区交道口南大街東棉花胡同 35 号）

日時：

2014年1月10日（金）19:45 - 21:45

2014年1月11日（土）14:30 - 16:30 / 19:45 - 21:45

2014年1月12日（日）14:30 - 16:30



北京公演ポスター

8 総観客動員

観客動員 5,129 人（8カ所、25公演）

総動員率 87.2%

	開催都市	開催日	共同主催・フェスティバル招待先	会場	観覧者数(人)
日本	青森県	10/11-10/13		青森県立美術館シアター	368
	宮城県	11/24	公益財団法人 仙台市民文化事業団	日立システムズホール仙台	257
	東京都	11/29-12/1	新国立劇場、フェスティバル ルトークョー	新国立劇場	841
韓国	大田	10/19-10/20	大田グランドフェスティバル	大田文化芸術の殿堂	615
	ソウル	10/25-10/26	ソウル国際公演芸術祭	大学路（テハンノ）芸術劇場	697
	全州	11/1-11/2	ソリ芸術フェスティバル	韓国ソリ文化の殿堂	1,075
中国	上海	11/14-11/17	上海話劇芸術センター	上海話劇芸術センター	1,015
	北京	2014/1/10-1/12	ボンハオ劇場	ボンハオ劇場 (中国最初の民間劇場)	324
合計					5,192

ドラマリーディングクラブ事業

1 事業概要

青森県立美術館に県民が積極的に参加できる環境を舞台芸術企画部門からアプローチする。

「青森県立美術館ドラマリーディングクラブ（2009年設立）」を軸として、参加意欲のある県民を募り、舞台芸術に関わる機会を提供し、公演を実施している。平成25年度は、「子ども」に視点を置いて舞台芸術の活性化を図るため、県内小学校から高等学校を対象に「出前公演」を実施。また「なつやすみ！おはなしフェスタ2013」にて、子供向けの演目を上演した。

運営主体：

青森県立美術館パフォーミングアーツ推進実行委員会、青森県立美術館

2 ドラマリーディングクラブ

(1) 設立

2009年度

(2) 参加条件

- ・青森県立美術館での稽古に参加できること
- ・年齢、経験不問（未成年者は保護者の同意が必要）
- ・年間に最低1公演には参加できる
- ・交通費や食費等活動に際して個人に係るものは全て自己負担

(3) 活動場所

青森県立美術館施設内を基本とする

(4) 募集期間

募集定員に達するまで随時募集

(5) 定員

50名（欠員が出た場合は補充）

(6) 参加料

無料（交通費・食費等の個人に係るものは全て自己負担）

(7) 選考方法

書類選考とし、書類受理後に随時面談を行う

(8) 稽古内容・日程

- ・青森県立美術館パフォーミングアーツ専門スタッフの指導のもと、オリジナルの戯曲や既成の詩・小説、その他の文章を使い、空間を意識しつつ朗読する
- ・定期公演に向けた稽古を実施する
- ・青森県立美術館企画サポート公演に向けた稽古を実施する
- ・その他公演に向けた稽古を実施する
- ・週1回の稽古を基本とする
- ・公演1週間前は毎日稽古を行う

3 公演詳細

(1) 出前公演

平成21年度から平成24年度は県立美術館を会場に、多くの観客に対し公演を実施してきたが、平成25年度は、次代を担う子ども達に舞台芸術への理解を深めてもらうことを目的に、県内小中高等学校へのドラマリーディング出前公演を行った。

構成・監修：長谷川孝治（青森県立美術館舞台芸術総監督）

プロデュース担当：小笠原真理子

（青森県立美術館舞台芸術プロデューサー）

演出：田邊克彦（青森県立美術館舞台芸術ドラマトゥルク）

①青森市立千刈小学校

日時：7月3日（水）10:30 - 12:00

会場：青森市立千刈小学校体育館

演目：『あらしのよるに』シリーズ5作品

（『あらしのよるに』『あるはれたひに』『どしゃぶりのひに』『ふぶきのあした』『まんげつのよるに』）

※上演前に生徒対象ワークショップを実施。

作：きむらゆういち

絵：あべ弘士

出演：ドラマリーディングクラブ員 12名

観客動員数：350人（児童・教職員・父兄）

②八戸市立種差小学校

（小学校3校・中学校1校・保育園1施設との合同鑑賞）

日時：9月4日（水）13:30 - 15:30

会場：八戸市立種差小学校体育館

演目：『あらしのよるに』シリーズ5作品

（『あらしのよるに』『あるはれたひに』『どしゃぶりのひに』『ふぶきのあした』『まんげつのよるに』）

※上演前に生徒対象ワークショップを実施。

作：きむらゆういち

絵：あべ弘士

出演：ドラマリーディングクラブ員 9名

観客動員数：227人（児童・教職員・父兄）

③青森市立佃小学校

日時：9月17日（火）9:30 - 11:30

会場：青森市立佃小学校体育館

演目：『あらしのよるに』シリーズ7作品

（『あらしのよるに』『あるはれたひに』『くものきれまに』『きりのなかで』『どしゃぶりのひに』『ふぶきのあした』『まんげつのよるに』）

作：きむらゆういち

絵：あべ弘士

出演：ドラマリーディングクラブ員 12名

観客動員数：650人（児童・教職員・父兄）

④青森県立田名部高等学校 大畑校舎

（閉校記念行事として開催）

日時：9月18日（水）13:30 - 15:00

会場：青森県立田名部高等学校 大畑校舎 体育館

演目：

・『走れメロス』（太宰治 作）

・『あおり犬のおはなし〜ビートルズの引用による〜』（長谷川孝治 作）

・『銀河鉄道の夜』（宮沢賢治 作）

出演：ドラマリーディングクラブ員 10名

観客動員数：291人（高校生、中学生、教職員）



(2) 「あおり犬のおはなし～ビートルズの引用による～」
 (「なつやすみ！おはなしフェスタ 2013」上演)

日時：9月18日(水) 11:30 - 12:00

会場：青森県立美術館シアター

作・監修：長谷川孝治(青森県立美術館舞台芸術総監督)

プロデュース担当：小笠原真理子

(青森県立美術館舞台芸術プロデューサー)

演出：田邊克彦(青森県立美術館舞台芸術ドラマトゥルク)

出演：ドラマリーディングクラブ員 8名

観客動員数：167人

※「なつやすみ！おはなしフェスタ 2013」については、下記「ま
 るごと小劇場展開事業」を参照。

美術館まるごと小劇場展開事業

1 事業概要

未来を担う子ども達に芸術に親しむ機会を提供し、豊かな心を
 育むことを目的に、県内各地域で活動している読み聞かせ団体
 の連携と人材養成を行うため「おはなし研修 in 八戸」を実施し、
 読み聞かせ団体と青森県立美術館舞台芸術部門が協力して「な
 つやすみ！おはなしフェスタ 2013」を実施した。

2 公演等詳細

(1) 「おはなし研修 in 八戸」

読み聞かせ活動従事者を対象として、ドラマリーディングの手
 法を取り入れた読み聞かせ研修会を実施するとともに、研修成
 果の発表会、絵本作家の宮西達也氏による講演会・ワークショップ
 を開催。

主催：青森県立美術館パフォーミングアーツ推進実行委員会、
 青森県立美術館

助成：財団法人地域創造

監修：長谷川孝治(青森県立美術館舞台芸術総監督)

コーディネート：秋田敏博(親子ふれあい読書アドバイザー)

プロデュース担当：小笠原真理子

(青森県立美術館舞台芸術プロデューサー)

① 研修会

日時：7月6日(土) 10:00 - 16:00

会場：八戸地域地場産業センター(ユートリー)

1階大ホールA、5階会議室

参加団体数：5団体 23名

② 「七夕おはなし会 ～流れ星に三陸復興の願いを込めて～」



日時：7月7日(日) 12:30 - 14:00

会場：八戸地域地場産業振興センター(ユートリー)

1階大ホールA

料金：無料(事前申込による予約制)

出演団体：5団体 23名

上演作品数：6作品

観客動員数：241人

③ 「絵本作家 宮西達也先生 講演会・ワークショップ」

日時：7月7日(日) 14:15 - 15:45

会場：八戸地域地場産業振興センター(ユートリー)

1階大ホールA

講師：宮西達也(絵本作家)

料金：無料(事前申込による予約制)

観客動員数：143人

(2) 「なつやすみ！おはなしフェスタ 2013」

絵本作家 とよたかずひこ氏の講演会のほか、青森県立美術館シ
 アターを主会場に、美術館内外の様々な場所で県内各地域の読
 み聞かせ団体が出演するドラマリーディング形式での絵本の上
 演、影絵・紙芝居・昔語り等を上演。

主催：青森県立美術館パフォーミングアーツ推進実行委員会、
 青森県立美術館

助成：財団法人むつ小川原地域・産業振興財団

監修：長谷川孝治(青森県立美術館舞台芸術総監督)

コーディネート：秋田敏博(親子ふれあい読書アドバイザー)

プロデュース担当：小笠原真理子

(青森県立美術館舞台芸術プロデューサー)

①オープニングイベント「絵本作家 とよたかずひこ先生講演会」

日時：8月10日（土）13:00 - 14:30
会場：青森県立美術館シアター
講師：とよたかずひこ（絵本作家）
料金：無料（往復ハガキによる予約制）
観客動員：163人

②「県内読み聞かせ団体交流会」（出演団体のみ）

日時：8月10日（土）14:45 - 15:30
会場：青森県立美術館スタジオ
参加者数：29人

③「なつやすみ！おはなしフェスタ 2013」

日時：8月11日（日）10:00 - 15:00
8月17日（土）10:00 - 15:00
8月18日（日）10:00 - 15:00

会場：

青森県立美術館シアター、ワークショップA・B、スタジオ、
八角堂周辺、屋外エントランス入口軒下付近、縄文の丘三内
まほろばパーク縄文時遊館

料金：（シアターのみ往復ハガキによる予約制）

出演団体：26団体・5個人

シアター上演作品：のべ27団体・個人、49作品

観客動員：1,660人

記録：

全ての公演について記録写真撮影、シアター上演について記録
映像収録、DVD作成。



3 広報宣伝、営業概要

宣材物としてチラシ・ポスターを作成、県内文化施設・教育機関・
観光施設等を中心に配布、掲示を依頼した。また、PA 顧客等
へのダイレクトメールの配布を実施した。

「七夕おはなし会」、「絵本作家 宮西達也先生 講演会・ワーク
ショップ」では、八戸市周辺の小学校、幼稚園、保育園等に全
児童・幼児分のチラシを送付した。「なつやすみ！おはなしフェ
スタ 2013」では、県内小学校、幼稚園、保育園、児童館に全児童・
幼児分のチラシを送付した。

宣伝：

「七夕おはなし会」チラシ（A4版／カラー）23,000部

「なつやすみ！おはなしフェスタ 2013」チラシ（B4版／カラー
二つ折り）150,000部、ポスター（B2版／カラー）300部

ダンス

日韓パフォーミングアーツ新コンテンツ戦略事業 「Aleko2014 ～ダンサー・俳優・演奏家による～」



1 事業概要

青森県立美術館では、「青森県の個性豊かな芸術を世界に発信」するため、これまで「韓国」を中心にオリジナル作品、日韓共同制作演劇「ソウルの雨」「青森の雨」の創作・上演をし、過去2回、ソウル国際公演芸術祭へ招待されたほか、「全ての芸術の融合を目指す美術館」として、マルク・シャガールの描いた舞台背景画、「アレコ」を背景とした韓国民族音楽コンサートなどを展開するなど韓国と深いつながりを持っている。

これらの実績の成果として韓国の文化芸術の中心である「大田(テジョン)文化芸術の殿堂」(大韓民国大田広域市)と青森県立美術館との共同制作・アーティスト交流事業として本公演を実施した。

本公演は、10月に韓国大田で行ったダンサーオーディションにて選考された韓国人ダンサーと、日本舞踊家、日本人俳優、当館主催の平成23年度「チャイコフスキー・ピアノトリオ・オーディション」選考の演奏家が出演し、公演を行った。

脚本：

アレクサンドル・プーシキン(作)「ジブシー」、蔵原惟人(訳)

構成・演出：長谷川孝治(青森県立美術館舞台芸術総監督)

主催：青森県立美術館パフォーミングアーツ推進実行委員会、青森県立美術館、大田文化芸術の殿堂

助成：芸術文化振興基金

2 公演詳細

(1) あらすじ

文明社会に嫌気がさし、自由を求めて「ジブシー」の一団に加わったロシアの青年貴族アレコは、「ジブシー」の娘、ゼムフィーラと恋に落ちる。しかし、奔放なゼムフィーラはすぐに別の若いジブシーへ心移してしまう。それを知ったアレコは、嫉妬のあまり錯乱状態に陥り、ゼムフィーラとその愛人を殺害する。アレコの中に潜む文明人の傲慢と「ジブシー」が体現する真の自由。その二つの矛盾が引き起こす生と死の物語。

(2) 構成

- チャイコフスキー 「ピアノトリオ イ短調 作品50」第1楽章
・プレリュード「アレコとゼムフィーラと光」
それぞれのアレコとそれぞれのゼムフィーラ。
- ・第1幕「月光のアレコとゼムフィーラ」
青年貴族アレコが、都会から離れた場所でジブシーの娘ゼムフィーラと出会い、恋に落ちる。

- チャイコフスキー 「ピアノトリオ イ短調 作品50」第2楽章
・第2幕「ジブシーの日々と疑惑」
ジブシーのキャンプでの生活は自然と一体であり、アレコにとって数年は瞬く間に過ぎていく。そして、それは「人間が自然の一部であることの確認」としてのカーニヴァルの日々だった。
- ・第3幕「諍い・ユニダンス」
アレコは嫉妬に駆られ若い男とゼムフィーラを殺害する。
- ・第4幕「追憶と追放」
ジブシーの共同体を放り出されたアレコは、また別の場所へ旅立ちを余儀なくされる。

観客動員数：339人

日時：2014年3月15日(土)、16日(日)

18:00開演 17:30開場(受付開始17:00) ※上演時間90分
会場：青森県立美術館アレコホール(180席)

出演：

[ダンス部門]

アレコ/チョン・ソクソン

ゼムフィーラ/ユ・ジェヒョン、アン・イエースル

アレコ/中村登世之丞

アレコ/豊澤賢也

ゼムフィーラ/猪股南、猪股ちひろ

若い男/猪股ちひろ

ジブシー/渡邊夏帆、須藤れな、金崎麻衣、工藤明、船水美里、

齋藤桃伽、吉川愛里、西塚萌友、一戸歩好、松田繭、西谷萌、鎌田菜乃、加藤那菜子、一戸美緒、齋藤隼成、福島瑞生、猪股葵、尾崎麗羽、澤田ほのか、田中伶旺、伴彩水華、福島果純、藤田紗佳、三浦愛香（豊田児童センター輪車クラブ）

〔演劇部門〕

ゼムフィーラの父／森田 誠

アレコ／林 久志

ゼムフィーラ／小笠原真理子

若い男／田邊克彦

語り／青森県立美術館ドラマリーディングクラブ

阿部留美子・小野寺圭子

〔演奏部門〕

トリオ「Interno」（2011年チャイコフスキー・ピアノトリオ・オーディション選考者）

矢野雄太（ピアノ）、藤原晶世（ヴァイオリン）、藤原秀章（チェロ）

スタッフ：

プロデューサー／小笠原真理子

舞台監督／野村眞仁

照明デザイン／佐藤牧人、神 照一、チョン・フン（韓国：大田文化芸術の殿堂）

音響／工藤敢司、寺山紀幸

舞台美術／田邊克彦

仮設舞台／溝江工業

韓国語翻訳・通訳／石川樹里

3 入場料金・チケット販売

料金：

・前売り券 一般 3,000 円／学生 2,000 円

（当日は全て 500 円増）

・「春を招く響き」＋「Aleko2014」2 公演券

一般 4,000 円／学生 2,500 円（前売りのみ）

※県内の小・中・高校生を先着 30 名まで無料招待

チケット販売場所：

・全 国 ローソンチケット（Lコード 25384）

・青森市 サンロード青森、成田本店しんまち店、青森県立美術館ミュージアムショップ

・八戸市 八戸ポータルミュージアムはっち

・弘前市 紀伊國屋書店、弘前大学生協

4 広報宣伝、営業概要

宣伝：

日韓パフォーマンス新コンテンツ戦略事業「アレコホール演奏会～春を招く響き～」と共通の宣材物として、チラシ、ポスターを作成。県内文化施設、県内公私立小中高等学校、各ダンス教室へ掲示・掲出を依頼。

・チラシ（A4 版／カラー）50,000 枚

・ポスター（B2 版／カラー）30 枚

広報：

・マスコミ公開稽古及び公開リハーサルの開催

・マスコミ各社において告知・公演開催の模様を取材依頼

・ラジオにおいて、開催告知の依頼

記録：記録写真撮影、記録映像収録、DVD 制作を実施。

営業：顧客へのダイレクトメール配布、県内公演への折り込みを実施。

5 来場者サービス

・無料託児サービス

公演の開場から終演までの間、キッズルームにて無料で託児サービス実施。（ただし、1 歳から）

・終演後の無料送迎

公演終演後、青森駅までの無料送迎を実施。

・カフェ「4 匹の猫」臨時営業

公演日は開場時間まで営業時間を延長。

6 その他

関連企画として、「青森県立美術館ライトアップ」を実施。

日時：2014 年 3 月 8 日（土）－ 16 日（日）

16:00－21:00

場所：青森県立美術館エントランス

音楽

アレコホール定期演奏会 2013-2014

ソナタ・プロジェクト

「モーツァルトのピアノソナタ」連続演奏

1 事業概要

前年度に引き続き、アレコホールコンサートを海外（東アジア）へ広く発信し、「すべての芸術の融合を目指す美術館」という青森県立美術館の地位確立を目指すため、平成 25 年度は「ソナタ・プロジェクト」と題し、ヴォルフガング・アマデウス・モーツァルトのピアノソナタ第 1 番から第 18 番までを、計 6 回に渡り演奏した。

主催：青森県立美術館パフォーミングアーツ推進実行委員会、青森県立美術館

2 入場料金・チケット販売

料金：

前売り券 一般 2,000 円 / 学生 1,000 円 (当日は全て 500 円増)

ペア券 3,000 円

2 回券 3,000 円

通し券 8,000 円

※ 2 回券は (6 月・7 月)、(9 月・10 月)、(12 月・1 月) の 3 券種

※ ペア券・2 回券は前売のみの販売

※ 通し券は事務局での予約販売のみ

※ 県内の小・中・高校生を各回先着 60 名まで無料招待

チケット販売場所：

全 国 ローソンチケット (L コード：22484)

青森市 サンロード青森、成田本店しんまち店、青森県立美術館ミュージアムショップ

弘前市：弘前大学生協、日弘楽器

八戸市：八戸ポータルミュージアムはっち

3 広報宣伝

演奏会宣材物として、チラシ、ポスターを作成し、県内文化施設、教育機関等、県内道の駅、県内音楽教室、県内音楽団体、各商店街等を中心に配布、掲示を依頼した。また、県内各地のコンサート等への折り込み、PA 顧客等へダイレクトメールの配布を実施した。

また、小・中・高校生無料招待を周知するため、学生招待用のチラシを作成。県内全小学校・青森市内全中学校・吹奏楽部のある県内の全高等学校へチラシを送付した。

宣伝：

- ・ チラシ (A4 版 / 白黒) 80,000 枚
- ・ 小中高校生無料招待チラシ (A4 版 / 白黒) 80,000 枚
- ・ ポスター (B1 版 / 白黒) 10 枚
- ・ ポスター (B2 版 / 白黒) 50 枚

広報：

- ・ 新聞各社において告知、公演開催の様態を取材依頼
- ・ 県内ラジオにおいて告知



公演開催チラシ

4 来場者サービス

- ・ 無料託児サービス
各公演の開場から終演までの間、キッズルームにて無料で託児サービスを実施。(ただし、1 歳から)
- ・ 終演後の無料送迎
演奏会終演後、青森駅までの無料送迎を実施。
- ・ カフェ「4 匹の猫」臨時営業
公演日は開場時まで営業時間を延長。

5 各公演詳細

会場：青森県立美術館アレコホール

席数：200 席 (全席自由)

演奏者：浅野 清 (ピアノ)

(1) 第 1 回 6 月 8 日 (土)

19 時開演 18 時 30 分開場 18 時受付開始

演奏曲目：

ヴォルフガング・アマデウス・モーツァルト

「ピアノソナタ第 1 番 ハ長調 K.279」

「ピアノソナタ第 9 番 二長調 K.311」

「ピアノソナタ第8番 イ短調 K.310」

観客動員数：180人（うち、学生招待35人・一般招待28人）

(2) 第2回 7月20日(土)

19時開演 18時30分開場 18時受付開始

演奏曲目：

ヴォルフガング・アマデウス・モーツァルト

「ピアノソナタ第2番 ヘ長調 K.280」

「ピアノソナタ第10番 ハ長調 K.330」

「ピアノソナタ第6番 ニ長調 K.284」

観客動員数：114人（うち、学生招待25人・一般招待7人）

(3) 第3回 9月7日(土)

19時開演 18時30分開場 18時受付開始

演奏曲目：

ヴォルフガング・アマデウス・モーツァルト

「ピアノソナタ第3番 変口長調 K.281」

「ピアノソナタ第18番 ニ長調 K.576」

「ピアノソナタ第12番 ヘ長調 K.332」

観客動員数：94人（うち、学生招待19人・一般招待4人）

(4) 第4回 10月5日(土)

18時開演 17時30分開場 17時受付開始

演奏曲目：

ヴォルフガング・アマデウス・モーツァルト

「ピアノソナタ第4番 変ホ長調 K.282」

「ピアノソナタ第5番 ト長調 K.283」

「ピアノソナタ第11番 イ長調 K.331」

観客動員数：111人（うち、学生招待20人・一般招待19人）

(5) 第5回 12月14日(土)

18時開演 17時30分開場 17時受付開始

演奏曲目：

ヴォルフガング・アマデウス・モーツァルト

「ピアノソナタ第7番 ハ長調 K.309」

「ピアノソナタ第13番 変口長調 K.333」

「ピアノソナタ第14番 ハ短調 K.475/457」

観客動員数：79人（うち、学生招待20人・一般招待5人）

(6) 第6回 2014年1月4日(土)

18時開演 17時30分開場 17時受付開始

演奏曲目：

ヴォルフガング・アマデウス・モーツァルト

「ピアノソナタ第16番 ハ長調 K.545」

「ピアノソナタ第15番 ヘ長調 K.533/494」

「ピアノソナタ第17番 変口長調 K.570」

観客動員数：80人（うち、学生招待9人・一般招待14人）

6 演奏家プロフィール

浅野 清 piano

国立音楽大学卒業後、バーンスタイン、エッシェンバッハの推薦によりニューヨークのジュリアード音楽院に入学、ヤコブ・ラタイナーのもとで主に古典派楽曲の演奏法について学び、大学院を修了。その後ニューヨーク大学にてヴィルチュオーゾとして名高いユージン・リストに師事する。

1981年マンハイム音楽大学演奏科を首席で卒業。ドイツ各地、パリでソロ及び室内楽の演奏会、シュヴェービッシュ・シンフォニーオーケストラとの共演等で好評を博し、有力紙等で絶賛される。カイゼルスラウテルン市立音楽学校専任講師、マンハイム音楽大学講師を務め、1984年帰国。リサイタルはもとより、大野一雄の舞踏公演を始め東京バレエ団や世界のトップバレリーナのためにも演奏を行い、埼玉純真女子短期大学講師を経て弘前大学へ赴任。以来数多くの器楽・声楽・映画の伴奏並びに室内楽リサイタルやオーケストラとの共演を重ねているほか、二度のベートーヴェン「32のソナタ」全曲演奏(1989-90、2006-07)、ドイツで行われた「フリッツ・ヴンダーリッヒ没後25年追悼演奏会」、ルーマニアの「国際現代音楽祭」で招待演奏をするなどソロリサイタルを中心に国内外で精力的に活躍している。

平成6年度青森県芸術文化奨励賞受賞

米国テネシー大学マーチン校客員教授(1997年)

弘前大学教育学部教授

日韓パフォーミングアーツ新コンテンツ戦略事業 アレコホール演奏会

「春を招く響き～韓国演奏家による～」

1 事業概要

青森県立美術館では「青森県の個性豊かな芸術を世界に発信」するため、これまで「韓国」を中心にオリジナル作品、日韓共同制作演劇「ソウルの雨」「青森の雨」の創作・上演をし、過去2回、ソウル国際公演芸術祭へ招待されたほか、「全ての芸術の融合を目指す美術館」として、マルク・シャガールの描いた舞台背景画「アレコ」を背景とした韓国民族音楽コンサートなどを展開するなど韓国と深いつながりを持っている。

これらの実績の成果として韓国の文化芸術の中心である「大田(テジョン)文化芸術の殿堂」(大韓民国大田広域市)と青森県立美術館との共同制作・アーティスト交流により、本演奏会ならびにダンス公演を実施した。

本演奏会の出演者は、8月7日-9日に、大田サマーコンサート内のオーディション通過者によるコンサートの鑑賞、ならびに、コンサート出演者以外の大田在住の演奏家によるオーディションを開催し選考。ピアニスト・浅野清氏と、青森県立美術館舞台芸術総監督・長谷川孝治の審査により合格者を決定した。

主催：青森県立美術館パフォーミングアーツ推進実行委員会、

青森県立美術館、大田文化芸術の殿堂

2 入場料金・チケット販売

料金：

- ・前売り券 一般 2,000 円／学生 1,000 円
(当日は全て 500 円増)
- ・「春を招く響き」＋「Aleko 2014」2 公演券
一般 4,000 円／学生券 2,500 円 (前売りのみ)
- ※県内の小・中・高校生を先着 60 名まで無料招待
- チケット販売場所：
 - ・全国 ローソンチケット (L コード：25384)
 - ・青森市 サンロード青森、成田本店しんまち店、青森県立美術館ミュージアムショップ
 - ・弘前市 紀伊國屋書店、弘前大学生協
 - ・八戸市 八戸ポータルミュージアムはっち

3 広報宣伝

宣材物として、「Aleko 2014 ～ダンサー・俳優・演奏家による～」との共通のチラシ・ポスターを作成し、県内文化施設・教育機関や、県内音楽教室・ダンス教室を中心に配布、掲示を依頼した。また、県内各地のコンサート等への折り込み、PA 顧客等へダイレクトメールの配布を実施した。

そのほか、小・中・高校生無料招待を周知するため、学生招待用のチラシを作成。県内小学校・青森市内中学校・吹奏楽部のある県内の高等学校へチラシを送付した。

宣伝：

- ・チラシ (A4 版／カラー) 50,000 枚
- ・ポスター (B2 版／カラー) 30 枚

広報：

- ・新聞各社において告知・公演開催の様態を取材依頼
- ・県内ラジオにおいて告知



公演開催チラシ

4 来場者サービス

- ・無料託児サービス
公演の開場から終演までの間、キッズルームにて無料で託児サービス実施。(ただし、1 歳から)

・終演後の無料送迎

公演終演後、青森駅までの無料送迎を実施。

・カフェ「4 匹の猫」臨時営業

公演日は開場時間まで営業時間を延長。

5 公演詳細

会場：青森県立美術館アレコホール

席数：200 席 (全席自由)

日時：2014 年 3 月 8 日 (土)

18 時開演 17 時 30 分開場 17 時受付開始

演奏者：

[ソロ] イム・イェジ (ピアノ)

[デュオ] ソン・ジウォン (ヴァイオリン)、ホン・ソユ (ピアノ)

演奏曲目：

[ソロ]

・ヨハン・ゼバスティアン・バッハ

「最愛の兄の旅立ちに寄せるカプリッチョ」

変口長調 992 (Capriccio "On the departure of a beloved brother" in B-flat, BWV 992)

・ジョゼフ＝モリス・ラヴェル

「鏡」(Miroirs)

蛾 (Noctuelles)

悲しげな鳥たち (Oiseaux tristes)

海原の小舟 (Une barque sur l'océan)

道化師の朝の歌 (Alborada del gracioso)

鐘の谷 (La vallee des cloches)

・フレデリック・アンソニー・ジェフスキー

「ウインスポロ綿工場のブルース」

(Winnsboro Cotton Mill Blues)

[デュオ]

・ルートヴィヒ・ヴァン・ベートーヴェン

「ヴァイオリン・ソナタ第 1 番 二長調 Op. 12-1」

(L.v.Beethoven Sonata for Violin and Piano in D Major, Op. 12-1)

Allegro con brio

Tema con variazioni

Andante con moto

Allegro

・ピョートル・イリイチ・チャイコフスキー

「ワルツ・スケルツォ」(Waltz Scherzo)

・セザール・フランク

「ヴァイオリン・ソナタ イ長調」(Violin Sonata in A Major)

Allegretto ben moderato

Allegro

Recitativo-Fantasia

Allegretto poco mosso

観客動員数：152 人

6 演奏者プロフィール

イム・イェジ (ピアノ)

モクウォン大学ピアノ科在学中から、独奏室内楽など、さまざまな音楽活動を行い、総長功労賞を受賞し優秀な成績で卒業。その後、ドイツに渡り、デトモルト国立音大でディプロマを取得。さらにニュルンベルク国立音大で上級訓練クラスを卒業、マインツ国立音大で最高演奏者過程を卒業した。在学中、ドイツのピアノ会社である Thürmer 社の招請演奏者としてデビュー舞台を飾り、ドイツ各地でリサイタルを開く一方、ギャラリー・メルニコフ、マインツ・レシエンバーグ音楽祭、ニュルンベルクのゲルマン国立博物館などでの招請演奏を重ねて、演奏家としての土台を作り上げた。マインツで開かれた「ジャズとクラシックの調和」プロジェクトのメイン演奏者を務めた彼女は、Allgemeine Zeitung 新聞に取り上げられ、「完璧な演奏」という賛辞を受けた。また独奏だけでなく、伴奏にも関心を持ち、ハイデルベルグ大学伴奏科でディプロマを取得。独奏会の伴奏、ドイツ歌曲音楽会の専門伴奏者としても活動し、Inger Pittler コンクールで伴奏者賞を受賞した。また、シフ・アンドラーシュ、アナトール・ウゴルスキ、ジェローム・ローズ、ベルント・ゲツケ、ヴォルフガング・マンツなど、世界的なピアニストたちのマスタークラスに参加し、演奏活動のかたわら音楽研究に力を注いでいる。帰国後、現在まで、ベジェ大学で後学の指導にあたる一方、アンディ・ムジーク・ベートーベン・シリーズv 協演 (テジョン文化芸術の殿堂)、韓国ピアノ協会定期演奏 (ソウル芸術の殿堂)、帰国リサイタル (テジョン文化芸術の殿堂)、ハンバック新人音楽会 (テジョン文化芸術の殿堂)、最近では、2013 サマーニューアーティストに選ばれて演奏するなど、国内での様々な演奏活動を通して聴衆の心をとらえている。Prof N.Kryzanowski、ボブ・フェルステーフ、武田牧子・ヘルムス、ヴォルフガング・マンツに師事。

ソン・ジウォン (ヴァイオリン)

ソウル芸術高等学校、ソウル大学音大、同大学院を経て、ドイツに留学し、ケルン音楽大学最高演奏者過程を優秀な成績で卒業。若くして朝鮮日報コンクール入選、世界日報コンクール大賞、KBS 新人音楽コンクール銀賞、ロベルト・カネッティ国際ヴァイオリンコンクール (リスボン) 3 位、釜山音楽コンクール入賞、ヘッセン・ライオンズ・ミュージック国際コンクール (独) 入賞など、国内外のコンクールで多数受賞し、実力を認められてきた。また、パブロ・カザルス・フェスティバル、ティボール・ヴァルガ国際音楽アカデミー、日本の宮崎ミュージックフェスティバル、大關嶺国際音楽祭など、ドイツ、ロシア、スペイン、スウェーデン、日本、ギリシャなどで開催されたマスタークラスに参加、あるいは演奏活動を通し、幅広いレパートリーを身につけてきた。

若者音楽祭、カルテット・ラメールのメンバーとして、日本・宮崎でのアイザック・スターン追悼音楽祭や錦湖ヤング・アーティスト・コンサートに出演したほか、テジョン市響との協演を皮切りに、ソウルバロック合奏団、ソウル大音大交響楽団 (芸術の殿堂コンサートホール、イム・ホンジョン指揮)、KBS 交

響楽団、ユニ・ストリング・アンサンブル、ソウル大音大弦楽オーケストラ、Virtuoso Brunnsis (ドイツ・カーセル、フランクフルトなど 5 都市ツアー)、ドイツ・クロステンバー・オーケストラ、プライム・フィルハーモニー・オーケストラ、群山市響、チェンバー・プレイヤーズ 21 と協演し、ドイツ・デュッセルドルフ・シンフォニーの代表メンバーとして、アジアン・フィルハーモニー・オーケストラのメンバーに招じられ、チョン・ミョンフン指揮により、韓国、中国、日本での演奏ツアーに参加するなど、数々の舞台で演奏活動を行ってきた。また、朝鮮日報新人音楽会への出演、霊山グレースホール、錦湖招請音楽会デュオ・リサイタル、錦湖ヤング・アーティスト・コンサートで独奏会、ドイツ Haus Rodehorst、ヘイリのカメラータホールで多数の独奏会を開き、好評を得た。帰国後、霊山グレースホール、金曜招待音楽会、芸術の殿堂リサイタルホールでの帰国独奏会に続き、テジョン文化芸術の殿堂のサマー・ニュー・アーティストに選ばれ、独奏会を成功裏に終えた。一昨年に続き、昨年も芸術の殿堂リサイタルホールで独奏会を開いている。国内では、キム・ヨンウク、チョン・ジョンホ、イ・ソニ、イ・ギョンソン、イ・スンイク教授に、海外ではイハエラ・マーティンに師事した彼女は、ハンブルク・シンフォニー第一バイオリン首席、デュッセルドルフ・シンフォニー第二バイオリン首席奏者を歴任し、中央大学、江南大学講師、インジェ大学外来教授を経て、現在、ソウル大学、漢陽大学で後学の指導にあたる一方、ファウム・チェンバー・オーケストラの一員として旺盛な演奏活動を展開している。

ホン・ソユ (ピアノ)

ソウル芸術高等学校を卒業後、延世大学でピアノを専攻し、同大学に首席で入学、実技奨学生として伴奏学の修士課程を取得。ピアニストとして韓国日報、国民日報、サミック音楽コンクールなどに入賞、延世大学オーケストラ・オーディションで優勝し、延世大学および KAIS などに招請されて協演し、ミュージック・アルプス・フェスティバル・イン・クールシュヴェル (仏)、サンタクルス・サマーピアノアカデミー (西) などにも参加。

以後、器楽伴奏者として大關嶺国際音楽祭、サンタバーバラ・ミュージック・アカデミー・オブ・ザ・ウェスト、アローナ音楽祭 (西・テネリフェ島)、ソウル国際音楽コンクール、ヴィエニャフスキ国際コンクールなどで公式伴奏者として活動し、パブロ・サラサーテ国際ヴァイオリン・コンクール (西)、宗次エンジェルヴァイオリンコンクール (名古屋)、ヨハネス・ブラームス国際コンクール、ユーリー・バシュメット国際ヴァイオリン・コンクールやソウル・スプリング・ミュージック・フェスティバル、ムジカ・イン・コリーナ・ラベドーナ・フェスティバル (伊) などにも参加。

アン・エッパソン、ジョナサン・フェルドマンらのマスタークラスだけでなく、ヴァイオリニスト=イ・スンイク、キム・スビン、チェリスト=ヤン・ソンウォン、ソン・ヨンフン、フルート奏者=ジャン・フェランディスなど、国内外の一流演奏者との独奏会など活発な演奏活動を行っており、現在、モクウォン大学伴奏学部で後学の指導にあっている。

映画

映画「この空の花 ー長岡花火物語」上映＋トークショー

1 事業概要

青森県立美術館舞台芸術総監督の長谷川孝治が原作を提供した、大林宣彦監督の映画「この空の花 ー長岡花火物語」を上映。また、作品世界をより深く知るため、大林宣彦監督本人をお招きし、長谷川とのトークショーを開催した。

主催：青森県立美術館パフォーミングアーツ推進実行委員会、青森県立美術館

2 公演詳細

会場：青森県立美術館シアター

席数：200席（全席自由）

日時：4月27日（土）

13時開演（12時30分開場）、15時55分トークショー

上映作品：「この空の花 ー長岡花火物語」

（2012年 日本 カラー 160分 ブルーレイ）

トークショー出演者：

大林宣彦（映画作家）、長谷川孝治（青森県立美術館舞台芸術総監督）

聞き手：橋本康成（青森放送）

観客動員数：228人（うち、学生招待18人・一般招待78人）

※映画上映とトークショーを合わせた延べ人数

3 入場料金・チケット販売

前売：一般1,200円／学生1,000円（当日は300円増）

※県内の小・中・高校生を先着60名まで無料招待

チケット販売場所：

- ・青森市 サンロード青森、成田本店しんまち店、青森県立美術館ミュージアムショップ
- ・弘前市 日弘楽器

4 トークショー出演者プロフィール

大林 宣彦（映画監督）

1938年、広島県尾道市出身。3歳のときに自宅で出会った活動写真機で、個人映画の製作を始める。1964年頃からTVCMの制作に携わり、2000本以上もの作品を生み出す。1977年に公開された『HOUSE／ハウス』で劇場映画に進出。以後、『ねらわれた学園』（1981年）、『青春デンデケデケデケ』（1992年）、『理由』（2004年）をはじめとする数多くの作品をコンスタン

トに発表。なかでも、故郷で撮影された『転校生』（1982年）、『時をかける少女』（1983年）、『さびしんぼう』（1985年）は“尾道三部作”と称され、そのリメイク版“新・尾道三部作”も含め、多くの映画ファンたちに愛され続けている。また、第21回日本文芸大賞・特別賞を受賞した『日日世は好日』など、著書も多数発表している。2004年春には紫綬褒章を、そして2009年秋に旭日小綬章を受章。2011年、「この空の花 ー長岡花火物語」を発表。

橋本 康成（青森放送制作局長）

1959年、三沢市出身。1983年、青森放送にアナウンサーとして入社。1989年、ディレクターに転身。その後、ディレクターとパーソナリティを巧みに使い分け、日本テレビ「GATCHA！」RABラジオ「金曜ワラッター！」「木曜ワラッター！」青森放送「出会いふれあい生テレビ」を担当する。2001年に制作したドキュメンタリー「盲目の名馬タカラコスモス」で日本民間放送連盟賞テレビエンターテイメント部門優秀賞、2004年「じいちゃんばあちゃんと夏休み」で日本民間放送連盟賞テレビエンターテイメント部門優秀賞を受賞している。2006年には11年ぶりにラジオ「土曜ワラッター！」を復活。



トークショーの様子（左：大林宣彦氏）

5 広報宣伝、営業概要

宣伝：

上映会宣材物として、チラシ・ポスターを作成し、青森県内映画館、PA顧客等へダイレクトメールの配布を実施した。

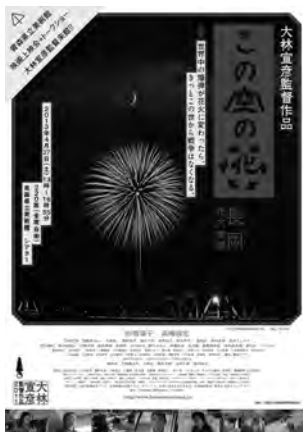
また、小・中・高校生無料招待の周知のため、青森市内全小学校・中学校・高等学校へチラシを送付、対象の児童・生徒全員へのチラシ配布を実施した。

・チラシ

(B5版／カラー) 3,000枚、(A4版／白黒) 25,000枚

・ポスター (B1版) 10枚、(B2版) 20枚

広報：新聞各社において告知・公演開催の様様を取材依頼。



上映会チラシ

6 その他

上映会終了後、トークショー聞き手である、橋本康成氏がパーソナリティを務める、RABラジオ「土曜ワラッター！」に、大林宣彦氏・長谷川孝治がゲスト出演した。

出演番組：「土曜ワラッター！」

放送局：RABラジオ

放送日時：4月27日(土) 18:05 - 23:30 (生放送)

出演時間：19:00 - 20:00 (60分)

サービス等

貸館

図書室

キッズルーム・フリーアトリエ

博物館実習

貸館

使用施設について

(1) 使用目的

展覧会や作品の創作活動、映像、演劇及び音楽などの芸術活動の発表、練習の場として本県の芸術振興に資する使用であること。

(2) 使用料

① 展示施設を使用する場合

■ コミュニティギャラリー

室名 (面積)	使用料 (入場料等を徴収しない場合)		
	9:30 - 21:00	13:00 - 17:00	左記以外の時間帯
A (148.76㎡)	2,130円	3,400円	1時間 850円
B (60.47㎡)	880円	1,400円	1時間 350円
C (131.30㎡)	1,880円	3,000円	1時間 750円

- ※ 1 入場料等を徴収する場合は、上記使用料の2倍とします。
 ※ 2 コミュニティギャラリーの1室が使用されている場合、他のコミュニティギャラリーが使用できない場合があります。

■ 企画展示室

室名 (面積)	使用料 (入場料等を徴収しない場合)		
	9:30 - 21:00	13:00 - 17:00	左記以外の時間帯
A (182.70㎡)	2,500円	4,000円	1時間 1,000円
B (140.39㎡)	2,000円	3,200円	1時間 800円
C (389.51㎡)	5,500円	8,800円	1時間 2,200円
D (228.06㎡)	3,250円	5,200円	1時間 1,300円
E (105.91㎡)	1,500円	2,400円	1時間 600円
映像室 (70.38㎡)	1,000円	1,600円	1時間 400円

- ※ 1 入場料等を徴収する場合は、上記使用料の2倍とします。
 ※ 2 企画展示室の使用については、県立美術館との共催事業に限ります。

② シアター等を使用する場合

室名 (面積)	使用料 (入場料等を徴収しない場合)
シアター [220席] (348.20㎡)	1時間 2,400円
映写室 (36.36㎡)	1時間 260円
アナウンスブース (6.35㎡)	1時間 50円
ワークショップ A (124.38㎡)	1時間 900円
ワークショップ B (185.28㎡)	1時間 1,300円
暗室 (22.45㎡)	1時間 160円
スタジオ (100.98㎡)	1時間 720円
映像編集室 (24.77㎡)	1時間 180円
スタジオ映写室 (28.88㎡)	1時間 210円

- ※ 1 入場料等を徴収する場合は、上記使用料の2倍とします。
 ※ 2 暗室は、ワークショップ A を利用する場合、又はワークショップ A が利用されていないとき使用できます。
 ※ 3 映写室、アナウンスブースは、シアターを利用する場合、使用できます。
 ※ 4 映像編集室、スタジオ映写室は、スタジオを利用する場合、使用できます。

(3) 使用期間

① 展示施設

- ・コミュニティギャラリーは原則として月曜日始まり、日曜日終わりの1週間単位での使用期間とし、同一の利用者について引き続き5週間を超えることはできません。
- ・企画展示室については1週間単位での使用期間とし、同一の利用者について引き続き5週間を超えることはできません。

② シアター等

- ・1時間単位での使用期間とし、同一の利用者について引き続き10日を超えることはできません。

③ 美術館のすべての施設

- ・美術館の休館日は、使用できません。(準備、撤去作業の場合は除く。)
- ・毎年度日数を定めて開催している展覧会や上記使用期間では開催目的が達成されない場合において必要と認められるときは、使用期間を変更できるものとします。

(4) 使用時間

- ① 美術館の施設使用時間は、美術館の開館時間〔9時30分から17時まで(6月-9月は、9時から18時)〕とします。なお、施設使用上やむを得ない理由があると認められる場合には、閉館後、1時間単位で21時(シアター利用に限り22時)まで延長することができます。開館時間前の使用については、ご相談ください。

- ② 施設使用時間には、展覧会等の準備の時間及び撤収の時間も含まれます。(延長した場合であっても21時(シアターについては22時)には撤収が完了していなければなりません。)

- ③ 展示施設は、9時30分から12時、13時から17時の使用区分とし、それ以外は1時間単位での使用とします。

- ④ シアター等は、1時間単位での使用とします。

■企画展示室

(単位：人)

使用期間	使用者	展覧会名等	使用施設	入場者数
3/16-6/9	青森放送(株)、(株)東奥日報	大哺乳類展	A B C D E 映像室 シアター 映写室 ワークショップA	84,166
9/6-11/28	(株)青森テレビ	吉村作治のエジプトと古代文明展	A B C D E 映像室	25,550

※大哺乳類展の入場者数は4/1-6/9までの分

■コミュニティギャラリー

(単位：人)

使用期間	使用者	展覧会名等	使用施設	入場者数
4/18-5/9	望月好夫展実行委員会	望月好夫展	A B C	4,287
5/10-5/12	(株)阿部重組	第21回未来をのぞく住宅展	A B C	100
5/20	(株)パティーズ	青森スタイリストアワード	A B C スタジオ	100
6/5-6/9	フォトスタジオらいず	「海沿いの町」伊藤俊幸写真展	A C	398
8/31-9/1	住友生命保険相互会社	第37回スミセイこども絵画コンクール	A B C	680
9/6-9/8	光和コンピューター	写真展「CDC Open Photo Debut」	B	152
9/20-9/29	毎日書道展実行委員会	毎日書道展	A B C シアター	1,100
10/2-10/7	青森県文化振興会議	第54回青森県美術展覧会「県展2013」	A B C	1,709
11/1-11/4	住まいのエコロジー展実行委員会	住まいのエコロジー展	A B C ワークショップB	489
11/7-11/10	柳谷 俊彦	柳谷俊彦作品展	B C	107
11/9-11/10	平館福祉会	kefa作品展2013	A	100
11/12-11/13	角田 聡	Satoshi Kakuta Trio Session #7	B	10
11/14-11/17	三菱テクノサービス(株)東北支社	絵画展「口と足で表現する世界の芸術家たち」	A B C	1,020
11/22-11/24	村木 裕俊	シリア写真展 Portrait Of Syria	A B C	380
11/29-12/1	M O A美術館青森児童作品展実行	第25回M O A美術館青森児童作品展	A B C シアター	1,650
12/6-12/8	青森県高等学校文化連盟写真部	第35回青森地区高等学校写真展	A B C	200
1/9-1/12	青森県中学校教育研究会	第27回青森県中学校選抜美術展	A B C	458
2/11-2/24	青森県地域活力振興課	Art Of JOMON in AOMORI	A B C	1,098
3/7-3/9	A S J 八戸スタジオ	未来をのぞく住宅展	A B C	86
3/28-4/6	サッポロ未来展実行委員会	サッポロ未来展 in Sapporo & Aomori	A B C ワークショップA	503

■シアター・映写室

(単位：人)

使用期間	使用者	展覧会名等	使用施設	入場者数
4/14	青森放送(株)	くじらのお話し会	シアター	140
5/19	青森放送(株)	くじらのお話し会	シアター	150
7/18-19,22	笹川 皇人	津軽三味線演奏レコーディング	シアター 映写室	0
7/26-28	(有)弘前劇場	弘前劇場公演2013「最後の授業」	シアター 映写室 スタジオ	220
9/11	(株)ジー・アイ・ピー	クラムボンコンサート	シアター	125
9/14-9/15	(株)青森テレビ	吉村作治講演	シアター 映写室	455
11/9-11/10	青森中央短期大学	ひとり芝居のっぼさんの宮澤賢治 「ぼくは賢治さんが大好き！」	シアター 映写室	406
2/14	(株)R A B 企画	東北町V P撮影	シアター 映写室 スタジオ	40
2/27-3/2	(有)弘前劇場	演劇公演「アザミ」	シアター 映写室 スタジオ	412

■ワークショップ

(単位：人)

使用期間	使用者	展覧会名等	使用施設	入場者数
1/6	青森市小学校教育研究会	教員研修	B	70
2/22	インテリア産業協会東北支部	講演会「民芸のある美しい暮らし」及びワークショップ	A	50

合計 100,358 人

図書室

概要

図書室は、館の美術情報センターとしての機能を担い、美術に関する図書資料情報を収集、整理、保存、提供することで美術の普及を図ることを目的として、一般開放している。

具体的には、美術に関する専門ライブラリとして、来館者に対し、当館所蔵作品・作家に関するものをはじめ、美術に関する知識を深める図書資料情報の提供、閲覧、美術及び図書資料に関する相談受付（レファレンス）、他美術館等の展覧会情報の提供等を行っている。

また、図書室所蔵の絵本を利用し、当館キッズルームでおはなし会を開催するなど、当館の美術教育普及事業の支援機関としての機能も担っている。

設備：来館者用パソコン端末 2台、図書閲覧席 20席

開館日・開室時間：美術館開館日の10:00 - 16:00

図書資料の収集方針

「青森県立美術館作品収蔵基本方針」に準じ、1) 近・現代の青森県出身作家及びゆかりのある作家に関するもの、2) 青森県以外の近・現代の美術状況に対応するために必要な優れた美術作品に関するもの、3) 今に生きる県民の心の原点に関わり、未来に資するもの、4) 1-3を理解するために必要なもの、を購入および寄贈により収集した。

蔵書数

(平成25年度3月末現在)

- ・美術図書 4,112冊
- ・デザイン・建築関係図書 429冊
- ・写真関係図書 370冊
- ・絵本・イラスト関係図書 1,274冊
- ・民俗・歴史関係図書 354冊
- ・音楽・映画・舞台関係図書 766冊
- ・展覧会カタログ 10,861冊
- ・その他（自然科学、文学など）1,995冊
- ・雑誌（60タイトル）9,001冊 ※継続購入は23タイトル

サービス

- ・図書資料閲覧
- ・所蔵美術作品、蔵書のデータベース検索
- ・美術に関する映像ソフトの鑑賞
- ・美術に関する図書資料に係る相談受付（レファレンス）
- ・美術に関するポスターやチラシの設置
- ・当館に関する情報の掲載誌の閲覧

実績

開室日数：331日

利用者数：6,818人

レファレンス利用件数：10件

	開室日数（日）		入室者数（人）		レファレンス（件）	
	月計	月計	1日平均	月計	1日平均	
4月	29	789	27.2	1	0.0	
5月	30	954	31.8	0	0.0	
6月	24	462	19.3	1	0.0	
7月	30	438	14.6	1	0.0	
8月	31	977	31.5	0	0.0	
9月	24	710	29.6	4	0.2	
10月	30	727	24.2	1	0.0	
11月	29	753	26.0	0	0.0	
12月	22	175	8.0	1	0.0	
1月	30	258	8.6	1	0.0	
2月	22	203	9.2	0	0.0	
3月	30	372	12.4	0	0.0	
計	331	6,818	20.6	10	0.0	

事業

1 美術館事業への支援・事業との連携

当館で行う常設展示及び企画展示と連携し、開催期間中、所蔵図書資料のうち展示に関連する資料を展示用書架にて紹介した。

また、当館キッズルームで行ったおはなし会に所蔵絵本を活用した。

2 他の美術館・関係団体等との連携

「新着カタログコーナー」にて、新しく受け入れた他美術館の展覧会カタログを継続的に紹介した。

キッズルーム・フリーアトリエ

概要

絵本やお絵かき、積み木などを親子で楽しむことを通じて、子どもたちの美術への関心を高めることを目的として、地下1階「キッズルーム」及びワークショップ前廊下のスペースを利用した「フリーアトリエ」を、来館者の多い土日祝日と企画展開催時の平日に無料で開放している。

「キッズルーム」は、約500冊の絵本をはじめとして、スイスのnaef（ネフ）社製やおもり木製玩具研究会「わらはんど」製作の色や形の美しい積み木などを楽しめる空間で、また、「フリーアトリエ」は、紙や粘土などを常置し、お絵かきやものづくりを自由に楽しめる空間となっている。

また、当館サポートスタッフによる「おはなし会」を定期的で開催し、絵本や工作などを通じて美術や美術館への関心を高める活動を行っている。

利用実績

開室時間：土日祝日及び企画展開催時の平日 10:00 - 15:00

平成25年度キッズルーム利用実績

	開室日数(日)	入室者数(人)			月計	平均
	月計	こども	おとな	月計		
4月	29	413	443	856	29.5	
5月	30	300	351	651	21.7	
6月	15	160	168	328	21.9	
7月	25	141	139	280	11.2	
8月	31	240	267	507	16.4	
9月	24	120	139	259	10.8	
10月	30	190	205	395	13.2	
11月	14	217	222	439	31.4	
12月	18	44	51	95	5.3	
1月	29	64	98	162	5.6	
2月	22	55	68	123	5.6	
3月	29	74	98	172	5.9	
計	296	2,018	2,249	4,267	14.4	

「キッズルームおはなし会」実施状況

未就学児とその保護者を主な対象に、美術や美術館に親しみを持たせ、絵本読み聞かせ、美術体験などを行う「おはなし会」を開催した。

企画運営は、当館サポートスタッフが担当した。

- (1) 4月27日(土) 11:00 - 12:00 さらさらとあそぶ
- (2) 5月25日(土) 11:00 - 12:00 だるまとあそぶ
- (3) 6月22日(土) 11:00 - 12:00 うみとあそぶ
- (4) 7月27日(土) 11:00 - 12:00 びしょびしょとあそぶ
- (5) 8月24日(土) 11:00 - 12:00 うみとあそぶ②

- (6) 9月28日(土) 11:00 - 12:00 おととあそぶ
- (7) 10月26日(土) 11:00 - 12:00 ぴかぴかとあそぶ
- (8) 11月23日(土) 11:00 - 12:00 かげとあそぶ
- (9) 2014年1月25日(土) 11:00 - 12:00 もじとあそぶ
- (10) 2014年2月22日(土) 11:00 - 12:00 ゆきとあそぶ

全10回開催 参加者：1,026人



絵本読み聞かせ



美術体験「うみとあそぶ」

博物館実習

概要

博物館法施行規則第1条に定められた学芸員資格取得に関する博物館実習を実施した。

実施内容：美術館における諸活動（展示・収蔵・教育普及等）

期間：2013年8月22日（木）－8月26日（月）

実習指導：青森県立美術館職員他

実習生：5名

岩手大学（1名）、弘前学院大学（1名）、弘前大学（3名）

第5日目 8月26日（月）

- ・[演習] 展覧会を企画してみよう
- ・[演習] 企画した展覧会を発表してみよう
- ・実習日誌作成

プログラム

平成25年度 博物館（美術館）学芸員実習日程

第1日目 8月22日（木）

- ・オリエンテーション
- ・青森県立美術館の概要
- ・学芸員の仕事
- ・美術館の施設およびサイン計画（＋施設見学）
- ・美術館におけるパフォーミングアーツ活動
- ・実習日誌作成

第2日目 8月23日（金）

- ・コレクションの形成
- ・作品の保存・管理
- ・作品の取扱いおよび調書作成（日本画、油彩画、立体、紙作品）
- ・地域に根ざした美術館の役割
- ・地域の芸術文化の発信
- ・実習日誌作成

第3日目 8月24日（土）

- ・来館者対応、ホスピタリティー
- ・展覧会の普及活動（＋おはなし会等参加）
- ・展覧会の企画と実施（「種差 一よみがえれ 浜の記憶」展見学を含む）
- ・実習日誌作成

第4日目 8月25日（日）

- ・展覧会の運営および広報活動
- ・展示デザイン（展示方法、造作、照明、キャプション等）
- ・展覧会の企画と実施（企画展関連企画「プロメテの火」公演見学）
- ・[演習] 展覧会を企画してみよう
- ・実習日誌作成

資料

広報

広聴

入館者数

運営予算・決算

組織

関係規程等

施設設備概要

広報

県の広報媒体を活用した広報活動や、Twitter・Facebook等のソーシャルメディアネットワークによる活動を展開した。

(1) 県広報による実績

- ・ABA「メッセージ」
- ・RAB「活彩あおもり」
- ・ATV「森の雫」
- ・RAB ラジオ「広報タイム」
- ・エフエム青森「情報ぱれっと」
- ・メルマガあおもり
- ・東奥日報、デーリー東北、陸奥新報「広報あおもりけん」
- ・県民だより
- ・Ustream「あおもり県庁なう」

(2) ソーシャルメディアネットワーク

- ・Twitter
アカウント：aomori_museum_of_art@aomorikenbi
- ・Facebook
アカウント：https://www.facebook.com/aomori.museum
- ・Youtube
アカウント：http://www.youtube.com/user/aomorikenbi

(3) ホームページ

URL：http://www.aomori-museum.jp（PC版）
http://www.aomori-museum.jp/ja_mobile（モバイル版）
年間アクセス数（2013.4 - 2014.3）：470,423件

(4) 雑誌等掲載実績（主なもの、順不同）

- ・美術手帖
 - ・美術の窓
 - ・rakra
 - ・じゃらん
 - ・マップル
 - ・るるぶ
 - ・ことりっぶ
 - ・日本の現代建築
 - ・日本の美術館ベスト250
 - ・ニッポンの名建築を旅する
 - ・和楽
 - ・日経大人のOFF
 - ・MORE
 - ・Hanako
- ほか多数

広聴

青森県立美術館運営諮問会議

青森県立美術館の使命に基づく運営の実現に向けて、芸術文化に造詣のある者から指導及び協力を受けるため設置。

知事の諮問に応じて美術館の運営に関する重要事項について審議し、意見を述べるほか、美術館の運営に関する助言を行う。

青森県立美術館運営諮問会議委員：
青木淳氏（青森県立美術館設計者）
奈良美智氏（本県出身アーティスト）
熊倉純子氏（東京芸術大学音楽学部教授）

開催状況

第13回

開催日：2014年3月20日（木）

会場：青森県ビジネスサポートセンター会議室（東京都中央区）

県民のための美術館づくり懇話会

県民に親しまれ、愛される美術館づくりを推進するため、県民の意見・要望を美術館づくりに反映させることを目的に設置。

平成25年度

第1回懇話会委員

座長：一町田工（三内丸山応援隊長）
副座長：村山康子（前十和田市現代美術館館長）
委員：中村泰子（青森市立千刈小学校校長）
委員：野坂佳孝（十和田市立南小学校教諭）
委員：大黒亜紗子（はちえきキャンパス in 八日町スタッフ）
委員：増田由美子（フリーアナウンサー）
委員：成田英久範（青森県立美術館サポートスタッフ）
委員：鷹山ひばり（青森県立美術館館長）

第2回懇話会委員

座長：長尾慶子（青森市立橋本小学校校長）
副座長：新渡戸常憲（十和田市立新渡戸記念館館長）
委員：江川静英（青森大学経営学部教授）
委員：野坂佳孝（十和田市立南小学校教諭）
委員：北川ちや子（青森県立美術館サポートスタッフ）
委員：小倉学（八戸クリニック街かどミュージアム研究員）
委員：鷹山ひばり（青森県立美術館館長）

開催状況

第1回

開催日：2013年9月28日（土）

会場：青森県立美術館

第2回

開催日：2014年2月22日（土）

会場：青森県立美術館

入館者数

(単位：人)

		18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度①	25年度②	増減(②-①)
常設展	一般観覧者	193,501	89,229	109,609	190,672	233,192	141,904	177,266	179,793	2,527
	スクールプログラム	12,685	6,968	6,668	9,098	11,574	6,777	5,798	3,712	△ 2,086
	常設展計	206,186	96,197	116,277	199,770	244,766	148,681	183,064	183,505	441
企画展	シャガール展	192,918								
	縄文と現代展	14,894								
	工藤甲人展	1,680	10,950							
	旅順博物館展		30,065							
	舞台芸術の世界展		6,282							
	棟方志功・崔榮林展		4,156							
	寺山修司展			9,533						
	大ナポレオン展			46,609						
	小島一郎展			8,660						
	ウィーン展				36,884					
	(特別展 太宰治と美術展)				(23,191)					
	馬場のぼる展				25,464					
	ラブラブショー				5,160					
	ローマ展					45,622				
	ロボット展					25,076				
	芸術の青森展					3,530				
	印象派展						105,758			
	今和次郎展						4,807			
	フィンランド展							31,876		
	Art and Air 展							18,267		
	奈良美智展							80,275		
種差展								16,807		
横尾忠則展								10,516		
日本の民家展								5,115		
企画展計	209,492	51,453	64,802	90,699	74,228	110,565	130,418	32,438	△ 97,980	
教育普及	スクールプログラム	18,775	9,905	9,242	7,087	7,272	7,368	6,310	5,792	△ 518
	普及プログラム	2,300	2,148	2,873	886	718	11,365	2,565	2,744	179
	お出かけ講座	1,196	1,587	1,122	1,119	537	1,250	1,022	1,245	223
	展示関係プログラム			625	1,526	7,546	1,328	909	1,738	829
	その他	500		464	266	399	387	351	136	△ 215
教育普及計	22,771	13,640	14,326	10,884	16,472	21,698	11,157	11,655	498	
パフォーマンス アーツ	演劇	2,170	1,821	1,516	1,333	1,085	2,962	3,468	5,255	1,787
	ダンス			1,419	1,089	520			339	339
	音楽	1,559	471	1,583	1,959	970	979	1,133	810	△ 323
	映画	975	1,954	1,584	685				240	240
	パフォーマンスアーツ計	4,704	4,246	6,102	5,066	2,575	3,941	4,601	6,644	2,043
貸館	10,568	26,481	194,807	104,625	144,520	20,735	33,410	126,284	92,874	
図書室	2,552	7,727	12,910	10,012	7,864	6,561	10,688	6,818	△ 3,870	
キッズルーム		2,850	3,690	3,127	3,555	20,501	15,889	4,267	△ 11,622	
合計	456,273	202,594	412,914	424,183	493,980	332,682	389,227	371,611	△ 17,616	

※キッズルームは平成19年4月28日からオープン

※特別展太宰治と美術展入館者数は常設展入館者数に含む

運営予算・決算

平成 25 年度
一般会計予算額

(単位：千円)

事業名	収入	科目	支出	細目	説明
美術館費	46,873	使用料及び手数料	176,187	職員費	人件費
	1,794	財産収入			
	39,783	繰入金	509,292	美術館運営管理費	管理運営費、調査研究費、美術資料収集費、美術資料保存管理費、展示費、教育普及費、情報事業費、パフォーミングアーツ事業費 他
	76,207	諸収入			
	55,000	県債	15,734	公園管理費	三内丸山遺跡等管理費、青森県総合運動公園管理費
	481,556	一般財源			
合計	701,213		701,213		

平成 25 年度
一般会計決算額

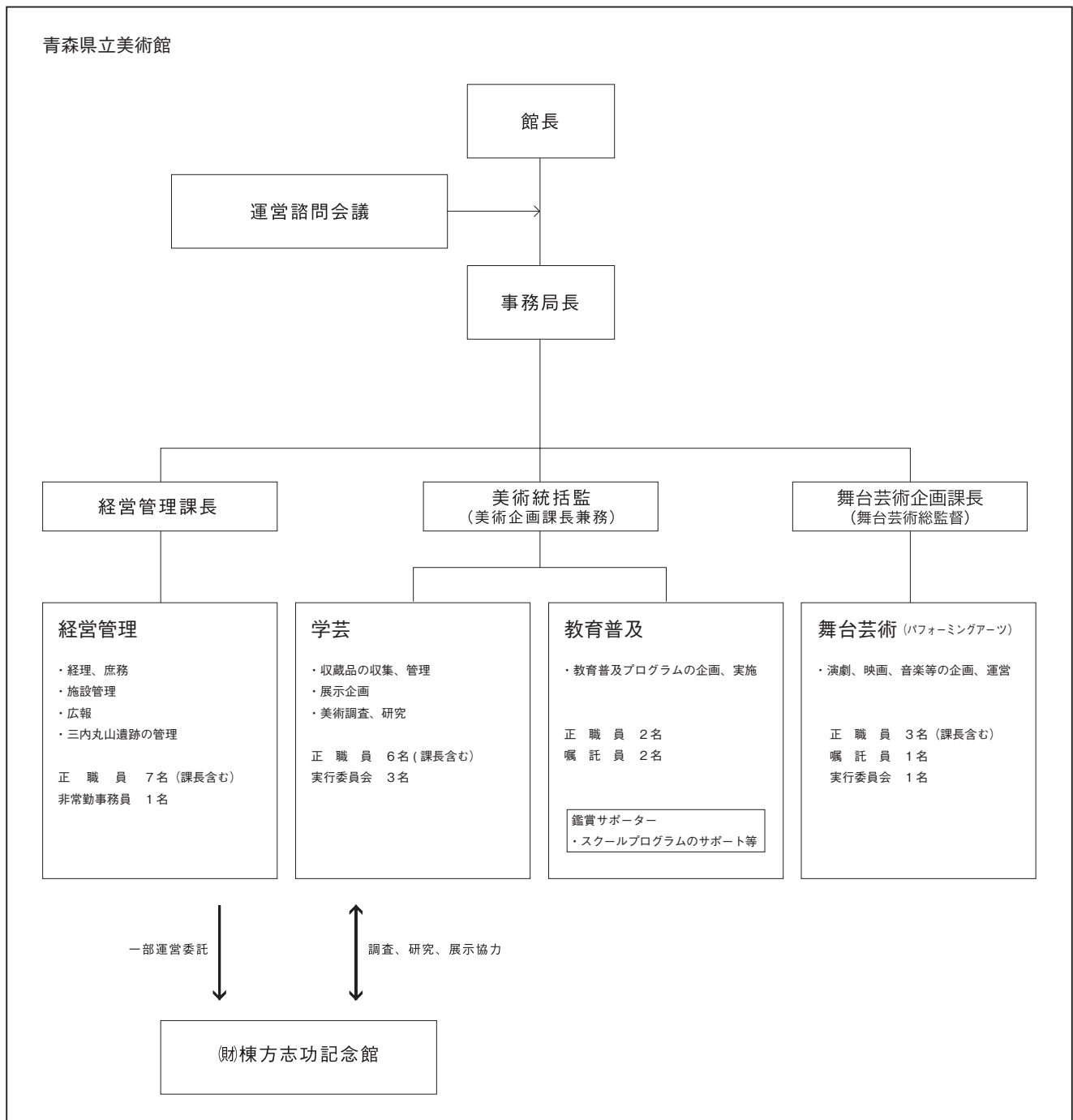
(単位：千円)

事業名	収入	科目	支出	細目	説明
美術館費	42,974	使用料及び手数料	159,324	職員費	人件費
	808	財産収入			
	76,264	繰入金	527,895	美術館運営管理費	管理運営費、調査研究費、美術資料収集費、美術資料保存管理費、展示費、教育普及費、情報事業費、パフォーミングアーツ事業費 他
	65,860	諸収入			
	55,000	県債	15,731	公園管理費	三内丸山遺跡等管理費、青森県総合運動公園管理費
	462,044	一般財源			
合計	702,950		702,950		

組織

- 県立美術館の運営は、運営諮問会議からの助言を得ながら行っている。
 - 文化観光の拠点形成を図る観点から、三内丸山遺跡（縄文時遊館を除く）との一体運営を行っている。
 - このために館長の下、県職員 19 人、嘱託員及び臨時職員 4 人の計 24 人が美術館運営にあっている。
- このほか、企画展実行委員会職員 3 名、パフォーミングアーツ実行委員会職員 1 名が配置されている。

(平成 25 年 4 月 1 日現在)



関係規程等

青森県立美術館条例

(設置)

第一条 美術その他の芸術の鑑賞及び学習の機会並びに創作活動の場の提供を行うことにより、県民の芸術に関する活動への参画を支援し、もって文化の振興を図るため、青森市に青森県立美術館（以下「美術館」という。）を設置する。

(業務)

第二条 美術館は、次に掲げる業務を行う。

- 一 美術品その他の芸術に関する資料（以下「美術品等」という。）の収集、保管及び展示に関すること。
- 二 美術品等の利用に関し必要な説明、助言及び指導に関すること。
- 三 美術品等に関する専門的、技術的な調査研究に関すること。
- 四 美術品等に関する案内書、解説書、目録、図録、年報、調査研究の報告書等の作成及び配布に関すること。
- 五 美術その他の芸術に関する講演会、講習会、映写会、研究会、公演会等の開催に関すること。
- 六 美術その他の芸術に関する情報の収集及び提供に関すること。
- 七 美術その他の芸術に関する創作活動の場の提供に関すること。
- 八 その他県民の芸術に関する活動への参画を支援するために必要な業務

(使用の承認)

第三条 別表第二号又は第三号に掲げる場合において、美術館の施設を使用しようとする者は、知事の承認を受けなければならない。

(使用料)

第四条 美術館の施設を使用する者（以下「使用者」という。）は、別表に定める使用料を納入しなければならない。

2 知事は、特別の理由があると認めるときは、前項の使用料の全部又は一部を免除することができる。

(使用の制限等)

第五条 知事は、使用者が次の各号のいずれかに該当する場合は、当該使用者の美術館の使用を拒み、その使用の承認を取り消し、又はその使用を制限することができる。

- 一 他の使用者に迷惑をかけ、又はそのおそれがあるとき。
- 二 美術館の施設、設備等をき損し、若しくは汚損し、又はそれらのおそれがあるとき。
- 三 この条例又はこの条例に基づく規則に違反したとき。

2 知事は、前項に規定する場合のほか、美術館の管理運営上支障があると認めるときは、美術館の使用を制限することができる。

(委任)

第六条 この条例に定めるもののほか、美術館の管理に関し必要な事項は、規則で定める。

附則

この条例は、規則で定める日から施行する。

別表（第三条、第四条関係）

一 美術品等の観覧のための使用の場合

区分	金額（一回につき）
常設展の観覧	一人につき 千円を超えない範囲内で知事が定める額
企画展の観覧	知事がその都度定める額

二 展示施設の使用の場合

イ 入場料その他これに類する料金を徴収しないで使用する場合

区分	金額		
	九時三十分から十二時まで	十三時から十七時まで	九時三十分以前、十二時から十三時まで及び十七時以降（一時間につき）
コミュニティギャラリーA	二千三百十円	三千四百円	八百五十円
コミュニティギャラリーB	八百八十円	千四百円	三百五十円
コミュニティギャラリーC	千八百八十円	三千円	七百五十円
展示室A	二千五百円	四千円	千円
展示室B	二千円	三千二百円	八百円
展示室C	五千五百円	八千八百円	二千二百円
展示室D	三千二百五十円	五千二百円	千三百円
展示室E	千五百円	二千四百円	六百円
映像室	千円	千六百円	四百円

ロ 入場料その他これに類する料金を徴収して使用する場合は、この場合の使用料の額の二倍に相当する額

三 シアター等の使用の場合

イ 入場料その他これに類する料金を徴収しないで使用する場合

区分	金額（一時間につき）
シアター	二千四百円
映写室	二百六十円
アナウンスブース	五十円
ワークショップA	九百円
ワークショップB	千三百円
暗室	百六十円
スタジオ	七百二十円
映像編集室	百八十円
スタジオ映写室	二百十円

ロ 入場料その他これに類する料金を徴収して使用する場合は、この場合の使用料の額の二倍に相当する額

四 食堂施設又は売店施設の使用の場合

知事が定める額

青森県告示第 五百二十五 号

青森県立美術館条例（平成十七年十月青森県条例第六十九号）別表第四号の規定により、青森県立美術館の食堂施設及び売店施設の使用料の額を次のとおり定める。

平成十八年七月十二日

青森県知事 三村申吾

区分	金額（一年につき）
食堂施設	八十三万四千八百円
売店施設	六十六万五千六百円

備考 使用期間が一年に満たないとき、又は使用期間に一年に満たない端数があるときは、その全期間又は端数部分について日割で計算する。

青森県立美術館規則

（趣旨）

第一条 この規則は、青森県立美術館条例（平成十七年十月青森県条例第六十九号。以下「条例」という。）第六条の規定に基づき、青森県立美術館（以下「美術館」という。）の管理に関し必要な事項を定めるものとする。

（開館時間）

第二条 美術館の開館時間は、午前九時三十分から午後五時まで（六月一日から九月三十日までの期間にあっては、午前九時から午後六時まで）とする。

2 美術館の事務局長は（以下「事務局長」という。）は、必要があると認めるときは、前項の開館時間を変更することができる。

（休館日等）

第三条 美術館の休館日は、次のとおりとする。

一 毎月第二、第四月曜日（その日が国民の祝日に関する法律（昭和二十三年法律第七十八号）に規定する休日にあたるときは、その翌日）

二 十二月二十七日から同月三十一日までの日

2 事務局長は、必要があると認めるときは、前項の休館日に開館し、又は同項の休館日以外に休館することができる。

（使用の承認の手續）

第四条 条例第三条の規定による使用の承認（以下「使用の承認」という。）を受けようとする者は、使用申込書を知事に提出しなければならない。

2 知事は、使用の承認をしたときは、当該申込者に使用承認書を交付するものとする。

（使用料の免除の申請）

第五条 条例第四条第二項の規定による使用料の免除を受けようとする者は、免除申請書を知事に提出しなければならない。

（使用の承認の取消し等）

第六条 事務局長は、美術館を使用する者（以下「使用者」という。）が不正な手段により使用の承認を受けたと認めるときは、その使用の承認を取り消し、又はその使用を制限する

ことができる。

（原状回復等）

第七条 使用者は、故意又は重大な過失により美術館の施設、設備、美術品その他の芸術に関する資料等をき損し、又は汚損したときは、原状に復し、又は現品若しくはそれに相当する代価をもって弁償しなければならない。

附則

この規則は、平成十八年七月十三日から施行する。

青森県立美術館管理規程

（趣旨）

第1条 この規程は、青森県立美術館条例（平成17年10月青森県条例第69号。以下「条例」という。）及び青森県立美術館規則（平成18年7月青森県規則第72号。以下「規則」という。）に定めるもののほか、青森県立美術館（以下「美術館」という。）の管理に関し必要な事項を定めるものとする。

（観覧券の交付）

第2条 条例別表第1号に定める使用料を納入した者に対し、観覧券を交付するものとする。

（使用の承認）

第3条 規則第4条第1項に規定する使用申込書の様式は、第1号様式とする。

2 規則第4条第2項に規定する使用承認書の様式は、第2号様式とする。

3 規則第4条に規定する使用承認の手續に関し必要な事項は、事務局長が別に定める。

（使用料の納付）

第4条 使用の許可を受けた者は、納入通知書により指定する日までに使用料を納入しなければならない。

（使用料の還付）

第5条 納付された使用料は、還付しない。ただし、天災その他利用者の責めによらない理由により美術館を使用できなくなった場合は、この限りではない。

2 前項ただし書きにより使用料の還付を受けようとする者は、使用料還付請求書（第3号様式）を事務局長に提出しなければならない。

（使用料等の免除）

第6条 事務局長は、条例別表第1号に規定する常設展の観覧が次の各号のいずれかに該当するときは、規則第5条の規定により使用料の全部又は一部を免除するものとし、その免除の額は、当該各号に定める額とする。

一 教育課程に基づく学習活動として観覧する小学校、中学校、中等教育学校前期課程及び特殊教育諸学校の児童、生徒及び引率する教職員が観覧するとき 使用料の全部の額

二 児童福祉法（昭和22年法律第164号）第7条に規定する児童福祉施設に入所している少年及び引率する当該施設の職員が観覧するとき 使用料の全部の額

三 身体障害者福祉法（昭和24年法律第283号）第15条

第4項の規定による身体障害者手帳の交付を受けている者及びその付添人が観覧するとき（ただし、免除する付添人は、当該障害者一人につき一人までとする。）使用料の全部の額

使用料の全部の額

五 前各号に掲げるもののほか、事務局長が特別の理由があると認めるとき 使用料の全部の額又は一部の額

2 前項第1号、第2号及び第5号に規定する常設展の使用料の免除を受けようとする者は、常設展の観覧使用料免除申請書（第4号様式）を事務局長に提出しなければならない。

3 事務局長は、条例別表第2号又は第3号に掲げる施設の使用が美術館の目的にふさわしい資料展示、講習会、研究会等のためであり、かつ、次の各号のいずれかに該当するときは使用料の全部又は一部を免除するものとし、その免除の額は、当該各号に定める額とする。

一 学校教育法（昭和22年法律26号）第1条に規定する学校が教育課程に基づく学習活動として使用するとき 使用料の全部の額

二 児童福祉法（昭和22年法律第164号）第7条に規定する児童福祉施設に入所している少年を対象とする事業に使用するとき 使用料の全部の額

三 身体障害者福祉法（昭和24年法律第283号）第15条第4項の規定による身体障害者手帳の交付を受けている者及びその付添人を対象とする事業に使用するとき 使用料の全部の額

四 精神保健及び精神障害者福祉に関する法律（昭和25年法律123号）第45条第2項の規定による精神障害者保健福祉手帳の交付を受けている者及び療育手帳の交付を受けている知的障害者とこれらの付添人を対象とする事業に使用するとき 使用料の全部の額

五 美術館を構成員とする実行委員会等が主催して使用するとき 事務局長が事案に即して相当と認める額又は使用料の全額

六 芸術の振興を目的として活動している団体が主体となって、美術館と共催し使用するとき 使用料の2分の1に相当する額を基本として事務局長が事案に即して相当と認める額

七 前各号に掲げる場合のほか、事務局長が特別の理由があると認めるとき 事務局長が定める額

4 前項に規定する施設の使用料の免除を受けようとする者は、施設使用料免除申請書（第5号様式）を事務局長に提出しなければならない。

（美術品等の貸出）

第7条 事務局長は、別に定めるところにより美術館の資料を貸し出すことができる。

（美術品等の寄託又は寄贈）

第8条 事務局長は、別に定めるところにより美術資料の寄託

又は寄贈を受けることができる。

（美術資料の特別観覧）

第9条 事務局長は、美術館に収蔵されている美術資料について学術研究等のために必要があると認めるときは、当該美術資料の模写、模造、撮影等（以下「特別観覧」という。）をさせることができる。

2 前項に規定する特別観覧をしようとする者は、特別観覧承認申請書（第6号様式）を事務局長に提出しなければならない。

附則

この規程は、平成18年7月13日から施行する。

この規程は、平成19年6月25日から施行する。

青森県立美術館運営諮問会議設置要綱

（趣旨）

第1 青森県立美術館（以下「美術館」という。）の使命に基づく運営の実現に向けて、芸術文化に造詣のある者から指導及び協力を受けるため、青森県立美術館運営諮問会議（以下「諮問会議」という。）を置く。

（所掌事務）

第2 諮問会議は、次に掲げる事項を所掌する。

（1）青森県立美術館長（以下「館長」という。）の諮問に応じて、美術館の運営に関する重要事項について審議し、意見を述べること。

（2）その他美術館の運営に関して助言を行うこと。

（組織等）

第3 諮問会議は、委員をもって組織する。

2 委員は、所掌事務に関して学識経験を有する者その他適当と認められる者から知事が委嘱する。

（任期）

第4 委員の任期は、委嘱をした日から当該委嘱をした日の属する年度の翌年度の3月31日までとする。ただし、委員が欠けた場合の補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

2 委員は、再任することができる。

（会議）

第5 諮問会議は、館長が招集する。

2 諮問会議の進行は、青森県立美術館事務局長が務める。

3 諮問会議には、委員の同意により必要に応じて委員以外の者を会議に出席させ、意見を求めることができる。

（庶務）

第6 諮問会議の庶務は、青森県立美術館経営管理課において処理する。

（その他）

第7 この要綱に定めるもののほか、会議の運営に関し必要な事項は、青森県立美術館事務局長が別に定める。

附則

1 この要綱は、平成17年12月1日から施行する。

2 第4第1項の規定にかかわらず、当初の委員の任期は、委

嘱をした日から平成 19 年 3 月 31 日までとする。

附 則

この要綱は、平成 21 年 10 月 1 日から施行する。

附 則

この要綱は、平成 23 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この要綱は、平成 25 年 3 月 21 日から施行する。

県民のための美術館づくり懇話会設置要綱

(趣旨)

第 1 県民に親しまれ、愛される美術館づくりを推進するため、県民の意見・要望を美術館づくりに反映させることを目的とし、県民のための美術館づくり懇話会（以下、「懇話会」という。）を設置する。

(構成)

第 2 懇話会は、10 名以内の委員をもって構成する。

(任期)

第 3 委員の任期は、年度最初の懇話会開催から 1 年とする。ただし、再任を妨げない。

(会議)

第 4 懇話会には、座長及び副座長を置く。

2 懇話会は、座長が招集する。

3 座長は、会議の進行を行う。

4 副座長は、座長を補佐し、座長が会議に出席できないときは、座長の職務を代理する。

5 座長は、必要に応じ委員以外の者を出席させることができる。

(報酬等)

第 5 委員の報酬は無償とする。

(庶務)

第 6 会議の庶務は、青森県立美術館が行う。

(補則)

第 7 この要綱に定めるもののほか、会議の運営に関し必要な事項は、座長が別に定める。

附則

この要綱は、平成 19 年 9 月 13 日から施行する。

施設設備概要

建設概要

施設名称 青森県立美術館
所在地 青森市大字安田字近野 185
主用途 美術館
事業主体 青森県
設計管理 青木淳建築計画事務所
構造 金箱構造設計事務所
設備 森村設計
音響 永田音響設計
土系素材 I N A X
施工 竹中・西松・奥村・北斗特定建設工事共同企業体
強電：きんでん・五十嵐・野呂特定建設工事共同企業体
弱電：奈良・高田特定建設工事共同企業体
空調：高砂・青木・佐藤設備特定建設工事共同企業体
衛生：芝管・五戸特定建設工事共同企業体
昇降機：三菱電機株式会社
面積
 敷地面積：129,536.37㎡
 建築面積：7,223.07㎡
 延床面積：21,222.19㎡
 地下2階：4,736.15㎡
 地下1階：3,965.11㎡
 1階：5,339.02㎡
 2階：2,403.81㎡
 3階（機械エリア）：4,778.10㎡
 建ぺい率：5.58%
 容積率：16.38%
階数 地下2階 地上3階
寸法
 最高高：16,160 mm
 軒高：15,150 mm
 階高：地下2階 2,300－19,000 mm
 地下1階 2,500－7,500 mm
 1階 2,700－11,000 mm
 2階 2,500－4,000 mm
 主なスパン：3,000 mm × 3,000 mm
地域・地区 都市計画区域内 市街化区域
構造 鉄骨鉄筋コンクリート造（地下1・2階）
 鉄骨造（地上1－3階）
 杭・基礎：杭基礎（PHC-ST 杭）600 φ・700 φ、
 （PHC 杭）600 φ

空調設備 A H U ・ 定風量単一ダクト方式、一部 F C U、空
 冷パッケージ方式
 熱源：冷温水発生機（320USRt、280USRt）、加湿
 用蒸気ボイラ
照明設備 スポットライト及び蛍光灯（調光設備・紫外線
 カット付）
消火設備 屋内消火栓、スプリンクラー、不活性ガス（窒素）
 消火、加圧式粉末 ABC 消火器
 設備項目：自火報・防排煙設備、屋内消火栓設備、
 スプリンクラー設備（開放型、予作動
 型）、窒素ガス消火設備（一部展示室、
 収蔵庫、熱源機械室）
排煙設備 機械排煙設備（3系統）
防犯設備 開館時、常時警備員巡回。展覧会開催中は会場内
 に監視員を置く。展示室内には監視カメラを設置
 し、監視室にて監視。
衛生設備 給水：受水槽（42 t）＋加圧給水ポンプユニット
 方式
 給湯：局所式（電気温水器）、ガス湯沸器（厨房）
 排水：ポンプアップ排水
電気設備 受電方式：高圧電力3φ3W 6,600 V 1 回線受電
 （業務用電力＋融雪電力）
 設備容量：2,650 kVA
 契約電力：660 kW
 予備電源：非常用発電設備 500 kVA、直流電源設
 備（非常照明用）
 設備項目：受変電設備、自家発電設備、幹線設備、
 動力設備、電灯設備、展示調光設備、
 避雷設備、外構設備、電話設備、情報
 設備、インターホン設備、誘導支援設
 備、テレビ共同受信設備、監視カメラ
 設備、機械警備設備、放送設備、中央
 監視設備、外構設備、演出照明設備（シ
 アター、スタジオ）、演出音響設備、映
 写設備（シアター）
昇降機 荷物用エレベータ1台 乗用エレベータ8台
設計期間 1999年12月－2002年3月
施工期間 2002年12月－2005年9月
外部仕上げ 屋根：ウレタン塗膜防水
 外壁：煉瓦＋アクリルシリコン塗装
 外構：コンクリート舗装ほうき目仕上げ
内部仕上げ 展示室（白）

床：カラーモルタル金こて押え t = 20 mm + 防塵
防汚塗装

壁：合板 t = 15 mm × 2 + プラスターボード t = 12
mm + 全面寒冷紗パテ処理 + EP

天井：合板 t = 12 mm + プラスターボード t = 9 mm
+ EP

展示室（土）

床：タタキ t = 50 mm

壁：版築 t = 200 mm

天井：合板 t = 12 mm + プラスターボード t = 9 mm
+ EP

コミュニティホール

床：クリフローリング t = 15 mm

壁：プラスターボード 12 mm × 2 + スタッコ

天井：人工木材ローズウッド練り付け

シアター

床：フェルト t = 8 mm + カーペット t = 7 mm

壁：プラスターボード t = 15 mm + グラスウール
ボード + エキスパンドメタル t = 6 mm（樹
脂コーティング処理）

天井：グラスウール + プラスターボード t = 15 mm
+ エキスパンドメタル t = 6 mm（樹脂コー
ティング処理）

オフィス

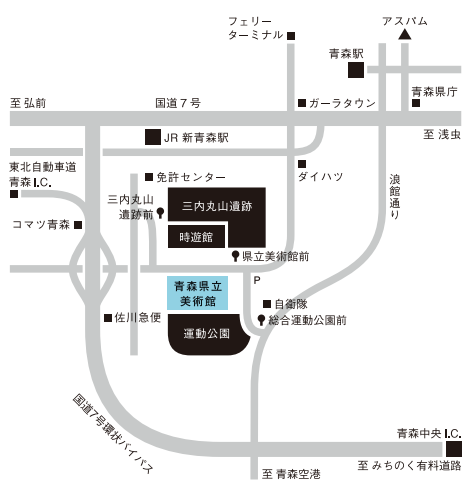
床：システム根太ユニット 600mm × 600mm +
コンパネ t = 12 mm + クリフローリング t =
15 mm

壁：プラスターボード t = 12 mm × 2 + EP

天井：プラスターボード t = 12 mm + 吸音板 t = 12
mm + EP

アクセス

- JR 新青森駅から車で約 10 分
- 青森駅から車で約 20 分
- 青森空港から車で約 20 分
- 東北縦貫自動車道青森 I.C. から車で約 5 分
- (八戸方面から) 青森自動車道青森中央 I.C. から車で約 10 分
- 市営バス青森駅前 6 番バス停から運転免許センター行き「県立美術館前」下車 (所要時間約 20 分)
- ルートバスねぶたん号 (左回り) 新青森駅南口バス停から乗車「県立美術館前」下車 (所要時間約 10 分)



青森県立美術館年報

平成 25 年度

編集・発行：青森県立美術館

青森市安田字近野 185 038-0021

017-783-3000

表紙デザイン：菊地敦己

印刷：青森オフセット印刷株式会社

発行日：2014 年 6 月